

第149図 第29号住居跡・出土遺物実測図

覆土 14層からなる。含有物が均等に含まれ、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	14 暗褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片116点（坏類46，甕類70），土製品1点（紡錘車），石材6点の他，埋没する過程で混入した縄文土器片1点，弥生土器片1点，須恵器片15点（坏類12，甕類2，壺1）が出土している。343は竈前面の床面付近と中央南寄りから破片の状態で，DP13は竈内からそれぞれ出土している。

所見 時期は，竈の位置や出土土器などから10世紀後半以降と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表 (第149図)

番号	種別	容器	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
343	土師器	壺	[23.0]	(12.2)	—	石英・長石・雲母	褐	普通	内面横ナデ	床面	10%

番号	器種	直径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D P 13	粘焼草	[8.0]	0.8	[1.3]	(8.6)	長石・雲母	高台付平底部転用、外周・高台底部部部変形	竈	

第31号住居跡 (第150図)

位置 調査区西部のJ1613区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第30・32号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.0m、短軸3.3mの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は20~25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、竈2の前面からP1にかけてが踏み固められている。壁溝は北壁を巡っており、断面はU字形である。

竈 2 基礎認められている。竈1は東壁の南寄りに構築されている。規模は焼き口部から煙道部先端まで101cm、竈の掘り込み幅は72cmである。煙道部は壁外へ60cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落しており、第3・6~8層が対応する上層と考えられ、袖部も失われている。火床部は地山を掘り込んでおり、火床面が赤変している。

竈1土層解説

1	暗褐色	焼土粒子微量	8	灰黄褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
3	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量
4	灰黄褐色	焼土粒子少量	11	暗褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子微量
6	灰褐色	粘土粒子多量	13	黒褐色	炭化物・焼土粒子微量
7	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子微量			

竈2は東壁の北寄りに構築されている。規模は焼き口部から煙道部先端まで95cm、竈の掘り込み幅は74cmである。煙道部は壁外へ95cmほど掘り込まれており、外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第2・3層が対応する上層と考えられる。袖部は失われており、竈の前面から構築材と思われる石材が出土している。火床部は地山を掘り込んでおり、火床面が赤変変化している。

竈2土層解説

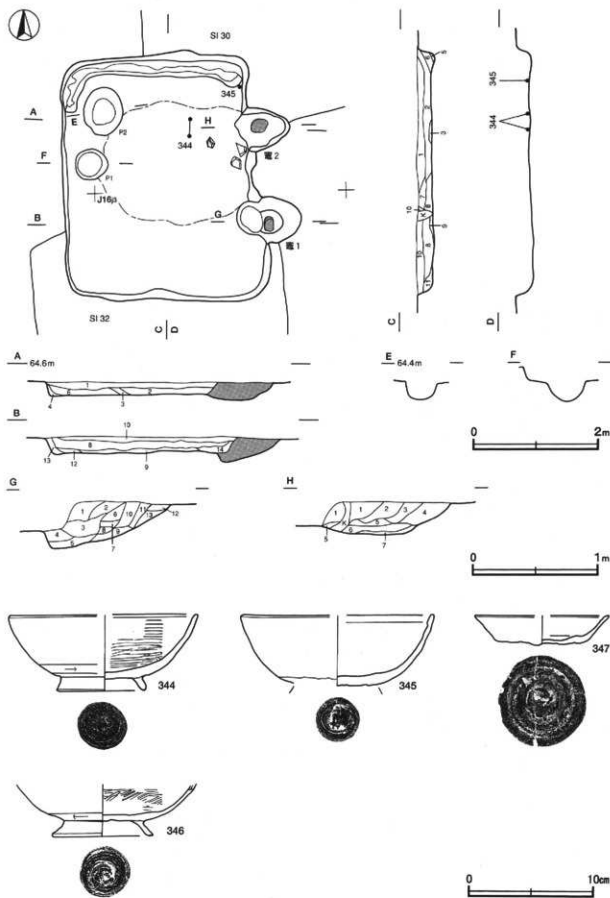
1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	粘土ブロック少量	6	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
3	灰褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7	暗赤褐色	焼土粒子多量
4	暗褐色	炭化物・粘土粒子微量			

ピット 2か所。P1は深さ31cmで、主柱穴と考えられるものの、その他対応する主柱穴は確認されなかった。P2は深さ26cmで、西壁に接していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 14層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	8	暗褐色	ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子少量	9	黒褐色	赤色粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量	10	暗褐色	ローム粒子少量
4	褐色	ローム粒子中量、赤色粒子少量	11	にぶい褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	褐色	ローム粒子中量	12	褐色	ロームブロック微量
6	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子中量
7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量



第150图 第31号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片365点（坏類165，甕類199，高坏1），石材12点の他，埋没する過程で混入した須恵器片41点（坏類28，甕類13），陶器片1点（播鉢）が出土している。遺物は小片が多く，竈1がある東壁側から流れ込んだような状況を示している。344は竈2の前面の床面から逆位の状態で，345は北東コーナー部の床面上からはほぼ正位の状態それぞれ出土している。

所見 2基の竈が確認されているが，残存状況は良くないため前後関係は不明である。時期は，出土土器などから10世紀後半と考えられる。

第31号住居跡出土遺物観察表（第150図）

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
344	土師器	高台付甕	[15.0]	6.0	7.2	赤色粘土・雲母	にぶい赤褐色	普通	内面へう磨き	床面	30%
345	土師器	高台付甕	[15.2]	(5.6)	—	赤色粘土・雲母	灰黄褐色	普通	底部回転へら切り	床面	60%
346	土師器	高台付甕	—	(4.1)	8.0	長石・雲母	灰黄褐色	普通	内面へう磨き，底部回転へら切り	覆土中層	40%
347	土師器	甕	[10.7]	2.4	7.0	石英・雲母	橙	普通	底部回転へら切り	覆土中層	60%

第32号住居跡（第151図）

位置 調査区西部のJ16j3区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第31号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.0m，短軸3.9mの方形で，主軸方向はN-5°-Wである。壁高は31~42cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，竈の前面から南壁にかけて踏み固められている。壁溝は竈の部分を除いて巡っており，断面はU字形である。

竈 北壁の中央に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで82cm，袖部幅は115cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。天井部は中央部付近が崩落しており，第1・2層が対応する土層である。袖部は左袖の一部が残存し，砂質粘土で構築されたものと考えられる。火床部は床面とほぼ同じレベルで，火床面が赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	4 暗赤褐色	焼土粒子少量，粘土粒子微量
2 褐色	炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	5 暗赤褐色	粘土粒子少量
3 褐色	焼土粒子少量，粘土粒子微量	6 暗赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子微量

ピット 6か所。P1~P4は深さ15~44cmで，配置がやや不揃いであるが主柱穴と考えられる。P5は深さ25cmで，竈に向かい合う南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ22cmで，支柱穴と考えられる。

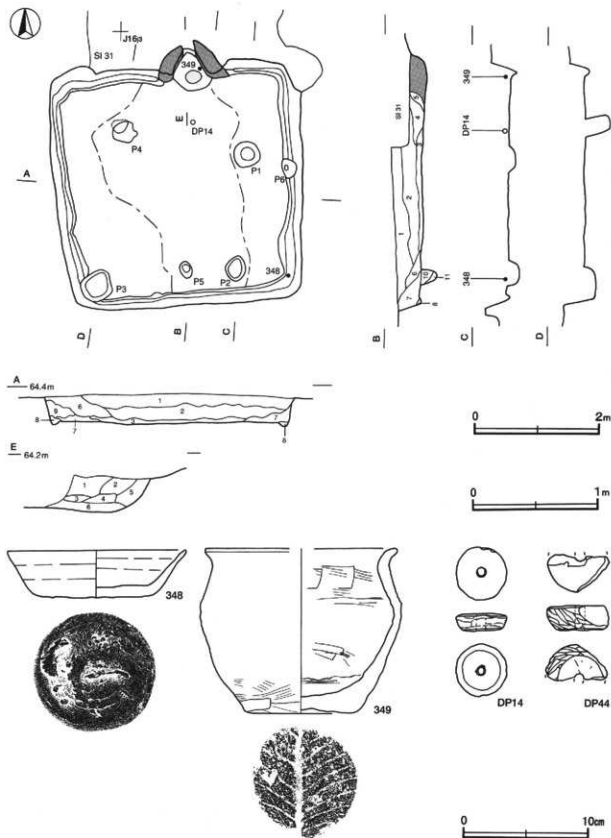
覆土 11層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量	7 黒褐色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ローム粒子少量	8 褐色	ローム粒子中量
3 褐色	ロームブロック微量	9 にぶい黄褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック微量	10 暗褐色	ローム粒子微量
5 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック微量
6 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片78点（坏類23，甕類55），須恵器片44点（坏類32，甕類12），土製品2点（紡錘車），鉄製品1点（刀子）が出土している。348は南東コーナー部の床面付近から正位の状態，349は竈右袖側から逆位の状態それぞれ出土している。

所見 時期は、第31号住居との重複関係や土器などから8世紀後葉と考えられる。



第151図 第32号住居跡・出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表 (第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
348	須臾器	坏	14.3	3.8	9.5	長石	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	床面	95% 須臾器 5% 土 PL102
349	土師器	甕	[15.0]	13.1	8.4	石英・長石	明赤褐	普通	底部木葉痕	甕	60% 須臾器 40% 土 PL102

番号	器種	直径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP14	紡錘車	4.1~3.1	1.3	0.7	26.4	土	円錐台形、外周ナデ	覆土下層	PL103
DP44	紡錘車	[6.0~3.7]	2.0	[0.8]	(26.0)	土	円錐台形、全面・孔内丁寧な磨き、硬質	覆土中	

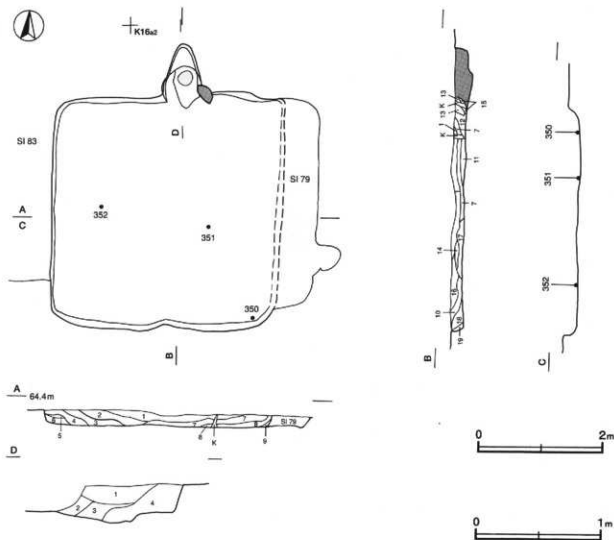
第33号住居跡 (第152・153図)

位置 調査区西部のK16a2区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第34・79・83・90号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.8m、短軸3.7mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は17~33cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、全体的に軟弱である。壁溝は確認されなかった。



第152図 第33号住居跡実測図

竈 北壁の中央に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで101cm、袖部幅は81cmである。竈は壁外へ90cmほど掘り込まれ、煙道部はほぼ直立している。天井部は崩落しており、第3層が対応する土層と考えられる。袖部は左袖が失われており、右袖は壁を若干掘り込み、砂質粘土を充填して構築されている。火床部は地山を若干掘り込んでおり、火床面が変異している。

覆土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	3 濃い黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	4 灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

ピット 確認されなかった。

覆土 19層からなる。ブロックを含む層位が多く、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	12 灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	13 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5 褐色	ローム粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	17 暗褐色	ロームブロック少量
8 暗褐色	焼土粒子中量	18 濃い褐色	ロームブロック中量
9 暗褐色	ローム粒子中量	19 褐色	ロームブロック少量
10 黒褐色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片138点（坏類30、甕類108）、石材5点の他、覆土に混入した縄文土器片1点、須恵器片37点（坏類22、甕類15）が出土している。350は南東コーナー部の中層付近から、351は床面上から逆位の状態でそれぞれ出土している。352は第3層の床面付近から正位の状態で出土しており、内面が摩滅し墨が付着していることから靦に転用されたと考えられる。

所見 時期は、第83・90号住居跡との重複関係から10世紀末頃と考えられる。



第153図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表（第153図）

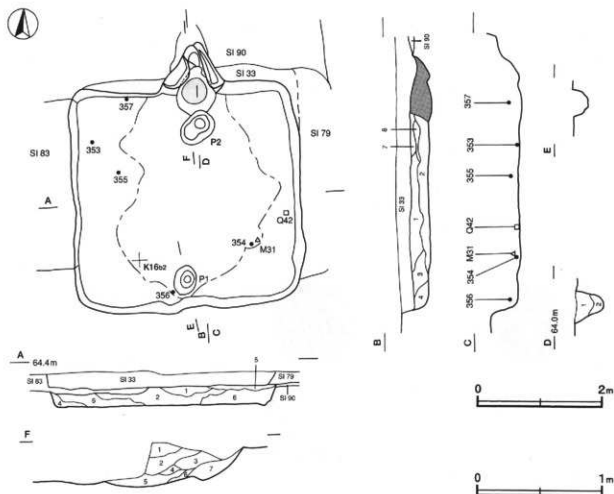
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
350	須恵器	坏	[13.0]	3.7	[7.2]	長石・雲母	灰黄	普通	底面回転ヘラ切り後子持ちヘラ之削り	覆土中層	30% 堀ノ内e
351	土師器	高台付筒	-	(2.2)	[6.0]	長石・雲母	濃い黄褐色	普通	内面ヘラ磨き	床面	50%
352	須恵器	碗	13.6	3.0	[7.5]	石英・長石・雲母	灰	普通	高台付坏転用、破断面整形	床面	70% 墨付着 PL101

第34号住居跡（第154・155図）

位置 調査西区部のK16a2区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第90号住居跡を掘り込み、第33・79・83号住居に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.6mの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は28~30cmで、外傾して立ち上がっている。



第154図 第34号住居跡実測図

床 平坦で、竈の前面からP1にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁の中央部に構築されている。規模は焚き口から煙道部先端まで110cm、袖部幅は101cmである。煙道部は壁外へ80cmほど掘り込まれ、緩やかに外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第3層が対応する土層と考えられる。袖部は基部が残存しており、砂質粘土で構築されている。火床部は地山を若干掘り込んで構築され、火床面が赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|---------|---------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック微量 | 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ24cmで、南壁に接していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ42cmで、竈の焚き口部に接しており、用途は不明であるが、焼土・炭化粒子が含まれていることから竈に伴うピットと考えられる。

P2土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック微量 | 2 赤褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック微量 |
|--------|-----------------|-------|-----------------|

覆土 8層からなる。ブロックを含む層が多く、人為堆積と考えられる。

土層解説

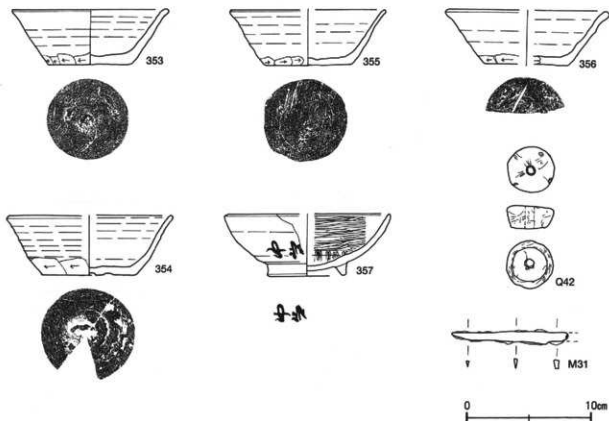
- | | | | |
|----------|------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 に近い黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |

5 褐色 ロームブロック微量
6 褐色 ロームブロック少量

7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、粘土粒子微量
8 褐色 灰色 ローム粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片78点(坏類23, 甕類55), 須恵器片44点(坏類32, 甕類12), 石製品1点(紡錘車), 鉄製品1点(刀子), 石材5点が出土している。353は北西コーナー部分近の床面付近から正位の状態で, また356は南壁付近から, 354は南東コーナー部寄りからそれぞれ倒れ込んだ状態で出土している。357は北壁際からはほぼ正位の状態で出土し, 「中室」の墨書が認められる。Q42とM31は覆土下層から床面にかけて出土している。

所見 時期は, 出土土器などから9世紀中葉と考えられる。



第155図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表 (第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
353	須恵器	坏	12.3	4.4	6.6	長石	灰	普通	底面回転へう切り, 体部下端手持ちへう削り	床面	80% 覆/内+ PL10
354	須恵器	坏	[13.0]	4.7	7.5	黒色粘土・雲母	灰	普通	底面回転へう切り, 体部下端手持ちへう削り	床面	60% 覆/内+
355	須恵器	坏	[12.3]	4.5	7.8	長石・雲母	灰白	普通	底面回転へう切り, 体部下端手持ちへう削り	覆土下層	50% 覆/内+ PL10
356	須恵器	坏	[12.6]	4.3	[6.6]	石英・長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへう削り	覆土下層	30% へう削り/内+ PL10
357	土師器	高台付椀	[13.2]	4.9	6.4	石英・雲母	橙	普通	内面へう磨き	覆土中層	50% 墨書「中室」
Q42	紡錘車		3.7~2.7	1.8	0.7	38.4	純紋岩		円錐台形, 全面丁寧な研磨	床面	PL104
M31	刀子		(9.8)	1.1	0.2~0.4	(8.2)	鉄		刀身断面三角形, 基部欠損	覆土下層	PL105

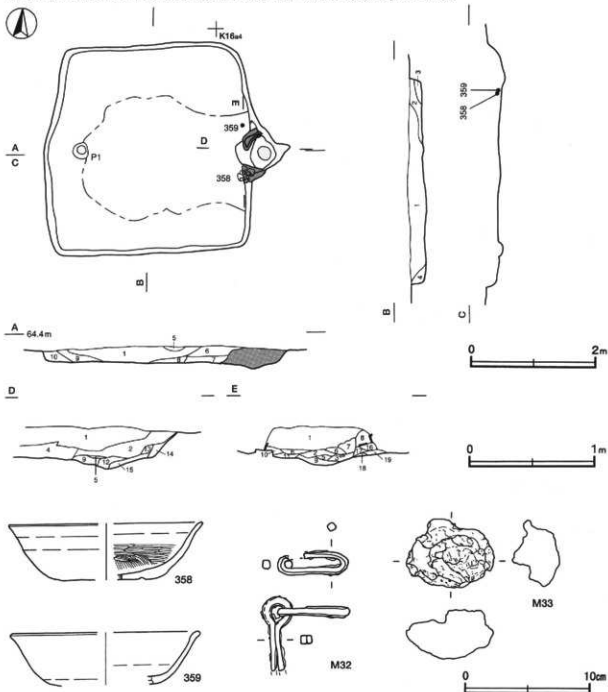
第35号住居跡（第156図）

位置 調査区西部のK16a3区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

規模と形状 一辺3.3mの方形で、主軸方向はN-87°-Eである。壁高は14~18cmで、北壁はほぼ直立しており、その他の壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面から西壁にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで94cm。竈の掘り込み幅は84cmである。煙道部は壁外へ60cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第6層が対応する土層と考えられる。袖部は右袖が失われており、対応する位置から土師器甕が出土し、構築材として使用されたと考えられる。火床部は若干地山を掘り込んで構築され、火床面が赤変硬化している。



第156図 第35号住居跡・出土遺物実測図

甌土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	11 褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
2 褐色	粘土粒子微量	12 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子少量	13 赤褐色	焼土粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	14 褐色	ローム粒子少量
5 暗赤褐色	焼土粒子中量, 粘土粒子微量	15 暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子微量
6 灰褐色	粘土粒子少量, 焼土ブロック散在	16 灰褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土粒子微量	17 暗赤褐色	焼土粒子少量
8 褐色	焼土ブロック微量	18 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
9 暗赤褐色	焼土粒子少量	19 暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量
10 暗褐色	粘土粒子少量		

ピット 1か所。深さは8cmで、西壁側の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層からなる。含有物を均等に含み、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第6層は竈から流出した土層である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック微量	6 暗褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3 におい黄褐色	ローム粒子中量	8 におい黄褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ロームブロック微量	9 暗褐色	ロームブロック少量
5 におい黄褐色	ロームブロック少量	10 におい黄褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片156点(環類34, 甕類122), 鉄製品1点(引手カ), 石材1点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片7点(環類6, 甕類1)が出土している。358は竈の右側から逆位の状態で, 359は同じく左側から破片の状態で, それぞれ床面付近から出土している。

所見 時期は, 出土土器などから10世紀後半と考えられる。

第35号住居跡出土遺物調査表 (第156図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
358	土師器	高台付甕	13.4	(4.5)	-	石灰・長石・雲母	におい暗	普通	内面ヘラ磨き	床面	45%
359	土師器	高台付甕	14.8	(4.2)	-	石灰・雲母	におい暗	普通	ロクロナデ	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M32	引手カ	(5.9)	6.9	0.7	(28.8)	鉄	断面隅丸長方形	覆土中層	PL106
M33	陶片群	5.5	7.2	3.8	172.9	砂鉄地	靱性強, 内面焼土付着	覆土中層	PL105

第38号住居跡 (第157図)

位置 調査区西部のK164区に位置し, 尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第93・113号土坑に掘り込まれている。

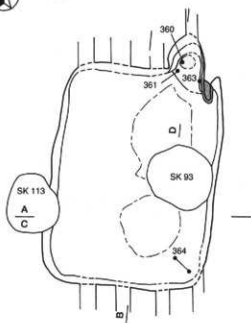
規模と形状 長軸3.5m, 短軸2.7mの長方形で, 主軸方向はN-8°-Eである。壁高は20~29cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 東側が踏み固められている。準溝は確認されなかった。

竈 北東コーナー部に構築されており, 攪乱を受けて残存状態は良くない。規模は焚き口部から煙道部先端まで90cm, 袖部幅は70cmである。竈は壁外へ70cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており, 第2層が対応する土層と考えられる。袖部は左袖は失われ, 右袖は砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じレベルで, 火床面が変変している。



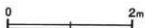
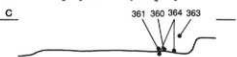
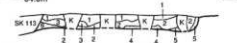
K164



D 63.8m



A 64.0m



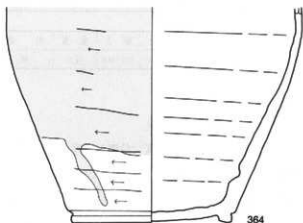
362



360



361



364



363



M34



第157图 第38号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

1 灰黄褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒色	炭化粒子中量、焼土ブロック微量
2 灰黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
3 暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量	6 赤褐色	焼土ブロック中量

ピット 確認されなかった。

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	7 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片120点（坏類51、甕類69）、灰釉陶器片12点（瓶）、鉄製品1点（刀子）、鉄滓1点、石材1点の他、埋没する過程で混入した須恵器片17点（坏類12、甕類5）が出土している。360は竈内に落ち込んだような状態で、361は焚き口部の床面から正位の状態、362・363は竈内から破片の状態で出土している。また、364は南東コーナーの床面から正位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器などから10世紀前半頃と考えられる。

第38号住居跡出土遺物観察表（第157回）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
360	土師器	坏	11.0	4.0	6.0	石灰・長石	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り	竈	80% PL53
361	土師器	皿	10.2	23-25	6.3	長石・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り	床面	100% PL59
362	土師器	皿	9.9	2.4	5.3	雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈	30%
363	土師器	甕	20.6	12.0	-	石灰・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	内外面ナデ	竈	20%
364	灰釉	瓶	-	17.1	12.8	石灰・長石	灰緑オリーブ	普通	輪刷毛染り	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M34	刀子	(4.9)	(0.9)	0.3-0.1	(4.1)	鉄	基部断面台形、刀身部欠損	覆土中層	

第39号住居跡（第158回）

位置 調査区西部のK16g3区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第146号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.8m、短軸2.1mの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は12~15cmで、ほぼ直立している。

床 若干起伏があり東側には敷床が施され、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 2層からなる。含有物を均等に含んでいることから自然堆積と考えられる。

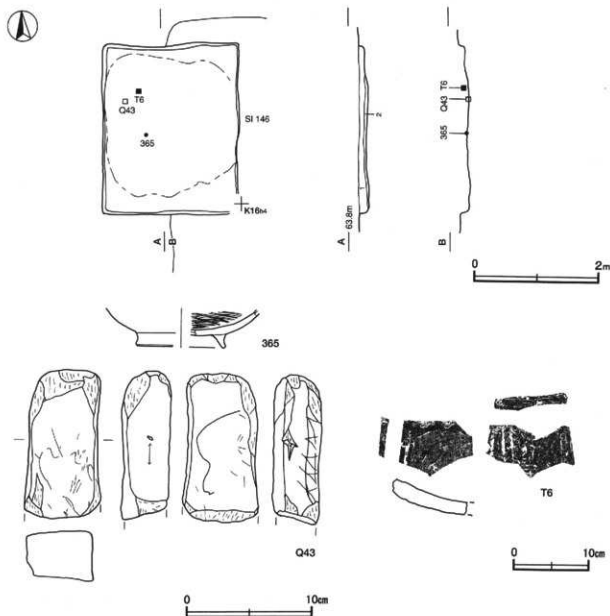
土層解説

1 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
------	----------------	-------	--------------

遺物出土状況 土師器片87点（坏類23、甕類64）、石製品1点（砥石）、鉄滓1点、瓦片1点の他、埋没の過程で混入した縄文土器片2点、須恵器片4点（坏類3、甕類1）が出土している。365は正位の状態、Q43と

ともに床面付近から出土している。

所見 貼床でかつ硬化面があり、使用された形跡はあるものの、竈・炉は確認されず、生活感の乏しい遺構である。時期は、重複関係と出土土器などから10世紀後半と推定される。



第158図 第39号住居跡・出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表 (第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
365	土陶器	高台付椀	-	(3.1)	(6.9)	赤色粒子・雲母	橙	普通	内面へラ削り、底面割取へラ切り	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q43	砥石	(11.9)	6.0	3.9	(427.0)	粘板岩	紙面1面	床面	
T6	平瓦	(7.1)	(9.9)	1.7	(210.0)	土	凸面へラ削り、凹面布目痕	覆土中層	須恵質

第40号住居跡（第159図）

位置 調査区西部のK16h2区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第181号土坑を掘り込み、第134号住居、第124・129号土坑に掘り込まれている。

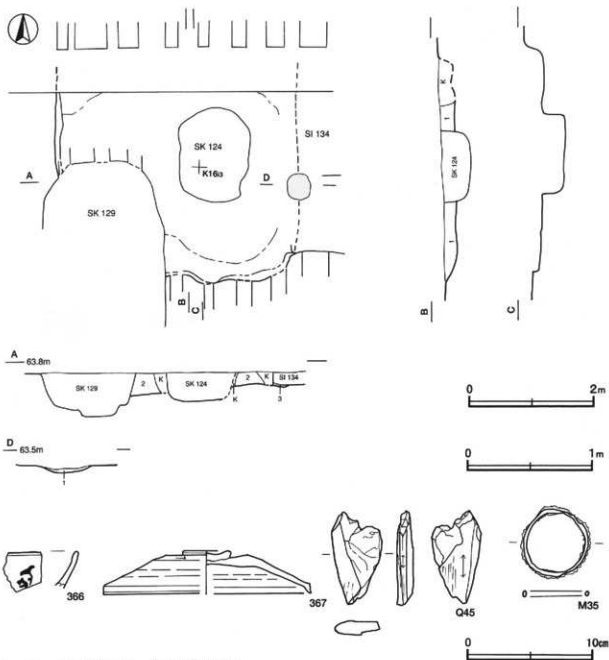
規模と形状 攪乱を受けており、残存状態は良くない。長軸3.9m、短軸3.6mの方形または長方形と推定され、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は23~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されている。第134号住居跡に掘り込まれており、火床部だけが残存している。火床部は地山を若干掘り込んで構築され、火床面が赤変している。

遺土層解説

1 赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量



第159図 第40号住居跡・出土遺物実測図

ピット 確認されなかった。

覆土 3層からなる。ブロックを含む層が多く、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒	3	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土・粘土ブロック微量
2	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片219点（坏類85、甕類134）、須恵器片19点（坏類8、甕類11）、灰釉陶器片1点（瓶）、鉄製品1点（不明）、鉄滓11点、石材8点の他、混入した縄文土器片6点、弥生土器片3点、磁器片1点が出土している。366は覆土上層から、367は南東部の覆土下層から、Q45は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 攪乱を受けており、全体の形状が分かる遺物が少なかった。時期は、第134号住居との重複関係や出土土器などから8世紀中葉と推定される。

第40号住居跡出土遺物観察表（第159図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
366	土師器	坏	-	(29)	-	赤色粘土・雲母	にふい橙	普通	ロクロナデ	覆土上層	10% 墨書「L」
367	須恵器	蓋	[16.5]	3.4	-	石英・長石	灰	普通	火井部回転ヘラ攪り	覆土下層	30% 墨ノ内

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	磁石	(8.2)	(4.0)	1.3	(32.0)	砂岩	紙面2面	覆土下層	
M33	不明	5.4	5.8	0.5	10.1	鉄	断面楕円形	覆土上層	PL106

第41号住居跡（第160～162図）

位置 調査区西部のK16j2区に位置し、屋根上の平坦面に立地している。

重複関係 第115号住居跡を掘り込み、第142号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側は調査区域外に延び、また攪乱を受けていることから全容は不明である。規模は長さ3.9m、短辺3.2mの長方形と推定され、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は30～34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦でロームを用いた貼床であり、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁の東寄りに構築され、攪乱を受けて残存状況は良くない。規模は突き上り部から煙道部先端まで92cm、袖幅は95cmと推定される。煙道部は壁外へ55cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がったのち先端付近ではほぼ直立している。天井部は崩落しており、第1層が対応する土層と考えられる。袖部は右袖が攪乱によって破壊されており、左袖は砂質粘土で構築されている。火床部は地山を若干掘り込んで構築され、火床面が赤変硬化している。

覆土層解説

1	褐色	ローム粘土・焼土粘土・粘土ブロック少量、炭化物微量	2	にふい赤褐色	焼土粘土多量、ローム粘土・粘土粒子少量
			3	褐色	ローム粘土・焼土粘土少量、炭化粒子微量

ピット 確認されなかった。

覆土 2層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。第2層は貼床の土層である。

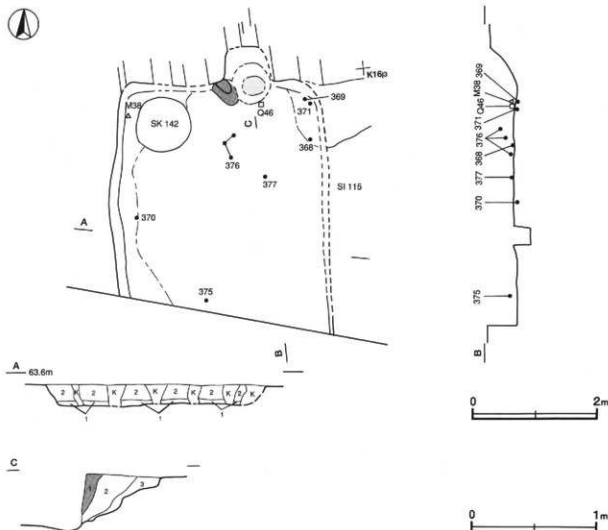
土層解説

1 層 色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

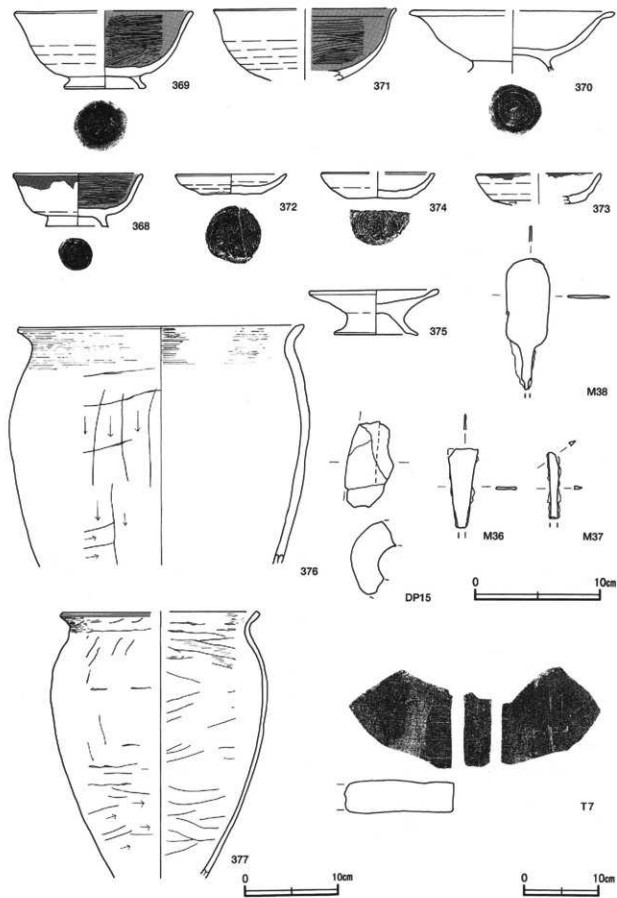
2 層 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片421点(坏類195, 甕類226), 土製品3点(羽口), 石製品2点(砥石), 鉄製品4点(鉄), 鉄滓1点, 埴片1点, 石材8点の他, 混入した縄文土器片8点, 須恵器片34点(坏類21, 甕類13)が出土している。368・369・371は北東コーナー部の床面付近から正位の状態出土しており, 並べられたような状況を示している。370は西壁寄りの床面から破片の状態, 375は南側の覆土下層付近から正位の状態, 376は竈前面付近の覆土中層から下層にかけて破片の状態それぞれ出土している。372~374・T7・D P 15は北東側の覆土中から出土している。

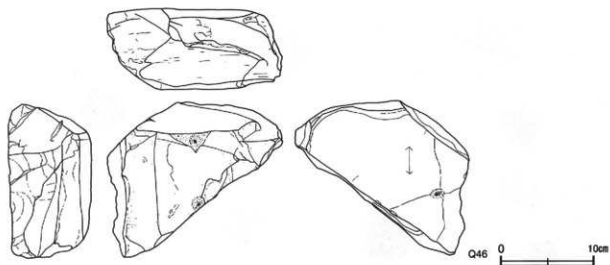
所見 出土した竈の羽口片は小片で, 鉄滓の量も極く少量であり, 炉も確認されていないことから, 本跡に廃棄されたものと想定される。またT7は埴と考えられ, 周辺の遺跡では新治廃寺の金堂で使用されたことが知られている。T7は寺院の廃絶後に当遺跡にもたらされた可能性がある。時期は, 重複関係と出土土器などから11世紀前半頃と考えられる。



第160図 第41号住居跡実測図



第161图 第41号住居跡出土遺物実測図(1)



第162図 第41号住居跡出土遺物実測図(2)

第41号住居跡出土遺物観察表 (第161・162図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
368	土師器	高台付甕	10.2	4.2	5.0	長石・赤色粘土・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き	床面	90% 炭化植物遺物 PL95
369	土師器	高台付甕	[14.2]	6.2	6.5	石英・長石・雲母	にぶい濁	普通	内面ヘラ磨き	床面	60%
370	土師器	高台付甕	[16.1]	(4.8)	-	赤色粘土・雲母	にぶい濁	普通	ロクロナデ	床面	60%
371	土師器	高台付甕	[14.6]	5.7	-	石英・長石	橙	普通	内面ヘラ磨き	床面	30%
372	土師器	甕	8.7	1.6	4.6	長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	95% PL99
373	土師器	甕	[9.8]	(2.4)	-	長石・赤色白色粘土	にぶい濁	普通	底部下縁ヘラ削り	覆土中層	45%
374	土師器	甕	[9.0]	2.0	4.6	石英・長石	にぶい濁	普通	底部回転糸切り	覆土中層	45%
375	土師器	高台付甕	10.3	3.6	6.7	長石・雲母	橙	普通	ロクロナデ	覆土下層	95% PL100
376	土師器	甕	22.6	(19.3)	-	石英・長石	にぶい赤濁	普通	底部外面縦位のヘラ削り	覆土下層	40%
377	土師器	甕	[20.4]	(28.3)	-	石英・長石・雲母	明赤濁	普通	底部外面縦位のヘラ削り	床面	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP15	羽口	(6.8)	[6.7]	[3.0]	(76.1)	土	被熱痕	覆土中	
Q46	磁石・黒石	16.4	16.8	8.6	2860.0	砂岩	砥面1面、凹部3か所	覆土下層	
M36	甕	(6.3)	(2.4)	1.5	(13.5)	鉄	斧筋、歪欠	覆土上層	
M37	甕	(5.3)	0.9	0.3	(4.6)	鉄	片刃筋、先端・基部欠損	覆土上層	
M38	甕	(10.5)	3.5	0.2	(22.6)	鉄	棒葉式	覆土下層	PL105
T7	埴	(12.8)	(13.6)	4.0	(900.0)	土	砥石に転用、砥面2面	覆土中	PL108

第42号住居跡 (第163図)

位置 調査区中央部のK17h5区に位置し、尾根上の縁辺部に立地している。

重複関係 第91号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南側は掘乱を受けている。長軸5.3m、短軸3.4mの長方形で、主軸方向はN-93°-Eである。壁高は13~21cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面が踏み固められている。壁溝は西壁の北側を走り、断面はU字形である。

竈 東壁の南寄りに構築され、掘乱を受けているため形状は明らかではない。竈の構築材と推定される石材が出土している。

ピット 3か所。深さは20~25cmで、性格は不明である。

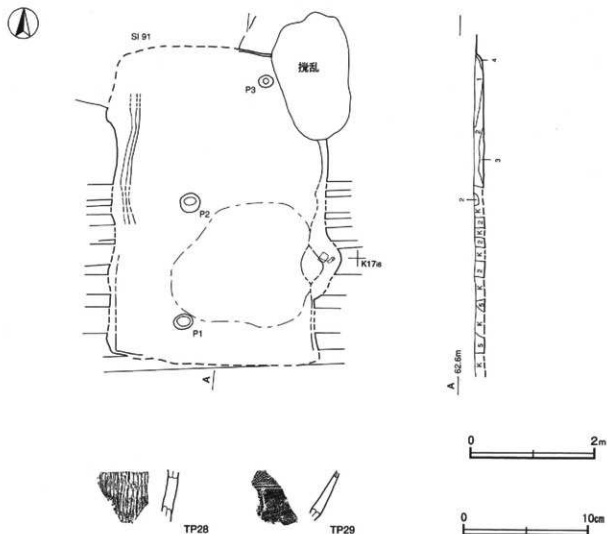
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色	ローム粒子少量	4 褐色	ローム粒子中量
2 褐色	ローム粒子少量	5 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片51点（坏類18, 甕類33）, 須恵器片8点（坏類1, 甕類6, 壺1）, 鉄滓6点, 石材5点が出土している。TP28・29は覆土上層から出土している。全形が判明する土器は出土していない。

所見 時期は、高台付碗の小片が出土していることや、第91号住居跡との重複関係から、9世紀後葉以降の平安時代と考えられる。



第163図 第42号住居跡・出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP28	須恵器	甕	石英・長石	灰黄	良	外面平行叩き	覆土上層	5%
TP29	須恵器	壺	石英・長石	黄灰	良	外面2条の平行沈線でクシ掻き波状文を区画	覆土上層	5%

第44号住居跡（第164図）

位置 調査中央区部のK17d8区に位置し、東側に傾斜している斜面上に立地している。

重複関係 第9・10号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東壁を削平され、全容は不明である。規模は長辺3.1m、短辺2.8mの長方形と推定され、主軸方向はN-95°-Eである。壁高は1~13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面から中央部付近にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の南寄りに構築され、大半が削平されている。火床部だけが残存し、規模は長軸65cm、短軸48cmの楕円形で地山を若干掘り込んでおり火床面が赤変硬化している。焚き口付近に深さ15cmほどのピットを設けている。

竈土層解説

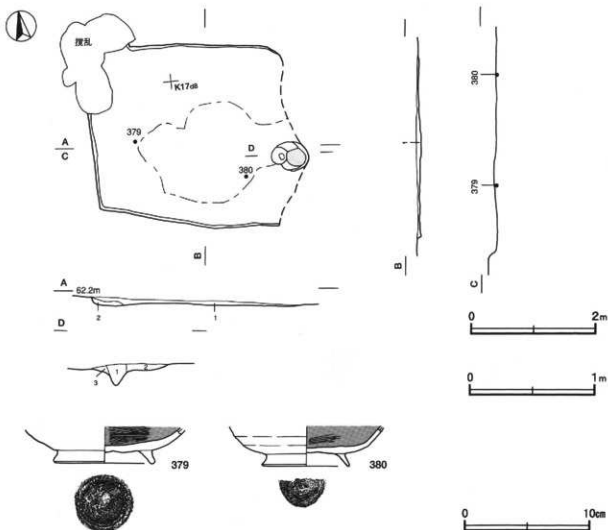
- | | | | |
|--------|-------------|-------|--------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | | |

ピット 確認されなかった。

覆土 2層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 2 褐色 | ローム粒子中量 |
|-------|----------------|------|---------|



第164図 第44号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片26点(坏類12, 甕類14)の他, 埋没する過程で混入した須恵器片2点(甕類)が出土している。379・380は床面から逆位の状態でお出している。

所見 時期は, 出土土器などから10世紀前半と考えられる。

第44号住居跡出土遺物観察表(第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
379	土師器	高台付筒	-	2.9	7.7	石英・雲母	にぶい橙	普通	内面へう磨き	床面	30%
380	土師器	高台付筒	-	(3.1)	7.0	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	内面へう磨き	床面	20%

第45号住居跡(第165図)

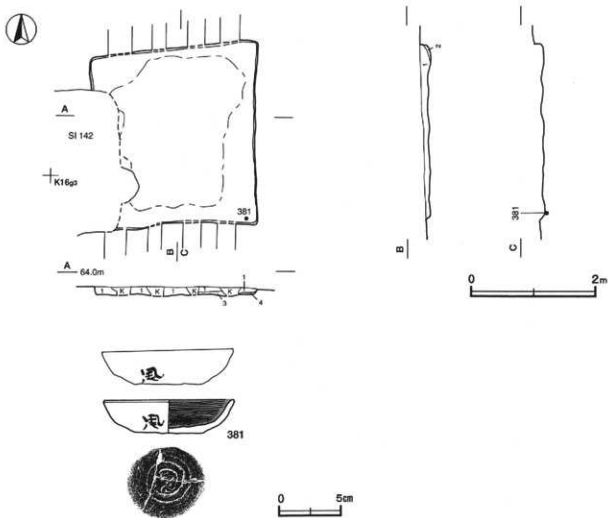
位置 調査区西部のK16d3区に位置し, 尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第142号住居に掘り込まれている。

規模と形状 全体的に耕作による攪乱を受けている。長軸2.9m, 短軸2.6mの長方形で, 主軸方向はN-0°である。壁高は9~14cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり, 中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

炉・竈 確認されなかった。



第165図 第45号住居跡・出土遺物実測図

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	明褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片54点(坏類31, 甕類23), 須恵器片2点(坏類1, 甕類1), 灰釉陶器片1点(甕), 石材2点の他、埋没する過程で混入した縄文土器片1点が出土している。381は南東コーナー部付近の床面付近から、逆位の状態で出土している。

所見 如・甕が確認されないことから、性格は明らかではないが通常の住居とは異なる遺構と考えられる。時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。

第45号住居跡出土遺物観察表 (第165図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
381	土師器	坏	10.4	2.7	5.3	黄母	灰黄	普通	内面ヘラ巻き、底部回転ヘラ切り	床面	95% 調査区 M.81

第46号住居跡 (第166図)

位置 調査区西部のJ165区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

規模と形状 長軸2.8m, 短軸1.8mの長方形で、主軸方向はN-94°Eである。築高は10~19cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、甕の前面からP2付近にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の中央に構築され、煙道部の先端付近は攪乱によって失われている。規模は焚き口部から煙道部の残存部まで45cm, 袖部幅は97cmである。天井部は崩落しており、第9層が対応する土層と考えられ、構築材として使用された扁平な石が出土している。袖部は石材を芯材として砂質粘土でおり、土師器の甕と甔を構築材に使用している。火床部は床面と同じレベルで、火床面が赤変している。

竈土層解説

1	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量
2	暗赤褐色	焼土粒子少量	6	暗赤褐色	焼土粒子中量
3	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	7	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量
4	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子少量			

ピット 2か所。P1は深さ22cmで、柱穴と考えられるが、対応するその他の柱穴は確認できなかった。P2は深さ22cmで、貯蔵穴の可能性も考えられるものの性格は不明である。

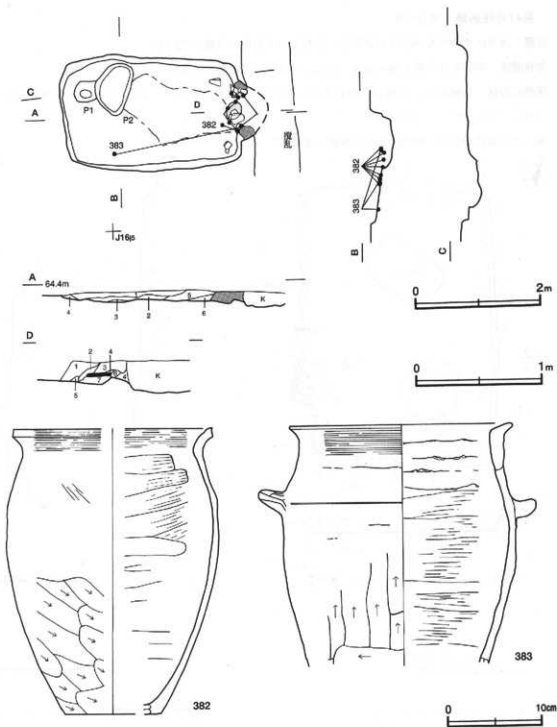
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量	6	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片90点(坏類17, 甕類73)の他、埋没する過程で混入した弥生土器片1点, 須恵器片2点(坏類1, 甕類1), 石材5点が出土している。382・383は竈の袖部構築材として使用され、正位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前半と推定される。



第166図 第46号住居跡・出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第166図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
382	土師器	甕	[20.8]	(30.0)	[10.2]	長石・白色粒子	明褐色	普通	体部外面下部斜位のヘラ削り	壺袖部	55%
383	土師器	瓶	23.1	(25.3)	-	石英・長石・雲母	にがい赤褐色	普通	体部外面下部へラ削り、肥っ手裏り付け後ナデ	壺袖部	50%

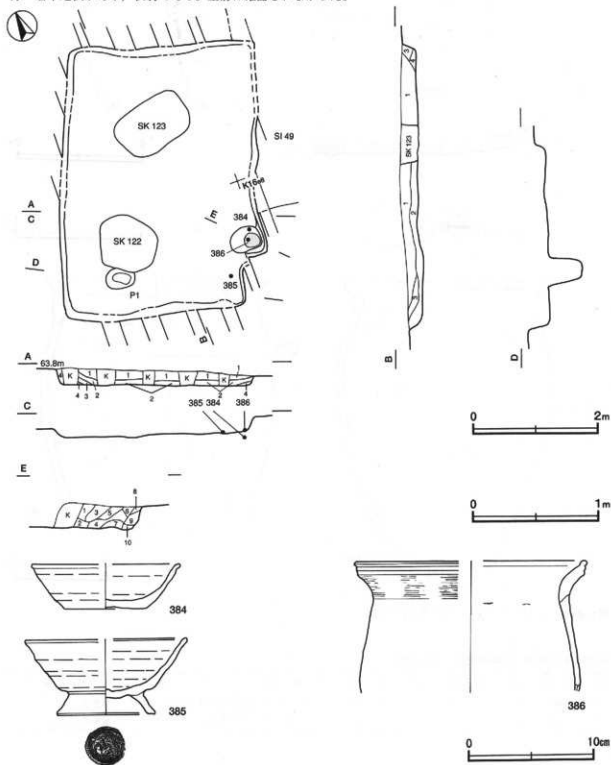
第47号住居跡（第167図）

位置 調査区東部のK16d7区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第49号住居跡を掘り込み、第122・123号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.3m、短軸3.1mの長方形と推定され、主軸方向はN-107°-Eである。壁高は17~34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、軟弱である。壁溝は確認されなかった。



第167図 第47号住居跡・出土遺物実測図

竈 東壁の南東コーナー寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで60cm、竈の掘り込み幅は52cmである。煙道部は壁外へ30cmほど掘り込まれ、ほぼ直立している。天井部は崩落しており、第5・6層が対応する土層と考えられる。袖部は攪乱のため残存していない。火床部は床面と同じレベルで、火床面が赤変している。

土層解説

1 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	6 灰褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量	7 褐灰色	焼土ブロック・粘土粒子少量
3 褐灰色	ロームブロック・粘土ブロック微量	8 にぶい赤褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック微量	9 灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
5 褐灰色	粘土粒子中量、焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子微量

ピット 1か所。P1は深さ53cmで、主柱穴の可能性があるが、その他の柱穴は確認されなかった。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	3 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物粒子微量

遺物出土状況 土師器片97点（坏類40、甕類57）の他、埋没する過程で混入した須恵器片10点（坏類3、甕類7）、石材1点が出土している。384・386は竈内から破片の状態、385は南東コーナー付近の床面上から正位の状態ですれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から11世紀前半と考えられる。

第47号住居跡出土遺物観察表（第167図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
384	土師器	坏	[116]	35	[65]	長石・雲母	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り	竈	40%
385	土師器	高台付甕	[128]	60	60	石英・長石 紫色粒子・雲母	明赤褐	普通	内外面ロコナデ	床面	50%
386	土師器	甕	[183]	(104)	-	石英・長石	明赤褐	普通	内外面ナデ	竈	10%

第48号住居跡（第168図）

位置 調査区東部のK16c7区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第170・188・200号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.4m、短軸3.1mの長方形で、主軸方向はN-90°-Wである。壁高は29~36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、若干軟弱である。壁溝は確認されなかった。

竈 南西コーナーに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで148cm、竈の掘り込み幅は93cmである。煙道部は壁外へ80cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部と袖部は失われており、石材が出土していることから、石材を構築材として使用していたと考えられる。火床部は床面とほぼ同じレベルで、火床面が赤変硬化している。

土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・炭化物粒子微量	4 褐色	粘土ブロック中量
2 暗赤褐色	ロームブロック中量	5 無暗赤褐色	焼土ブロック中量
3 暗赤褐色	ロームブロック・粘土ブロック・粘土ブロック微量	6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 確認されなかった。

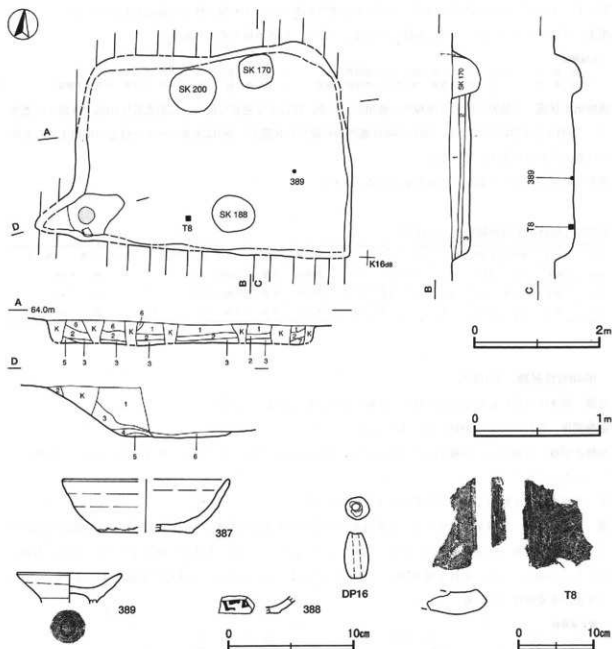
覆土 9層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	5 黒褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師器片134点(坏類83, 甕類48, 高坏3), 土製品1点(管状土錘), 瓦片1点, 石材13点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片8点(坏類2, 甕類6), 陶器片1点が出土している。389は床面から逆位の状態で, T8は南壁寄りの床面付近からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器などから10世紀後半と考えられる。



第168図 第48号住居跡・出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表 (第168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
387	土師器	坏	[13.2]	4.2	[7.4]	石英・長石	にぶい青黒	普通	底部回転糸切り	覆土下層	40%
388	土師器	坏	—	(1.4)	—	石英・長石	橙	普通	ロクロナゲ	覆土下層	5% 墨書「冨」*
389	土師器	高台付皿	8.2	(2.5)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナゲ	床面	80% PL99

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D P 16	管状土鉢	3.7	1.9	0.6	9.0	土	外面ナゲ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T 8	平瓦	(11.5)	(7.2)	2.7	(320.0)	土	凸面へう削り、凹面布目板	床面	

第49号住居跡 (第169図)

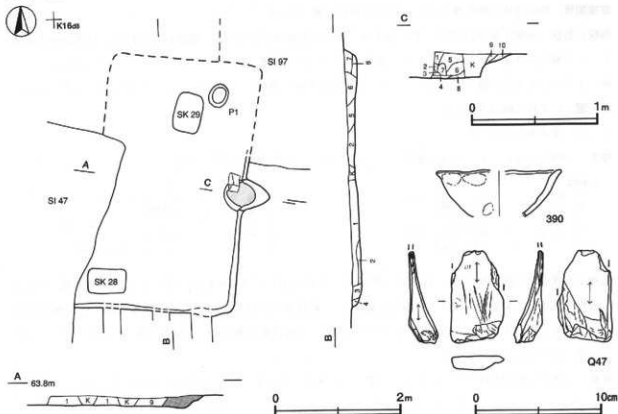
位置 調査区東部のK16d8区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第97号住居跡を掘り込み、第47号住居に掘り込まれている。第28・29号土坑と重複している。

規模と形状 長軸4m、短軸2.5mの長方形で、主軸方向はN-98°-Eである。壁高は11~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、やや軟弱である。

竈 東壁に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで73cm、竈の掘り込み幅は50cmである。煙道部は壁外へ35cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっていると推定される。天井部は失われている。袖部も失われており、左袖に構築材と考えられる石材が出土している。火床部は床面とほぼ同じレベルで、火床面が亦変している。



第169図 第49号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 によい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗赤褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量
3 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	8 によい黄褐色	ローム粒子少量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量	9 灰褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子微量	10 暗赤褐色	焼土ブロック中量

ピット P 1 は深さ21cmで、位置から主柱穴と考えられるが、その他の柱穴は確認されなかった。

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	6 暗褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子中量	9 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5 褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 土師器片40点（坏類13, 甕類27）、石製品4点（砥石）、石材1点の他、埋没する過程で混入した須恵器片6点（坏類3, 甕類3）、軽石1点が出土している。390, Q47は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から10世紀代と考えられる。

第49号住居跡出土遺物観察表（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
390	土師器	杯	[9.8]	(3.7)	-	石英・長石・雲母	にぶい程	普通	外面磨面圧痕	覆土中層	15%

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
Q47	砥石	(7.3)	4.4	2.3	(42.6)	砂岩	紙面3面	覆土中	

第51号住居跡（第170図）

位置 調査区中央部のJ1610区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第52号住居跡を掘り込み、第152号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南壁を第152号住居に掘り込まれており、全容は不明である。規模は長辺42m、短辺3.6mの長方形で、主軸方向は北壁からN-86°-Eと推定される。壁高は18~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は北壁から東壁にかけて巡っており、断面はU字形である。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

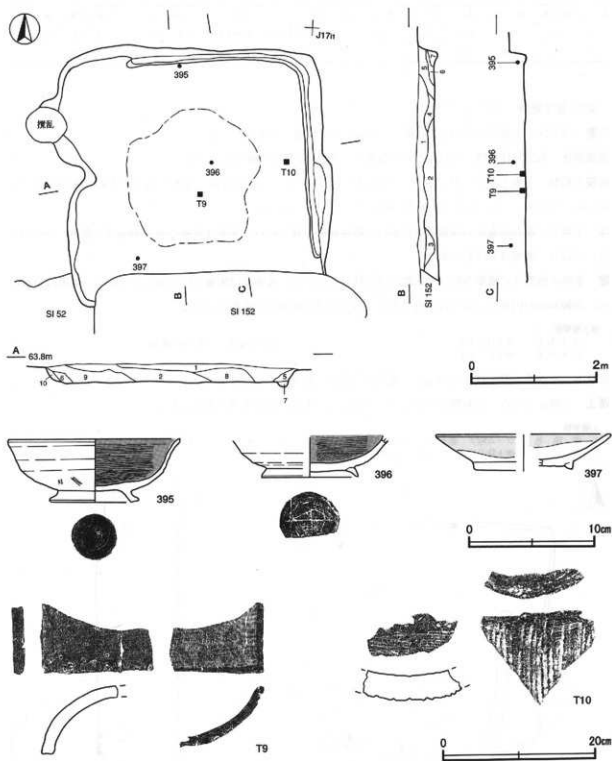
覆土 10層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック微量	7 黒褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子微量
5 褐色	ロームブロック微量	10 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片157点（坏類78, 甕類79）、灰釉陶器片4点（椀類2, 皿2）、瓦片5点の他、埋没する過程で混入した須恵器片16点（坏類12, 甕類4）、石材9点が出土している。395は北壁際から、396は中央部付近の第2層の上面付近からそれぞれ逆位の状態で、397は第1層中から正位の状態で出土し、T9・10はほぼ第2層中から出土している。

所見 本跡は比較的規模が大きいものの、竈・炉は確認できなかった。床面が踏み固められていることから、通常の住居としてではなく何らかの施設として使用されていたものと推測される。時期は、重複関係や出土土器などから10世紀後半と考えられる。



第170図 第51号住居跡・出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表 (第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
395	土師器	高台付碗	13.5	5.1	7.1	長石・雲母	にぶい橙	普通	内面へう磨き, 底部回転へう 切り縁ノテ	覆土中層	70% PL95
396	土師器	高台付碗	-	(3.2)	7.6	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	内面へう磨き	覆土中層	25% 割片×J*
397	灰釉	皿	[13.8]	2.8	[8.0]	石英・黒色粒子	灰白	普通	泥け磨けによる施釉, 底部回転 施釉切り	覆土上層	30% 朱墨付者

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T9	丸瓦	(9.3)	(10.2)	1.5	(270.0)	土	凸面ナデ, 凹面布目痕, 端部ヘラ削り	第2層	須恵質
T10	平瓦	(12.8)	(12.8)	2.8	(530.0)	土	凸面平行叩き, 凹面布目痕	第2層	

第54号住居跡 (第171・172図)

位置 調査区中央部のJ171区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第53号住居跡, 第11号掘立柱建物跡, 第279号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 東壁を削平されており, 全容は明らかではない。長辺4.1m, 短辺3.7mの長方形と推定され, 主軸方向はN-90°-Eである。壁高は12cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 竈の前面から西壁壁溝にかけて踏み固められている。壁溝は西壁の50~60cmほど東側に平行して巡っており, 断面はU字形である。

竈 東壁の南寄りに構築され, 火床部だけが残存している。火床部は床面とほぼ同じレベルで, 規模は長軸61cm, 短軸50cmの円形で, 深さは8cmである。熱を受けて火床面が赤変している。

竈土層解説

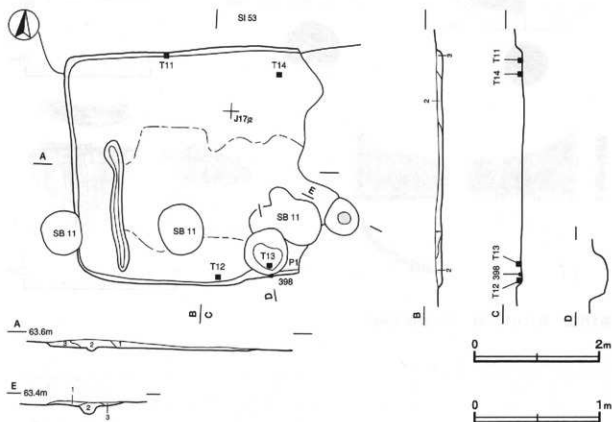
- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量
2 暗赤褐色 焼土粒子中量
3 暗赤褐色 焼土粒子微量

ピット 1か所。P1は深さ24cmで, 規模から考えて貯蔵穴の可能性がある。

覆土 3層からなる。含有物を均等に含んでいることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

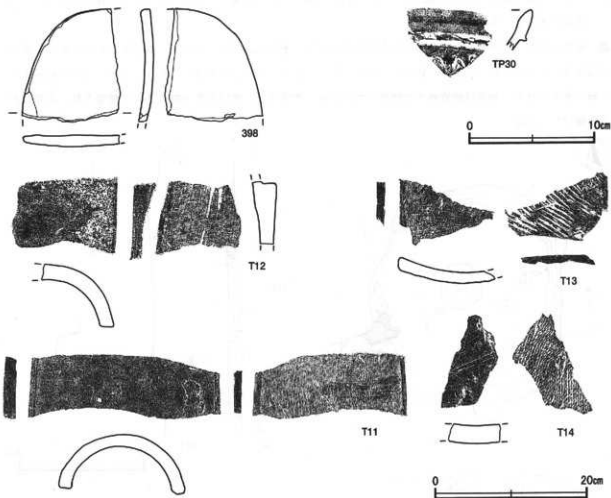
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子微量



第171図 第54号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片126点（坏類61，甕類65），須恵器片8点（坏類4，甕類4），鉄滓2点，瓦片8点，石材2点が出土している。398は南壁際の床面から，その他の瓦片も同じく床面から出土している。

所見 本跡の壁溝は，西壁の東側50～60cmに平行して確認されている。覆土が薄かったものの，断面では壁溝に対応する掘り込みを確認できないため，西側に拡張された可能性が考えられる。時期は，重複関係と出土土器から9世紀代と推定される。



第172図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
398	須恵器	甕	(9.0)	(7.0)	(0.9)	石英・長石	灰	普通	変転用，破断面研磨整形	床面	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP30	須恵器	甕	長石	黄灰	良	口縁部外面にクシ掻き波状文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T11	丸瓦	(8.0)	16.8	1.5	(460.0)	土	凸面ヘラナデ，凹面布目痕	床面	被熱痕有り
T12	丸瓦	(9.7)	(9.6)	2.1	(430.0)	土	玉縁式，凸面ナデ，凹面布目痕，吊縁痕	床面	
T13	平瓦	(8.7)	(12.9)	1.6	(210.0)	土	凸面平行叩き，凹面布目痕	床面	
T14	平瓦	(12.8)	(5.7)	2.3	(320.0)	土	凸面縄叩き，凹面ヘツ削り	床面	

第55号住居跡（第173図）

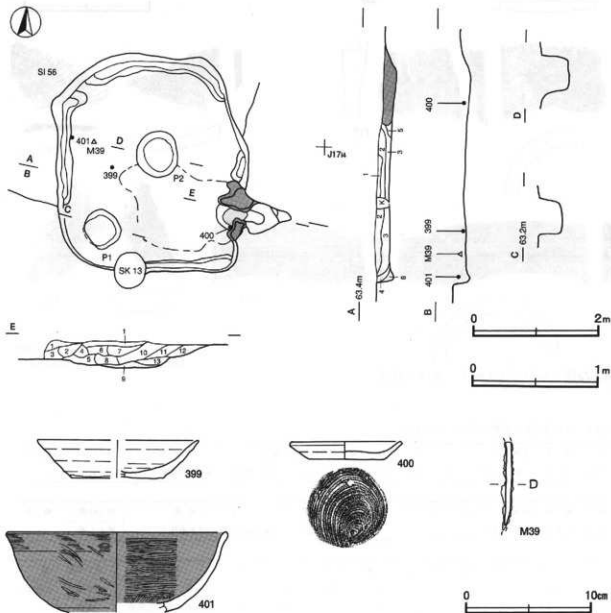
位置 調査区中央部のJ173区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第56号住居跡、第13号掘立柱建物跡を掘り込み、第13号土坑と重複している。

規模と形状 長軸3.4m、短軸3.0mの長方形で、主軸方向はN-100°-Eである。壁高は12~25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は、連続しないものの各壁際を巡っており、断面は逆台形である。

竈 東壁の南寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで120cm、袖部幅は96cmである。煙道部は壁外へ81cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落しており、第2・3層が対応する土層と考えられる。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は、地山を若干掘り込んで構築され、火床面が赤変硬化している。



第173図 第55号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	8 灰褐色	焼土粒子中量
2 褐色	粘土粒子中量, ローム粒子微量	9 におい赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	10 褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子少量	12 暗褐色	焼土粒子少量
6 褐色	焼土粒子微量	13 灰褐色	焼土粒子少量
7 暗褐色	ローム粒子微量・焼土ブロック微量		

ピット 2か所。P1・P2は深さ39~41cmで、性格は不明である。

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色	炭化物・ローム粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片234点(坏類96, 甕類138), 鉄製品4点(刀子), 鉄滓2点, 瓦片1点, 石材11点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片30点(坏類20, 甕類10)が出土している。399は破片の状態で覆土下層から, 400は龍右袖付近の床面付近から出土している。

所見 時期は, 住居の形態や出土土器などから10世紀後半頃と考えられる。

第55号住居跡出土遺物観察表 (第173図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
399	土師器	坏	[12.8]	3.0	[7.4]	石英・長石・雲母	におい橙	普通	ロクロナゲ	覆土下層	40%
400	土師器	皿	8.7	1.4	6.0	石英・長石	におい赤褐	普通	底部回転余切り	床面	100% PL59
401	土師器	高台付皿	[17.4]	(6.3)	-	石英・長石・雲母	におい橙	普通	内外面ヘラ磨き	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M39	釘	(7.0)	0.5	0.6	(5.4)	鉄	両端欠損	覆土中層	

第56号住居跡 (第174図)

位置 調査区中央部のJ17h3区に位置し, 尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第53号住居跡・第13号獨立柱建物跡を掘り込み, 第55号住居に掘り込まれている。

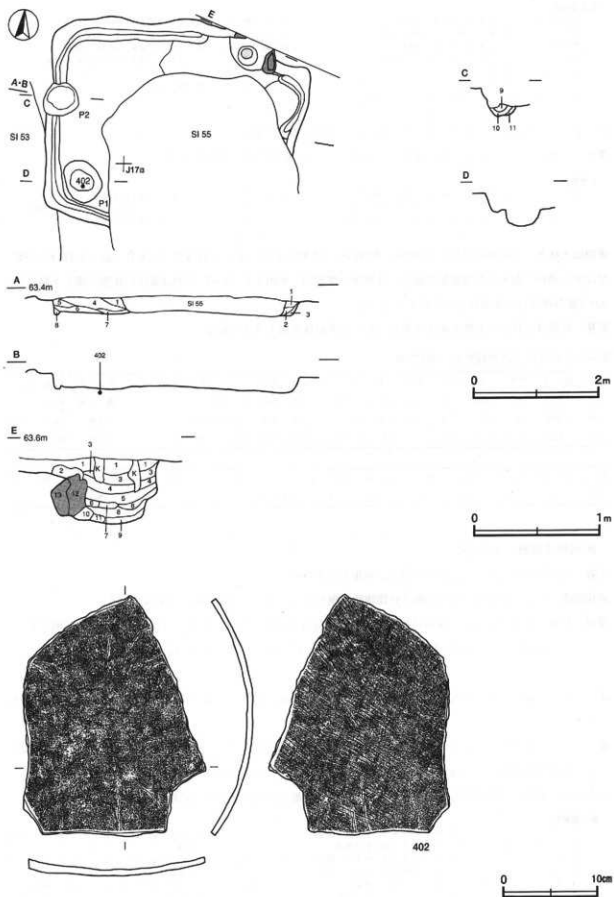
規模と形状 南東部を第55号住居に掘り込まれ, 竈付近が調査区域外に延びているため, 全容は不明である。長辺4.3m, 短辺3.3mの長方形で, 主軸方向はN-7°-Eである。壁高は13~17cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 竈の前面が踏み固められている。壁溝は竈の部分を除いて巡っていると推定され, 断面は逆台形である。

竈 北壁の北東コーナー付近に構築されており, 調査区域外に延びているため全容は不明である。規模は焚き口部から調査区域端まで44cm, 袖幅は90cmと推定される。天井部は失われている。袖部は砂質粘土で構築されており, 第12・13層が対応する土層である。火床部は地山を若干掘り込んでおり, 火床面が赤変している。

覆土層解説

1 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	9 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	10 暗褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	12 暗褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13 灰黄褐色	粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量		
7 暗赤褐色	焼土粒子多量		
8 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量		



第174图 第56号住居跡・出土遺物実測図

ピット 2か所。P 1は深さ20cmで、主柱穴の可能性が考えられる。P 2は深さ16cmで、性格は不明である。
 覆土 11層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第9～11層はP 2の土層である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	7	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
2	褐色	ローム粒子中量	8	褐色	ローム粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量、赤色粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子中量	10	暗褐色	ローム粒子少量、赤色粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 土師器片240点(坏類63, 甕類177), 須恵器片32点(坏類18, 甕類11, 高坏3), 瓦片1点の他、埋没の過程で混入した縄文土器片4点が出土している。402はP 1の上面から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から第55号住居跡に先行する9世紀後半から10世紀前半頃と考えられる。

第56号住居跡出土遺物観察表(第174図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
402	須恵器	硯	(25.5)	(19.2)	0.9	石英・長石	黄灰	普通	裏帳用、破断面整形	床面	70%

第57号住居跡(第175・176図)

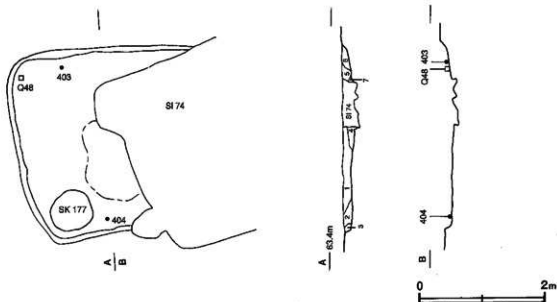
位置 調査区中央部のJ17J3区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第74号住居, 第177号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東側は第74号住居に掘り込まれており、全容は不明である。規模は長辺3.1m, 短辺2.8mの方形または長方形で、主軸方向は西壁からN-11°-Eである。壁高は10-14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部付近が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

炉・竈 いずれも確認されなかった。



第175図 第57号住居跡実測図

ピット 確認されなかった。

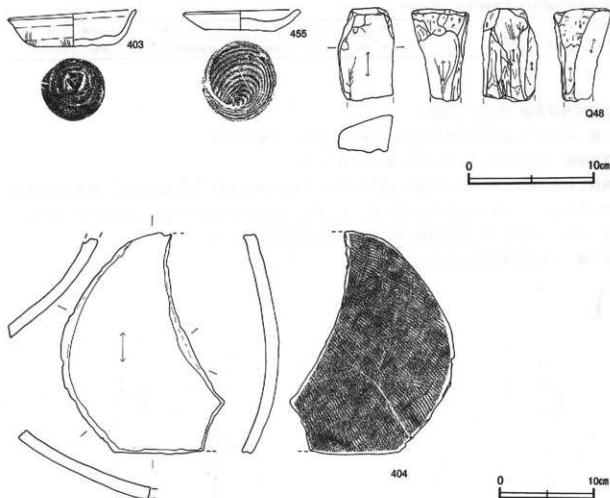
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	5	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量	7	褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片84点（坏類47、甕類37）、石製品1点（砥石）の他、埋没する過程で混入した須恵器片11点（坏類4、甕類7）、石材8点が出土している。403は北壁際から正位の状態で、404は南壁際から、Q48は北西コーナー部付近の床面上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器などから10世紀後半と考えられる。



第176図 第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表（第176図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
403	土師器	坏	10.4	2.8	5.4	長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナゲ	床面	85% PL53
455	土師器	甕	8.9	1.7	5.2	赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土上層	95% PL59

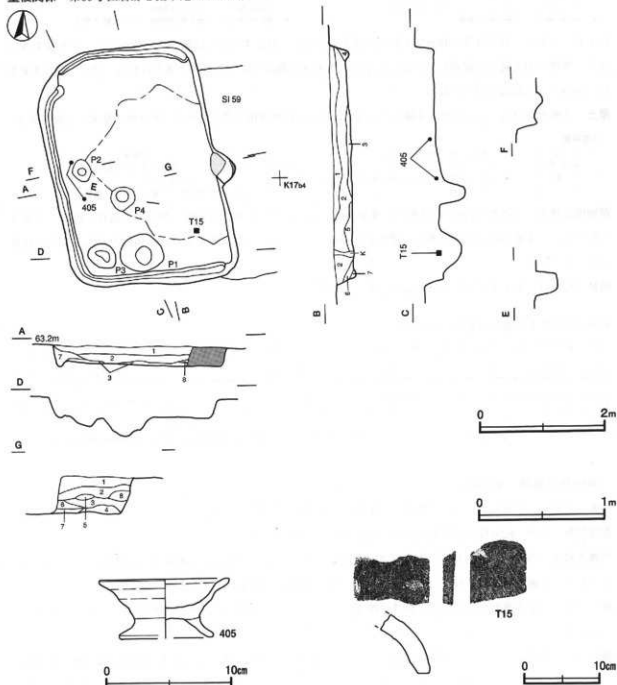
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
404	須恵器	甕	(23.3)	(17.2)	1.9	石英・長石	灰	普通	美転用、破断面整形	床面	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q48	瓦石	(7.5)	4.4	4.5	(117.8)	粘板岩	紙面4面	床面	

第58号住居跡 (第177図)

位置 調査区中央部のK17a3区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第59号住居跡を掘り込んでいる。



第177図 第58号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸3.9m、短軸2.6mの長方形で、主軸方向はN-85°-Eである。壁高は29~32cmで、東壁はほぼ直立しており、その他の壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、東側を中心にローム混じりの貼床が施され、窟周辺から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は南東コーナーから北東コーナーにかけて巡っており、断面はU字形である。

竈 東壁の中央付近に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで38cm、竈の掘り込み幅は62cmである。竈は壁外へ30cmほど掘り込まれ、煙道部はほぼ垂直に立ち上がっている。天井部と袖部はすでに失われており、構築状況は不明である。火床部は床面と同じレベルで、火床面が赤変硬化している。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗赤褐色	焼土粒子中量
2 暗褐色	焼土粒子少量	6 極暗赤褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	7 極暗褐色	焼土粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量	8 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量

ピット 4か所。P1は深さ34cmで主柱穴と考えられるが、対応する柱穴は確認されなかった。P2は深さ11cmで、西壁の中央付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3・P4は深さ18~38cmで、性格は不明である。

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第3層は貼床の土層である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘性・しまり強	7 褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子中量	8 暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片218点(坏頸92、甕頸126)、瓦片3点、石材13点の他、埋没する過程で混入した縄文土器片1点、須恵器片15点(坏頸5、甕頸10)が出土している。405は西壁寄りの床面付近から、正位の状態です出土している。

所見 時期は、出土土器から11世紀前半と考えられる。

第58号住居跡出土遺物観察表(第177図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
405	土師器	高台付皿	10.2	4.7	[7.0]	石灰・灰石・黄砂	明赤褐色	普通	ロクロナデ	床面	60% PL100

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T15	丸瓦	(8.3)	(6.4)	2.3	(260.0)	土	凸面へう割り、凹面布目痕、端部へう割り	床面	

第59号住居跡(第178図)

位置 調査区中央部のK17a3区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第60・62号住居跡を掘り込み、第58号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西壁は第58号住居に掘り込まれ、全容は不明である。現存する規模は、長辺3.9m、短辺2.2mの長方形で、主軸方向はN-81°-Eである。壁高は21~25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は、各壁の壁際を巡っており、断面はU字形である。

竈 東壁の南東コーナー付近に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで69cm、竈の掘り込み幅は74cmである。竈は壁外へ55cmほど掘り込まれ、煙道部は外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、構築材と考えられる板石が出土している。袖部は失われており、構築状況は不明である。火床部は床面とほぼ

同じレベルで、煙道部寄りに石製支脚を設置し、火床面が赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子微量 | 3 褐灰色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット 3か所。P1～P3は深さ19～42cmで、柱穴と考えられる。

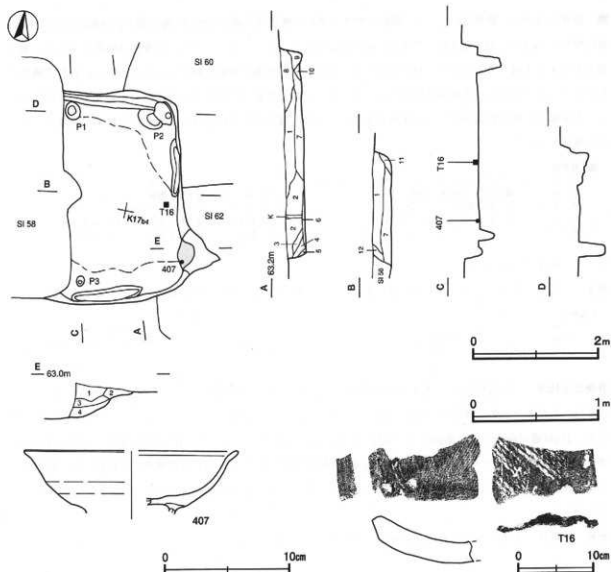
覆土 12層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・赤色粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 転黄褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | 11 褐色 | ロームブロック・赤色粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量 | 12 暗褐色 | 焼土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片105点(坏類22, 甕類83), 瓦片5点, 石材6点の他, 埋没する過程で混入した縄文土器片1点, 須恵器片45点(坏類6, 甕類38, 壺1)が出土している。407は竈の焚き口部底面付近から, 破片の状態で出土している。

所見 時期は, 重複関係と出土土器などから10世紀後半と考えられる。



第178図 第59号住居跡・出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表 (第178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
407	土師器	高台付椀	[17.0]	(5.0)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	ロクロナデ	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T16	平瓦	(8.4)	(13.3)	3.0	(440.0)	土	凸面縄印き、凹面布目痕	床面	

第60号住居跡 (第179・180図)

位置 調査区中央部のK17a4区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第61・62号住居跡を掘り込み、第59・74号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.4m、短軸3.0mの長方形で、主軸方向はN-98°-Eである。壁高は16~21cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で北東部にローム混じりの褐色土による貼床が施され、全体的に軟弱である。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで91cm、竈の掘り込み幅は75cmである。竈は壁外へ75cmほど掘り込まれ、煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第1層が対応する土層と考えられる。袖部は失われており、石材が竈の壁面に倒れていることから、石材で構築されていたと考えられる。火床部は床面と同じレベルで、煙道部寄りに坏を上にかぶせた石製支脚を設置している。火床面から煙道部にかけて、火床面が赤変している。竈からかき出されたと思われる焼土が南東コーナ部に堆積している。

竈土層解説

1 暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック微量	6 暗赤褐色	焼土粒子少量
2 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	焼土粒子微量
3 黒褐色	焼土粒子微量	8 褐灰色	焼土ブロック少量
4 暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量	9 暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
5 極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 確認されなかった。

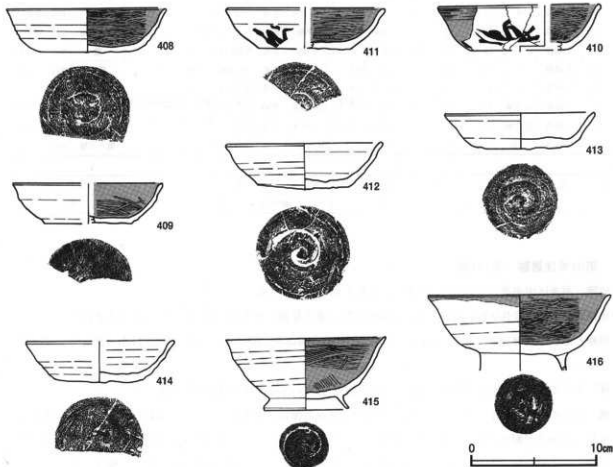
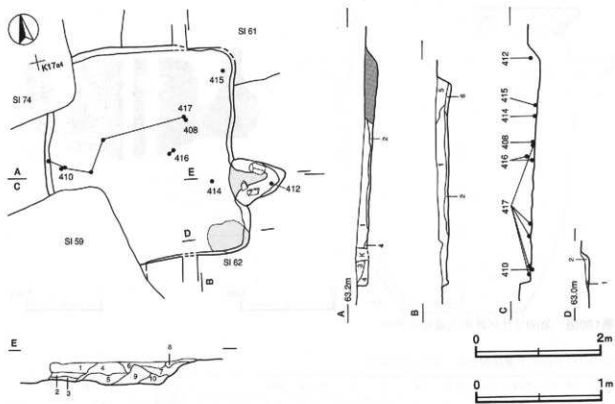
覆土 6層からなる。ブロックを含む層が多く、人為堆積と考えられる。第6層は貼床の土層である。

土層解説

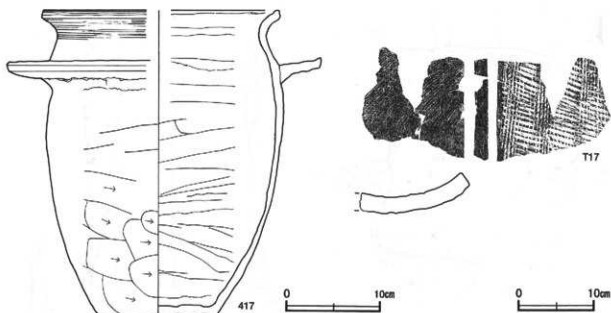
1 暗褐色	ローム粒子少量	4 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック微量	5 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック微量	6 褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片244点(坏類92, 甕類151, 手捏土器1), 須恵器片31点(坏類2, 甕類7, 壺22), 瓦片2点, 石材8点の他, 埋没する過程で混入した縄文土器片1点が出土している。408は中央部付近, 410は西壁際, 414は竈の前面のほぼ床面上から破片の状態でそれぞれ出土している。412は石製支脚の上から逆位の状態で, 415は北東コーナ部付近の床面から正位の状態で出土している。417は西壁寄りの比較的広い範囲から破片の状態で出土しており, 欠損する部位も多いことから, 本住居の廃絶時には器形が損なわれていたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器などから9世紀末~10世紀前半と考えられる。



第179图 第60号住居跡・出土遺物実測図



第180図 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表 (第179・180図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
408	土師器	坏	12.4	3.5	7.3	石英・長石・雲母 赤色粒子・雲母 灰色・白色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ 切り	床面	55% PL93
409	土師器	坏	[11.8]	3.2	[6.8]	石英・長石・雲母 赤色・白色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ 切り	覆土中	30%
410	土師器	坏	[12.7]	3.6	[8.5]	石英・長石・雲母	にぶい黄褐	普通	内面ヘラ磨き	床面	40% 曇書□
411	土師器	坏	[12.4]	3.2	[7.2]	白色粒子・雲母	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土中層	25% 曇書□
412	土師器	坏	12.5	3.7	7.3	石英・長石・雲母	赤褐	普通	底部回転ヘラ切り	竈	80% PL93
413	土師器	坏	11.8	2.8	7.2	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土	70% PL93
414	土師器	坏	[11.7]	3.3	6.8	長石・白色粒子	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	40%
415	土師器	高台付筒	12.7	5.6	6.7	長石・白色粒子 雲母	にぶい黄褐	普通	内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ 切り後ナデ	床面	85% PL95
416	土師器	高台付筒	14.6	(6.1)	—	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ 切り	覆土下層	75% PL95
417	土師器	羽釜	[24.5]	32.3	12.1	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	外面横位のヘラ削り	覆土下層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T17	平瓦	(13.3)	(14.2)	2.3	(570.0)	土	凸面平行引き、凹面布目痕	覆土上層	

第61号住居跡 (第181図)

位置 調査区中央部のJ174区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第62号住居跡を掘り込み、第60号住居、第7号掘立柱建物、第73号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.8m、短軸3.4mの長方形で、主軸方向はN-93°-Eである。築高は10~19cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈の前面からP1にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の中央に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで71cm、両袖幅は94cmである。煙道部は壁外へ45cmほど掘り込まれ、緩やかに外傾して立ち上がっている。天井部は上面が削平されており、第5層が崩落した土層と考えられる。袖部は左袖がすでに失われており、右袖は地山を掘り残して構築されている。火床部はほぼ床面のレベルに構築され、火床面が赤変している。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|-------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子微量 |

ピット 3か所。P1・P2は深さ20cmで、竈に向い合って位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3は深さ10cmで、性格は不明である。

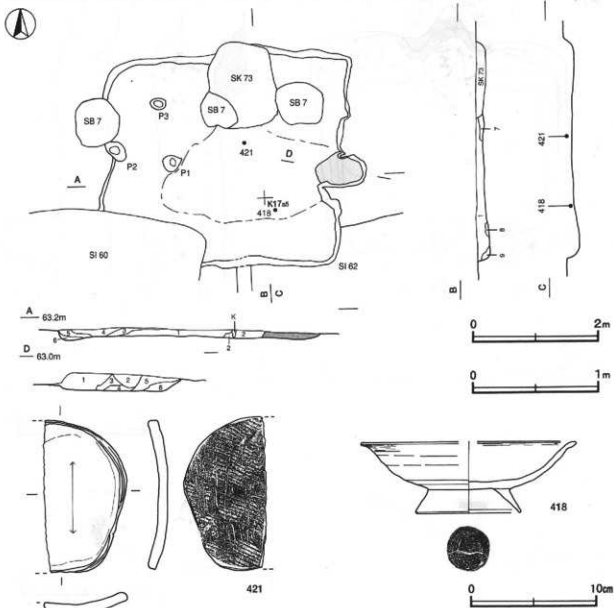
覆土 9層からなる。ブロックを含む土層が多く、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片206点(坏類104, 甕類102), 石材10点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片8点(坏類5, 甕類2, 壺1)が出土している。418は逆位の状態で, 421と共に第1層中から出土している。

所見 時期は, 重複関係と須恵器がみられなくなることから9世紀後半頃と推定される。



第181図 第61号住居跡・出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表 (第181図)

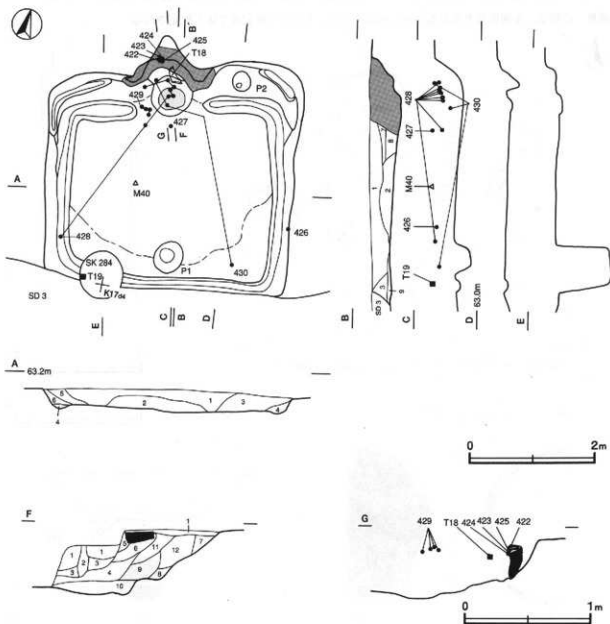
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
418	土師器	高台付椀	[17.0]	5.6	[8.4]	長石・赤色粒子 露出	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	55%

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
421	須恵器	礎	12.0	(6.5)	0.8	石英・長石 白色粒子	褐灰	普通	薬転用、外周研磨整形	覆土中層	50%

第63号住居跡 (第182~184図)

位置 調査区中央部のK17c4区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第3号溝、第284号土坑に掘り込まれている。



第182図 第63号住居跡実測図

規模と形状 南壁を第3号溝に掘り込まれており、全容は不明である。長辺4.0m、短辺3.7mの方形と推定され、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は20~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は竈の部分を除き、北壁は二重に巡っている。断面はU字形である。

竈 北壁の中央付近に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで128cm、袖部幅は146cmである。煙道部は壁外へ60cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部は削平を受け、残存部は崩落しており、第1・12層が対応する土層と考えられる。袖部は、青灰色粘土で構築されており、袖部の土留めに使用したと考えられる瓦が出土している。火床部は地山を掘り込んでおり、火床面が赤変硬化している。火床部の煙道部寄りに石材と土師器および須恵器等を転用した支脚を設置している。

土層解説

1 青灰色	粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量	7 灰褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	8 赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
3 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 灰褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	10 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
6 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	12 青灰色	粘土粒子中量、焼土粒子微量

ピット 2か所。P1は深さ33cmで、南壁の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ20cmで、性格は不明である。

覆土 9層からなる。炭化物を含む層が多く、不自然な堆積状況を示すことから、人為堆積の可能性が考えられる。第2層は炭化物を多く含んでいる。

土層解説

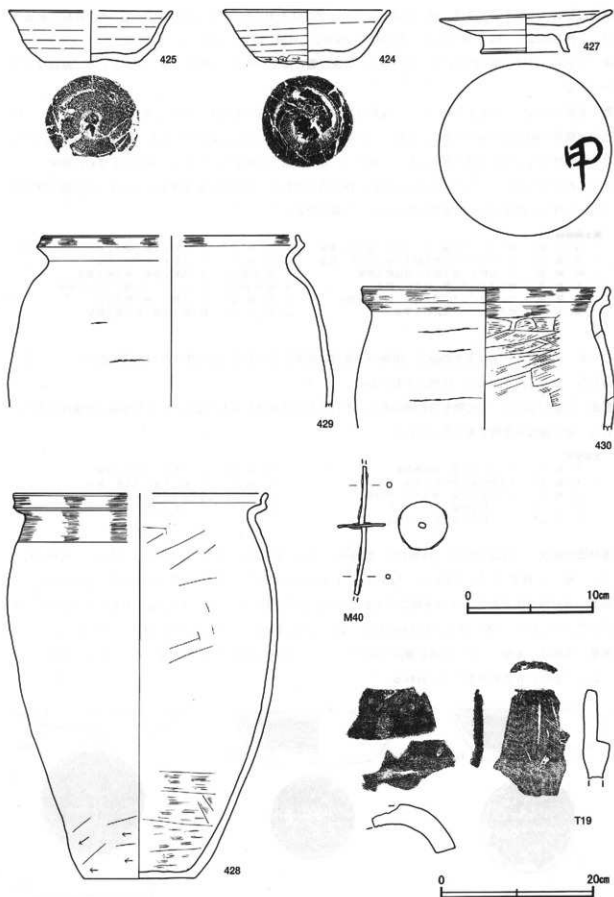
1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	6 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	炭化物中量、焼土粒子少量	7 灰褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	8 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量	9 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片823点（坏類132、甕類691）、須恵器片72点（坏類55、甕類15、高坏2）、灰軸陶器片3点（瓶3）、鉄製品2点（紡錘車）、瓦片14点、石材17点が出土している。422~425は支脚に転用された、土師器・須恵器の坏である。426は東壁に立てかけられた状態で出土している。427は竈の前面からほぼ正位の状態で出土しており、「甲」の墨書が認められる。428・429は竈周辺から破片の状態で出土している。

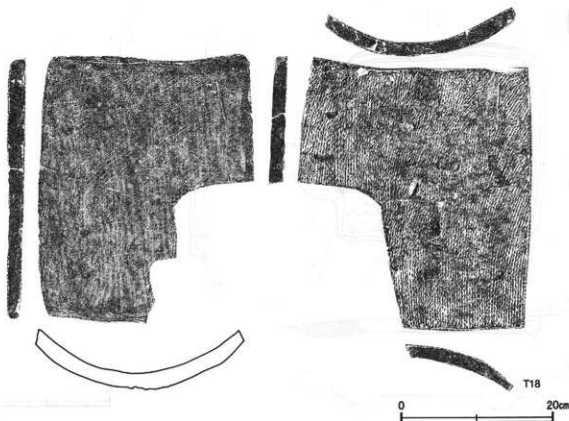
所見 本跡は、北壁に二重の壁溝が確認されたことから、北側に拡張された可能性が考えられる。時期は出土土器などから、9世紀後葉と考えられる。



第183図 第63号住居跡出土遺物実測図(1)



第184图 第63号住居跡出土遺物実測図(2)



第185図 第63号住居跡出土遺物実測図(3)

第63号住居跡出土遺物観察表 (第183~185図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
422	土師器	坏	12.9	4.3	7.6	石英・長石	におい赤褐色	普通	内面ヘラ磨き、底部手持ちヘラ削り	竈	90% PL93
423	土師器	坏	13.1	4.2	6.6	石英・長石・雲母	におい褐	普通	内面ヘラ磨き、底部・体部下端手持ちヘラ削り	竈	80% PL93
424	須恵器	坏	13.1	4.3	6.7	石英・長石・雲母	浅黄	普通	底部回転ヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	竈	90% 表/裏 PL97
425	須恵器	坏	[13.0]	4.1	7.2	石英・長石・雲母	浅黄	普通	底部回転ヘラ切り	竈	45%
426	土師器	皿	13.4	2.2	8.5	石英・長石	におい黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土上層	65%
427	須恵器	高台付皿	13.7	28~32	7.1	石英・長石	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土上層	95% 遺集(甲) 遺/表 PL100
428	土師器	甕	[20.2]	30.7	[8.8]	石英・長石・雲母	におい橙	普通	外面ナデ・下部ヘラ削り	覆土中層	50%
429	土師器	甕	[20.4]	(13.7)	-	石英・長石・雲母	におい橙	普通	内外面ナデ	覆土中	5%
430	土師器	甕	19.6	(11.3)	-	石英・長石・雲母	におい橙	普通	内面ナデ	覆土中	20%

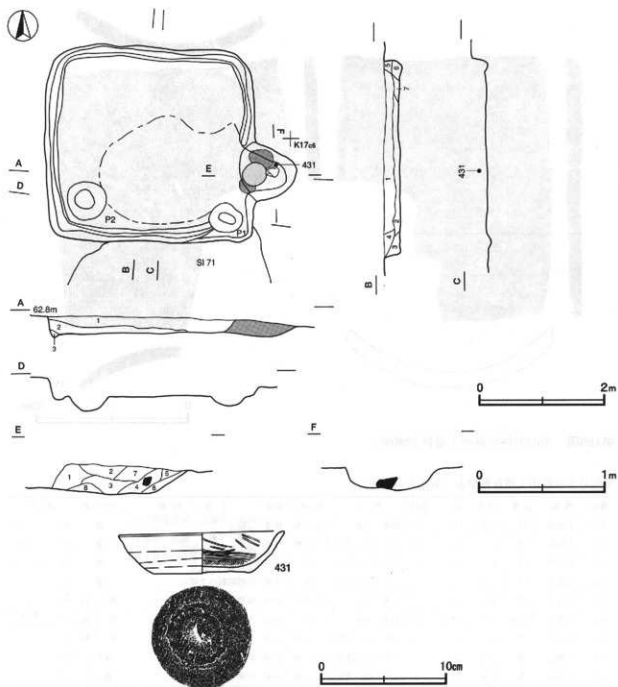
番号	器種	長さ	直径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M40	鉄鍔車	(10.1)	3.9	0.2	(13.1)	鉄	基部直径0.4、両端欠損	覆土上層	PL106

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T18	平瓦	35.0	27.6	2.3	(3370.0)	土	凸面押き、凹面布目痕	竈	PL110
T19	丸瓦	(14.0)	(10.4)	2.6	(4200)	土	五線式、凸面ヘラ削り、凹面布目痕、吊り紐痕	覆土上層	PL107

第64号住居跡 (第186図)

位置 調査区中央部のK17c5区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第71号住居跡を掘り込んでいる。



第186図 第64号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸3.3m、短軸3.2mの方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は16~28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈の前面からP2付近にかけて踏み固められている。壁溝はP1から竈の左袖部付近まで巡っており、断面はU字形である。

竈 東壁の南寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで92cm、竈の掘り込み幅は92cmである。煙道部は壁外へ70cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落しており、第2・5層が対応する土層と考えられる。袖部は尖われており、構築材と考えられる砂質粘土が残存している。火床部は床面とほぼ同じレベルで、火床面が赤変硬化している。火床部の煙道部寄りに、石製支脚が設置されている。

甌土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	5 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
2 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	6 黒褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量
3 黒褐色	炭化物・焼土粒子微量	7 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	8 暗赤褐色	焼土粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さ16~23cmで、主柱穴と考えられる。対応する北側の柱穴は確認されなかった。

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	炭化粒子少量、粘土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ローム粒子中量	7 褐色	ローム粒子少量
4 褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片163点(坏類59, 甕類104), 須恵器片10点(坏類4, 甕類6), 石材5点が出土している。431は煙道部の底面付近から、逆位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第64号住居跡出土物観察表 (第186図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
431	土師器	坏	134	3.3	8.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	内面へう磨き、底縁回転へう切り	煙道部	95% PL93

第65号住居跡 (第187図)

位置 調査区西部のJ16f0区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第50号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北側は調査区域外に延び、全容は明らかではない。規模は長辺2.1m、短辺0.9mで、主軸方向は北壁からN-82°-Wと推定される。壁高は53~70cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 西壁の南西コーナー付近に構築されている。焚き口部から煙道部先端まで42cm、箱部の掘り込み幅は64cmである。天井部は崩落しており、第3層が対応する土層と考えられる。箱部は左袖は失われており、右袖は石材を構築材として使用している。火床部は地山を掘り込んでおり、火熱をあまり受けていない。

甌土層解説

1 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗赤褐色	焼土粒子少量
2 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 確認されなかった。

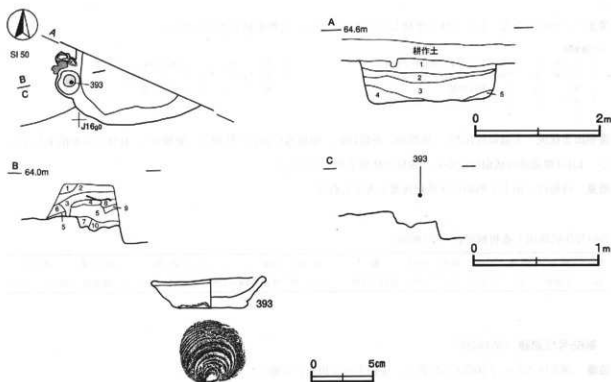
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	4 黒褐色	ローム粒子微量
2 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5 明褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片29点（坏類10，甕類19），石材3点の他，埋没する過程で混入した須恵器片4点（坏類2，甕類2），陶器片1点（体部），土師質土器片1点（体部）が出土している。393は竈内の第3層直下から，正位の状態で出土している。

所見 時期は，出土土器から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。



第187図 第65号住居跡・出土物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表（第187図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
393	土師器	甕	8.6	2.5	5.0	白色粒子・雲母	におい濁	普通	底部回転糸切り	竈	90% PL99

第66号住居跡（第188・189図）

位置 調査区中央部のK17B区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第145号住居跡，第2号掘立柱建物跡，第66号土坑を掘り込み，第72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.5m，短軸3.3mの方形で，主軸方向はN-103°-Eである。壁高は25~30cmで，北壁はほぼ直立しており，その他は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の中央に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで52cm，袖部幅は55cmである。竈は壁外へ50cmほど掘り込まれ，煙道部はほぼ直立している。天井部は崩落しており，第2・5層が対応する土層と考えられる。袖部は，扁平な石材を構築材として使用している。火床部はほぼ床面と同じレベルで，火床面が赤変硬化している。煙道部の壁際に石製支脚が設置されている。

覆土層解説

1 暗褐色	赤色粒子微量	7 暗褐色	焼土粒子少量
2 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	8 暗赤褐色	焼土ブロック中量
3 褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	9 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	焼土粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量
5 褐灰色	粘土粒子中量	11 暗赤褐色	焼土粒子少量
6 暗赤褐色	焼土粒子少量	12 灰褐色	粘土粒子多量

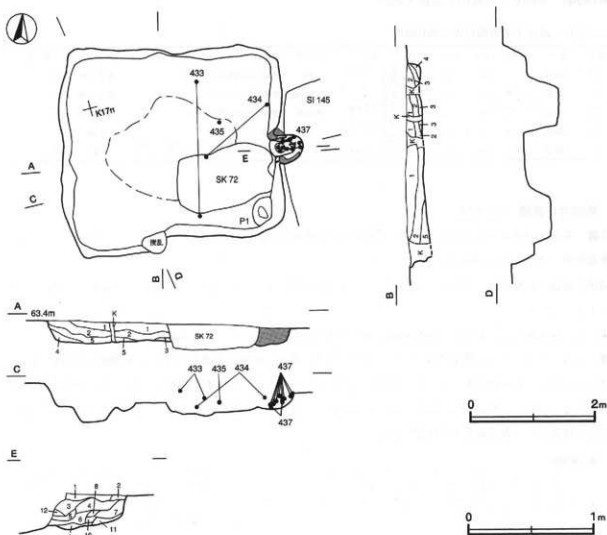
ピット 1か所。P1は深さ22cmで、主柱穴と考えられるが、対応するその他の柱穴は確認されなかった。

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

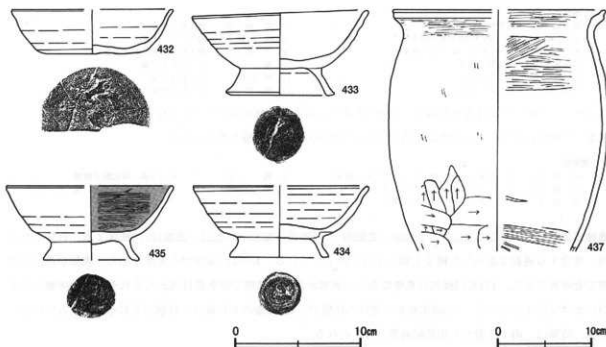
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片183点(坏類89, 甕類94), 須恵器片22点(坏類11, 甕類11), 鉄滓2点, 石材8点の他, 埋没する過程で混入した縄文土器片1点が出土している。433は口縁部が南壁寄りから、底部が逆位の状態で北壁寄りから, 434も口縁部は東壁際から、底部が逆位の状態で中央部付近からそれぞれ覆土中層から下層にかけて出土している。435は床面から逆位の状態で, 437は竈内から破片の状態でそれぞれ出土している。所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第188図 第66号住居跡実測図



第189図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表 (第189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
432	土師器	杯	[12.8]	3.5	8.2	灰石・赤色粒子 白土・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	45%
433	土師器	高台付碗	19.0	6.8	8.7	灰石・赤色粒子 長石・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ	覆土下層	70%
434	土師器	高台付碗	[13.8]	5.7	7.8	灰石・赤色粒子 長石・赤色粒子	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	60%
435	土師器	高台付碗	[13.2]	5.9	[7.6]	灰石・赤色粒子 長石・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き	床面	30%
437	土師器	甕	[22.4]	(25.7)	-	灰石・赤色粒子	にぶい赤黄	普通	体部外面下部ヘラ磨り、内面ナデ	甕	15%

第67号住居跡 (第190図)

位置 調査区中央部のK172区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第145号住居跡を掘り込んでいる。

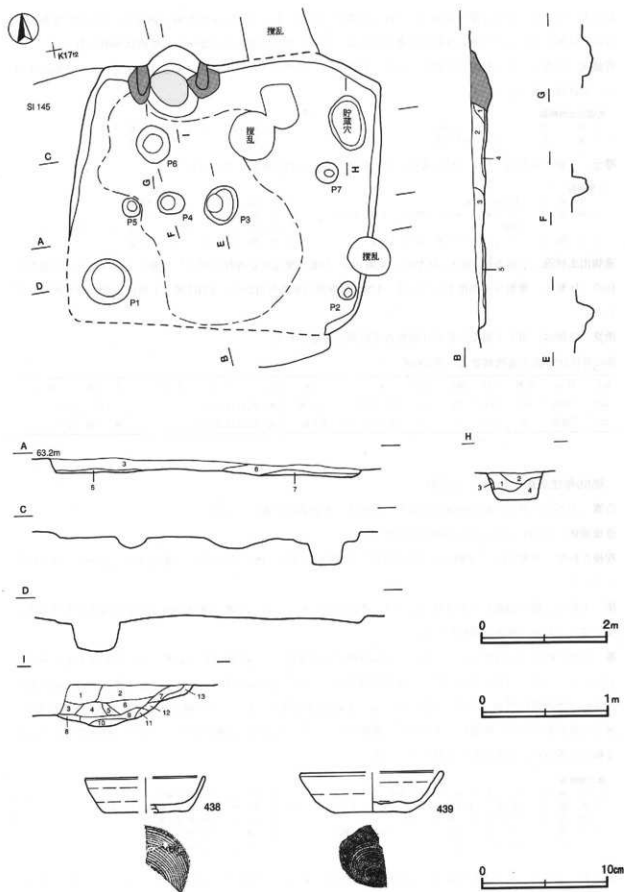
規模と形状 長軸4.3m, 短軸4.2mの方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁高は8~15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、南壁から竈の前面にかけて踏み固められている。壁際は確認されなかった。

竈 北西コーナー付近に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで112cm, 両軸幅は147cmである。煙道部は壁外へ45cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落しており、第6層が対応する土層と考えられる。袖部は地山を掘り残し、砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山を若干掘り込んで構築され、火床面が赤変硬化している。

竈土層解説

1 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量	7 灰褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量
2 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	8 褐灰色	ロームブロック微量
3 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	9 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
4 灰褐色	粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量	10 にぶい黄褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子少量
5 暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6 褐灰色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量	12 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
		13 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量



第190图 第67号住居跡・出土遺物実測図

ピット 7か所。P1は深さ46cmで、支柱穴と考えられる。P2・P3は深さ30~38cmで、それぞれ壁際と中央部に位置していることから支柱穴と考えられる。P4~P7は深さ15~28cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー付近に位置している。長径90cm、短径54cmの楕円形で、深さは41cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 3 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子微量 | 4 灰褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量・炭化物・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| | | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片230点(坏類67, 甕類163)の他、埋没する過程で混入した弥生土器片4点、須恵器片16点(坏類7, 甕類9)が出土している。438は北東部の床面付近から、439は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器などから10世紀後半以降と想定される。

第67号住居跡出土遺物観察表 (第190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
438	土師器	皿	[94]	28	[68]	灰石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転未切り	床面	40%
439	土師器	皿	[112]	32	[56]	石英・灰石・雲母	明赤褐	普通	底部回転未切り	覆土上層	30%

第68号住居跡 (第191・192図)

位置 調査区中央部のK17g3区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第250・251号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.4m、短軸4.6mの長方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁高は18~29cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈の前面から中央付近にかけて踏み固められている。壁溝は東壁の南寄りから西壁の中央部付近まで巡っており、断面は逆台形である。

竈 北壁の西寄りに構築されている。天井部や袖部の構築材として使用されたと考えられる石材が竈の前面から出土している。規模は焚き口部から煙道部先端まで55cm、両袖幅は110cmである。竈は壁外へ50cmほど掘り込まれ、煙道部は外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第3層が対応する土層と考えられる。袖部は壁を掘り込み、砂質粘土を充填して構築されている。火床部は床面と同じレベルで、煙道部寄りに石製支脚が設置され、火床面が赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 5 赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| | | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子微量 |

ピット 1か所。P1は深さ40cmで、南壁の壁溝中やや東寄りに位置していることから、支柱穴と考えられる。

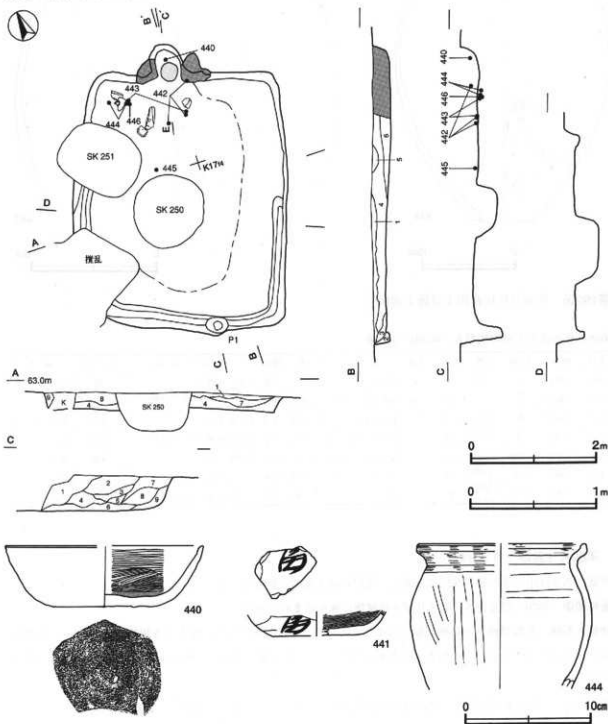
覆土 9層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

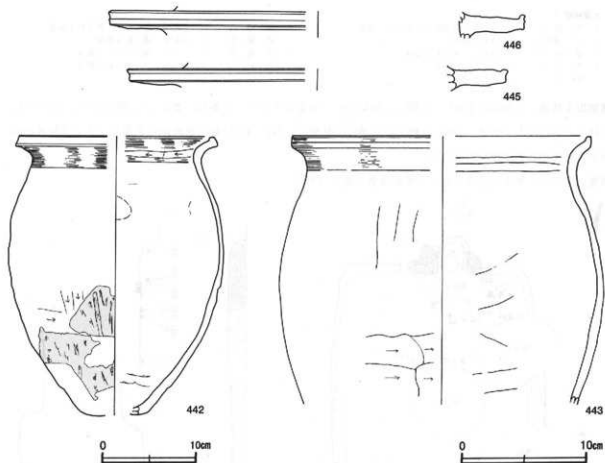
1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 濃い黄褐色	ローム粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師器片279点(坏類91, 堯類188), 須恵器片18点(坏類11, 堯類7), 鉄滓2点, 瓦片1点, 石材7点が出土している。440は支脚上から逆位の状態で, 442~446は竈の前面から北西コーナー部付近の床面から破片の状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器などから9世紀後葉と考えられる。



第191図 第68号住居跡・出土遺物実測図



第192図 第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表 (第191・192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備考
440	土師器	坏	[15.8]	4.9	[8.3]	石英・長石・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き	竈	55%
441	土師器	坏	-	(1.9)	[7.0]	石英・長石・雲母	にぶい褐色	普通	内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ削り	覆土上層	10%
442	土師器	甕	[20.5]	29.4	[7.0]	石英・長石	にぶい赤黒	普通	内外面ナデ	床面	40% 蓋土付着
443	土師器	甕	[23.8]	(21.4)	-	長石・白色粒子	にぶい褐	普通	体部外面横位のヘラ削り	床面	20%
444	土師器	小形甕	[13.2]	(11.5)	-	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	内外面ナデ	床面	20%
445	土師器	羽釜	つば部 [30.2]	(1.9)	-	石英・長石・雲母	にぶい赤黒	普通	つば部先端つまみ上げ	床面	5%
446	土師器	羽釜	つば部 [33.2]	(2.0)	-	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	つば部先端つまみ上げ	床面	5%

第69号住居跡 (第193図)

位置 調査区中央部のK17d6区に位置し、尾根の縁辺部に立地している。

重複関係 第70・72号住居、第3号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 北側は後世の遺構に掘り込まれており、全容は不明である。現存する規模は長辺5.2m、短辺3.2mの方形または長方形で、主軸方向は東壁からN-4°-Eと推定される。壁高は5~7cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、若干軟弱である。壁溝は東壁から西壁にかけて通っており、断面はU字形である。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 2か所。P1は深さ28cmで、柱穴と考えられる。P2は深さ11cmで、性格は不明である。

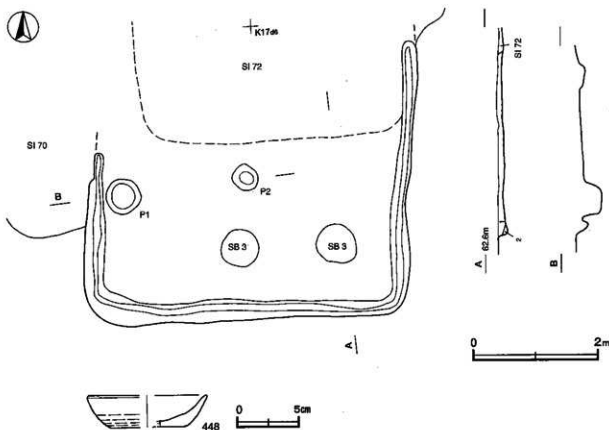
覆土 2層からなる。ロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化穀子微量 2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片40点(坏類27, 甕類13), 須恵器片3点(甕類), 鉄滓5点, 石材6点の他, 埋没する過程で混入した石器1点(石鏃)が出土している。448は覆土中層から出土している。

所見 時期は, 重複関係から8世紀代と考えられる。



第193図 第69号住居跡・出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表 (第193図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
448	土師器	坏	[9.4]	2.5	[5.8]	黒色穀子・雲母	橙	普通	回転ヘラ削り	覆土中層	25% 墨付着

第70号住居跡 (第194図)

位置 調査区中央部のK17d5区に位置し, 尾根の縁辺部に立地している。

重複関係 第69・71号住居跡を掘り込み, 第72号住居, 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東側を第72号住居に掘り込まれており, 全容は不明である。現存する規模は長辺4.7m, 短辺2.6mの方形または長方形で, 主軸方向は西壁から $N-8^{\circ}-W$ と推定される。壁高は17~26cmで, はほぼ直立している。

床 平坦で、南側を中心に踏み固められている。壁溝は西壁から北西コーナー付近を巡っており、断面はU字形である。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

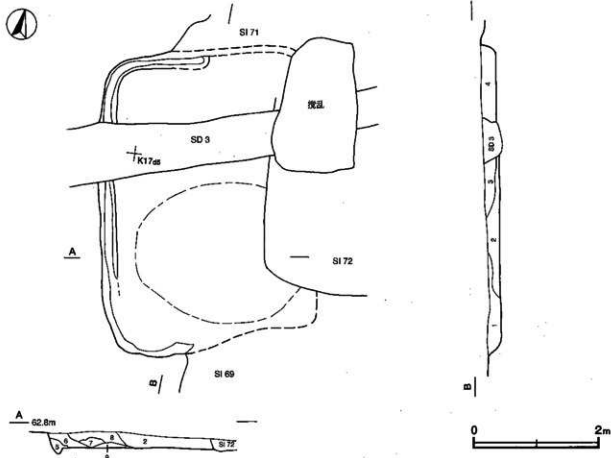
覆土 9層からなる。ブロックを含む土層が多く、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	6 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片94点(坏類37, 変類57), 須恵器片17点(坏類12, 変類5)が出土している。いずれも小片のため、図化できなかった。

所見 時期は、重複関係から9世紀代と推定される。



第194図 第70号住居跡実測図

第71号住居跡 (第195図)

位置 調査区中央部のK17c5区に位置し、尾根上の縁辺部に立地している。

重複関係 第64・70・72号住居, 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北側を第64号住居, 南側を第70・72号住居に掘り込まれており, 全容は不明である。現存する

規模は長辺3.1m、短辺3.0mの方形または長方形で、主軸方向は西壁からN-15°-Wと推定される。壁高は25cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、若干軟弱である。壁溝は西壁に残存しており、断面はU字形である。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 2か所。P1・P2は深さ32~39cmで、主柱穴と考えられる。対応する柱穴は確認されなかった。

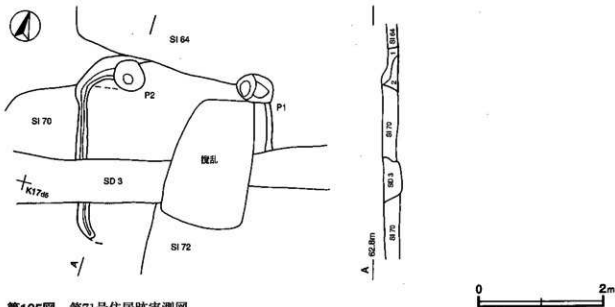
覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積の可能性がある。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片4点（環類3、甕類1）が出土している。遺物は小片のため、図化できなかった。

所見 時期は、重複関係と出土土器から第70号住居に先行する平安時代と考えられる。



第195図 第71号住居跡実測図

第72号住居跡（第196図）

位置 調査区中央部のK17d6区に位置し、尾根上の縁辺部に立地している。

重複関係 第69・70・71号住居跡を掘り込み、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北壁を第3号溝に掘り込まれており、全容は不明である。確認された規模は長辺4.3m、短辺3.3mの長方形で、主軸方向はN-90°-Eと推定される。壁高は6~15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、竈の前面が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁に構築されている。規模は吹き口部から煙道部先端まで56cm、袖部幅は92cmである。竈は壁外へ45cmほど掘り込まれ、ほぼ直立している。天井部は崩落しており、構築材と考えられる石材が倒れ込んでいる。袖部は石材を構築材とし、砂質粘土を補助的に使用して構築されていたと考えられる。火床部は床面とほぼ同じレベルで、火床面が赤変している。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック微量 3 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量
2 暗褐色 焼土粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1・P2は深さ26~51cmで、主柱穴と考えられる。P3は深さ15cmで、南壁中央付近に位

置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4・P5は深さ13～15cmで、性格は不明である。

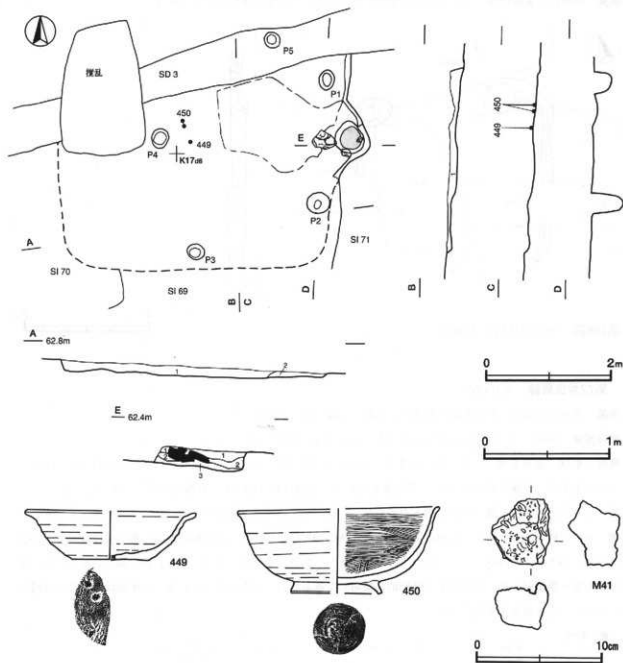
覆土 2層からなる。ロームブロックを含むことから、人為堆積の可能性がある。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化穀子・粘土粒子微量 2 褐色 ロームブロック・炭化穀子微量

遺物出土状況 土師器片43点(坏類32, 甕類11), 鉄滓1点, 石材4点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片1点(坏類)が出土している。449・450は覆土下層から破片の状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器などから10世紀後半～11世紀前半と考えられる。



第196図 第72号住居跡・出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表 (第196図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
449	土師器	坏	[13.2]	3.8	[6.0]	黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土下層	35%
450	土師器	高台付甕	[15.9]	7.0	[7.2]	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面へう磨き、底部回転へう切り縁ナデ	覆土下層	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M41	鉄洋	34	4.5	4.1	111.8	砂鉄地	着磁性强、砂質粘土付着	覆土中	

第73号住居跡 (第197・198図)

位置 調査区中央部のK17a6区に位置し、尾根上の縁辺部に立地している。

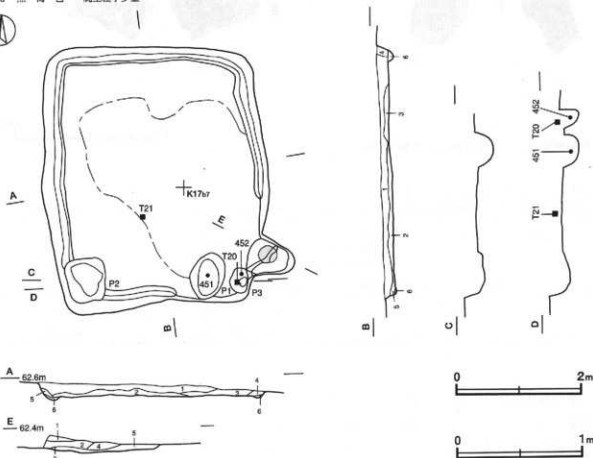
規模と形状 長軸4.2m、短軸3.6mの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は11~17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面から中央部付近にかけて踏み固められている。壁溝は南壁の中央から竈の左袖部付近にかけて巡っており、断面はU字形である。

竈 南東コーナーに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで72cm、竈の掘り込み幅は74cmである。竈は壁外へ60cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部は削平され、袖部も失われている。火床部は床面とほぼ同じレベルで、火床面が赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|--------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 2 暗赤褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子少量 | | |



第197図 第73号住居跡実測図

ピット 3か所。P 1は深さ21cmで支柱穴と考えられるが対応する北側の柱穴は確認されなかった。P 2は深さ10cmで、方形であることから貯蔵穴とも考えられるが明らかではない。P 3は深さ17cmで、甕の右袖の位置にあり、性格は不明である。

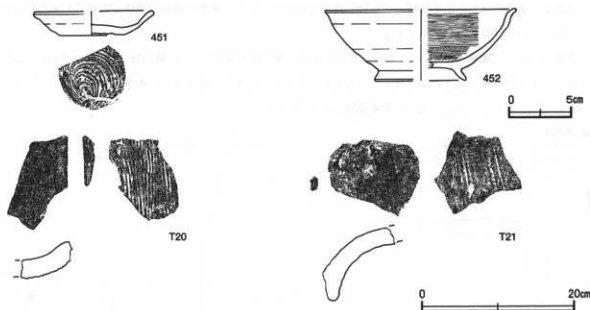
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片84点(環類48, 甕類36), 土製品片1点(支脚), 瓦片5点, 石材7点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片5点(環類3, 甕類2)が出土している。451はP 1の覆土中から正位の状態、452はP 3の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から11世紀代と考えられる。



第198図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表 (第198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
451	土師器	環	[9.4]	1.9	5.1	石質・赤色粒子に多い	褐色	普通	底部回転糸切り	P 1覆土	40%
452	土師器	高台付甕	[15.2]	5.6	[7.2]	石質・赤色粒子に多い	褐色	普通	内面ヘラ磨き	P 3覆土	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T20	平瓦	(12.4)	(6.6)	2.4	(290.0)	土	凸面平行叩き, 凹面布目痕, 端部ヘラ削り	覆土上層	
T21	丸瓦	(11.0)	(8.6)	2.4	(390.0)	土	凸面ヘラ削り, 凹面布目痕	覆土上層	

第74号住居跡 (第199・200図)

位置 調査区中央部のJ17j3区に位置し, 尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第57・60号住居跡を掘り込み, 第276号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.4m, 短軸3.0mの長方形で, 北西コーナー部が西に張り出している。主軸方向はN-98°-

Wである。壁高は18~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面が踏み固められている。壁溝は北西コーナーから南東コーナーにかけて通っており、断面はU字形である。

竈 西壁の南寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで82cm、袖幅は44cmである。煙道部は壁外へ35cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第1・3層が対応する土層で、石材を用いて構築されている。袖部は石材を設置し、地山との空間に粘土を充填して構築されている。火床部は地山を若干掘り込んでおり、火床面が赤変硬化している。

壁土層解説

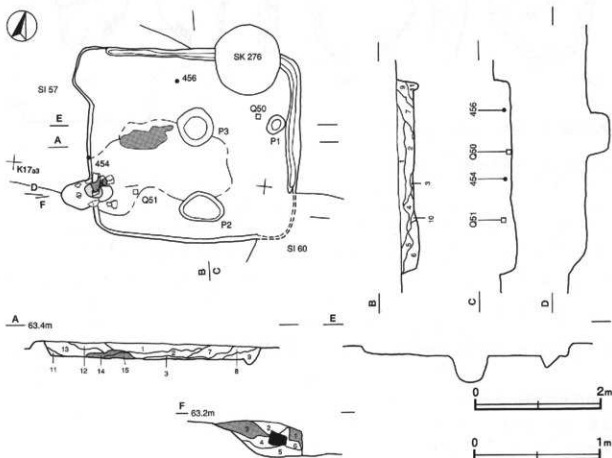
- | | | | |
|--------|-------------------|---------|--------------------|
| 1 灰 褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 4 褐 灰色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐 灰色 | 粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 5 灰 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 灰 褐色 | 粘土ブロック中量 | 6 暗 赤褐色 | 焼土粒子中量 |

ピット 3か所。P1は深さ15cmで、東壁に接していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は深さ38~53cmで、中央部に位置しているものの、柱穴と考えられる。

覆土 15層からなる。第1・2層は含有物を均等に含んでいることから自然堆積と考えられるが、その他の土層はブロック及び粘土を含む層が多いことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|----------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 明 褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 9 黒 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐 色 | ローム粒子中量、炭化物微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量 |

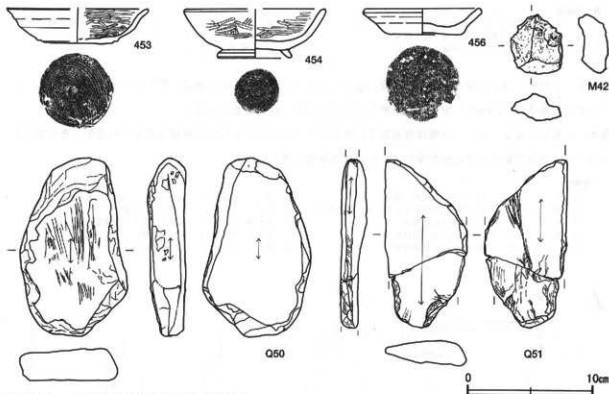


第199図 第74号住居跡実測図

- 11 褐 色 ローム粒子少量
 12 褐 灰色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
 13 褐 灰色 ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量

- 14 褐 灰色 粘土ブロック中量
 15 灰 褐色 粘土粒子中量、炭化粒子微量

土器出土状況 土器器片238点(坏類95, 甕類143), 石製品3点(砥石), 鉄滓2点, 石材14点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片31点(坏類10, 甕類20, 高坏1)が出土している。454は西壁際から逆位の状態、456は北壁寄りから正位の状態でそれぞれ覆土下層から、Q50・51は覆土上層から床面にかけて出土している。所見 本跡は北西コーナーが西側に張り出しており、特異な形態をしている。時期は、重複関係と出土遺物から11世紀代と考えられる。



第200図 第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表(第200図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
453	土器	坏	[11.0]	2.8	6.0	長石・赤色粒子	橙	普通	内面へう磨き、底部回転糸切り、底部交互	覆土上層	65%
454	土器	高台付甕	[11.1]	3.9	5.7	石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	内外面へう磨き、底部回転糸切り	覆土下層	55%
456	土器	甕	9.1	2.1	6.0	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部ナデ	覆土下層	75%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	砥石	14.1	8.2	3.1	484.0	粘板岩	砥面3面	床面	
Q51	砥石	(13.4)	6.5	2.0	(180.0)	粘板岩	砥面3面	覆土上層	
M42	鉄滓	4.7	4.1	2.4	61.3	鉄	着磁性弱、炭土付着	覆土中	

第75号住居跡(第201図)

位置 調査区中央部のJ177区に位置し、東へ傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第78号住居跡と重複している。

規模と形状 上面を削平され、ロームを主体とする粘床の硬化面が残存している。現存する規模は長辺1.7m,

短辺1.1mで、形状および主軸方向は不明である。

床 若干起伏がある。

竈 竈の基底部と考えられる粘土の痕跡が確認されている。規模は、長辺62cm、短辺48cmである。

ピット 遺構に伴うと考えられるピットは、確認されなかった。

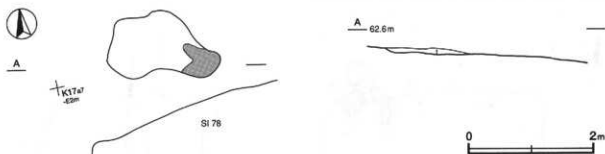
覆土 覆土は存在しないが、貼床の層を確認した。

土層解説

1 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 遺物は確認されなかった。

所見 覆土が薄く、土層断面からは第78号住居跡との新旧関係は確認できなかったが、第78号住居跡の覆土上から住居の貼床は確認されなかったことから、本跡が先行する可能性がある。



第201図 第75号住居跡実測図

第76号住居跡（第202図）

位置 調査区中央部のK17a9区に位置し、東へ傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第78号住居跡を掘り込み、第50号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.8m、短軸2.7mの長方形で、主軸方向はN-11°-Eである。壁高は10~12cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、ローム混じりの褐色土による貼床が施されており、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北東コーナー付近に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで100cm、袖部幅は83cmである。煙道部は壁に接して長径53cm、短径38cmの楕円形のピット状に掘り込んでおり、火床部との境界に地山を掘り残している。天井部は崩落しており、第3・4・9・10層が対応する土層と考えられる。袖部は、砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じレベルで、火床面が赤変硬化している。煙道部の中央部に支脚と考えられる石材を設置している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|---------|-----------------------|
| 1 に濃い黄褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 2 黒色 | 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 灰褐色 | 粘土粒子多量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、粘土粒子少量 | 10 灰褐色 | 焼土粒子多量 |
| 4 に濃い黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土ブロック微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子多量、ローム粒子少量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 7 灰黄褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| | | 15 灰褐色 | 粘土粒子中量 |

ピット P1は深さ10cmで、柱穴と考えられる。

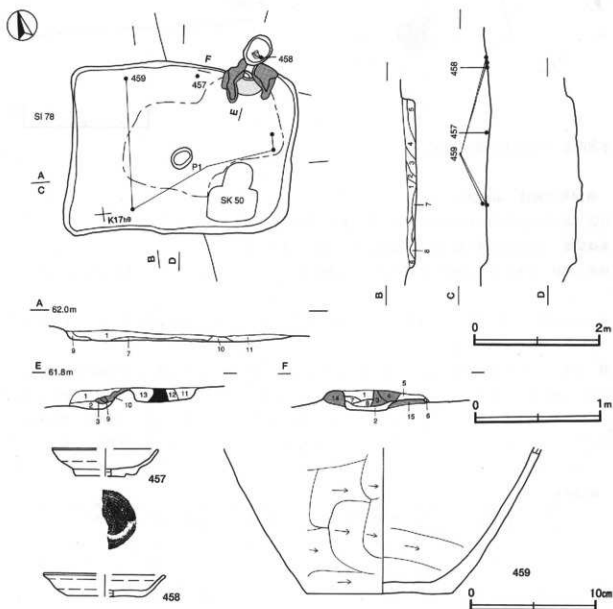
覆土 11層からなる。ブロックを含む層が多いことから、人為堆積と考えられる。第7・8層は貼床の土層である。

土層解説

1 褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	6 褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	8 明褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
4 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	9 明褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
		11 褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片205点(坏頸67, 甕頸138), 石材2点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片24点(坏頸14, 甕頸10)が出土している。457は北壁際の覆土下層からほぼ正位の状態、458は煙道部から破片の状態、459は破片の状態で覆土下層から床面にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器から11世紀前半と考えられる。



第202図 第76号住居跡・出土遺物実測図

第76号住居跡出土物観察表 (第202図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
457	土師器	皿	[8.4]	2.2	[4.7]	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り	覆土下層	50%
458	土師器	皿	[9.3]	1.8	[5.8]	赤色・黒色粒子・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	煙道部	40%
459	土師器	甕	-	(11.6)	11.5	石英・長石・雲母	明褐色	普通	体外外面横位の削り	床面	40%

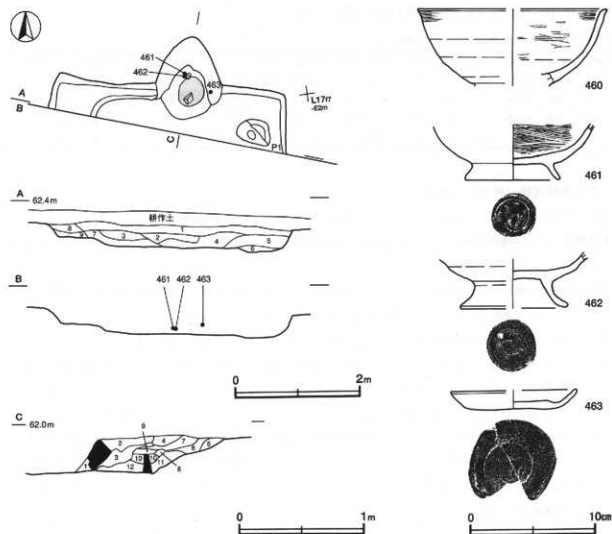
第77号住居跡 (第203図)

位置 調査区中央部のL17e6区に位置し、東へ傾斜する斜面に立地している。

規模と形状 南側は調査区域外に延び、全容は明らかではない。規模は現存で長辺3.8m、短辺0.9mの方形または長方形で、主軸方向はN-16°-Eと推定される。壁高は20-35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部から東側は平坦である。西壁寄りに段差があることから、拡張された可能性がある。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁の東寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで136cm、竈の掘り込み幅は105cmである。煙道部は壁外へ80cmほど掘り込まれ、緩やかに外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第7・8・12層が対応する土層と考えられ、構築材と考えられる石材が焚き口部から出土している。袖部も破壊



第203図 第77号住居跡・出土遺物実測図

されており、石材を芯材とし、砂質粘土で構築されたと考えられる。火床部は床面とほぼ同じレベルで、火床面が赤変硬化している。煙道部の立ち上がり際に石製支脚を設置している。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 灰褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 青灰色	粘土粒子多量
3 凝り赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量	9 暗褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
4 暗赤褐色	焼土粒子少量、粘土粒子微量	10 暗褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11 褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量
6 灰褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック微量	12 灰褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量

ピット 1か所。P1は深さ33cmで、主柱穴と考えられる。対応するその他の柱穴は確認されなかった。

覆土 9層からなる。不自然な堆積状況を示していることから、人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片131点（坏類101、甕類30）、瓦片1点、石材4点の他、埋没する過程で混入した須恵器片1点（坏類）が出土している。461・462は支脚付近から逆位の状態、463は右袖付近からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器などから10世紀後半と考えられる。

第77号住居跡出土遺物観察表（第203図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
460	土師器	高台付椀	[15.0]	(6.1)	—	石英・長石・雲母	にぶい腹	普通	内面ヘラ磨き	覆土中層	30%
461	土師器	高台付椀	—	(4.4)	7.5	石英・長石・雲母	にぶい腹	普通	底部内面溝状の磨き、底部回転ヘラ切り	壺	20%
462	土師器	高台付椀	—	(4.3)	[8.4]	長石・白色粒子	にぶい腹	普通	ロクロナデ	壺	15%
463	土師器	皿	[10.0]	1.5	6.1	赤色・雲母	瘦	普通	底部回転ヘラ切り	壺	50%

第78号住居跡（第204～209図）

位置 調査区中央部のK17b8区に位置し、東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係 第1号住居跡を掘り込み、第76号住居、第10号掘立柱建物、第275号土坑に掘り込まれ、第75号住居跡と重複している。

規模と形状 長軸7.0m、短軸6.7mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は10～60cmで、外傾して立ち上がっている。南壁中央部が、1mほど南に張り出している。

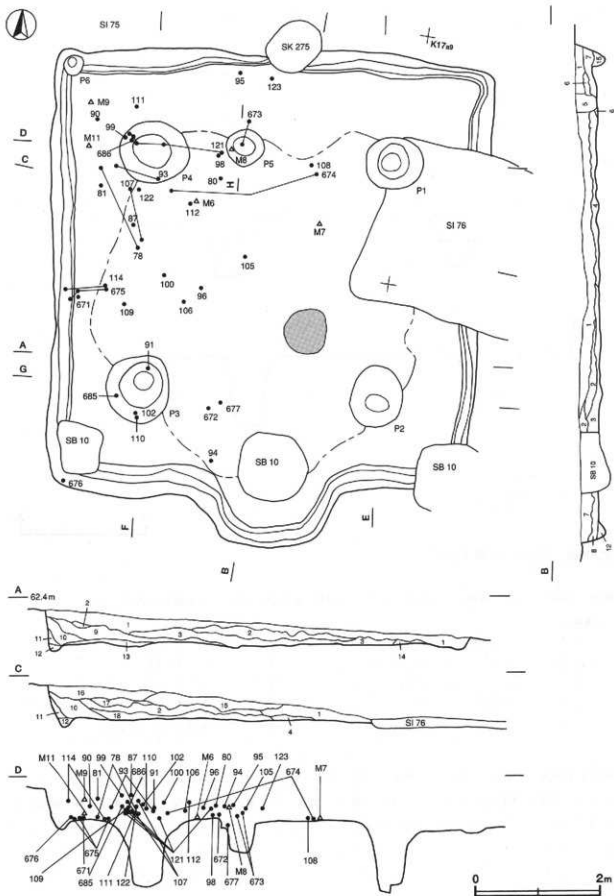
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁際は全周しており、断面U字形である。

炉 中央部のやや南寄りに位置し、径1mの皿状のわずかなくぼみに焼土が堆積している。底面はあまり硬化しておらず、あまり火熱を受けた形跡は見られない。

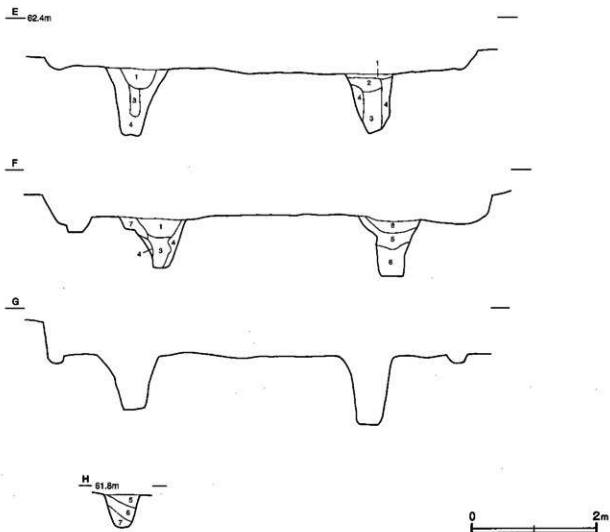
ピット 6か所。P1～P4は深さ100～150cmで、主柱穴と考えられる。覆土上層には焼土が多く見られ、P4から石材や粘土も検出されている。P5は深さ80cmで、P1・P4の軸線上に位置していることから、柱穴と考えられる。P1～P3は第1～3層に抜き取り痕の層が見られ、焼絶時に柱を抜き取ったものと推定される。P6は深さ35cmで北西コーナー部に位置し柱穴の可能性があるが、他に対応するピットは確認できなかった。

ピット土層解説（P1～P5）

1 黒褐色	焼土ブロック少量、炭化物微量	5 褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	6 褐色	炭化物少量、黒沼バミス微量
3 暗褐色	黒沼バミス少量、ロームブロック・炭化物微量	7 褐色	炭化粒子・焼土・黒沼バミス微量
4 褐色	黒沼バミス中量	8 褐灰色	粘土ブロック・焼土粒子多量



第204图 第78号住居跡実測図(1)



第205図 第78号住居跡実測図(2)

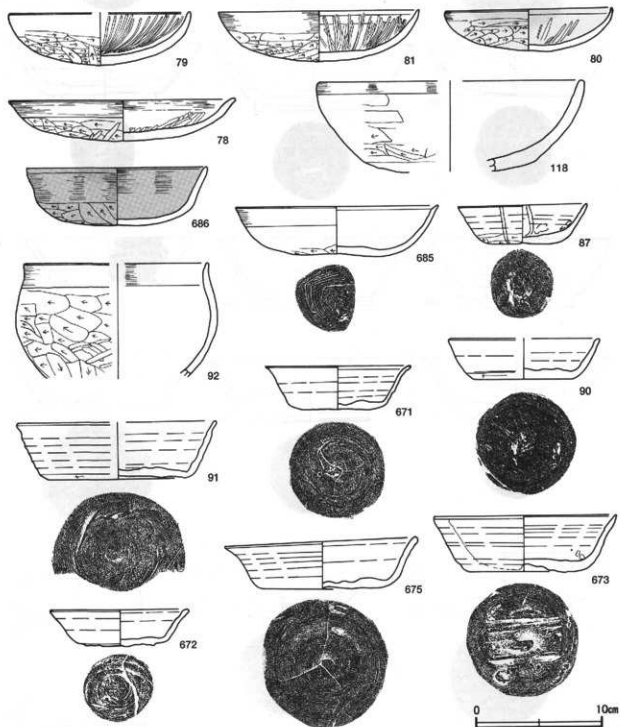
覆土 18層からなる。西側から流れ込んだような堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

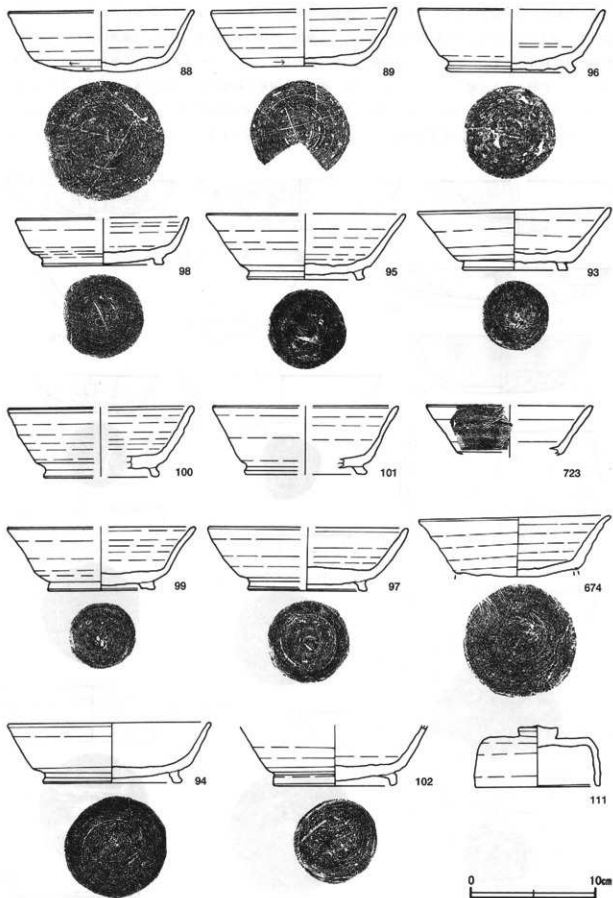
1 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	10 暗褐色	炭化物・ローム粒子少量
2 褐灰色	砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	12 褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物微量	13 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
5 褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	14 褐色	ローム粒子中量
6 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量	15 黒褐色	ローム粒子・炭化物少量, 焼土ブロック微量
7 黒褐色	ローム粒子・赤色粒子少量	16 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子中量	17 黒褐色	焼土粒子中量, 炭化物少量
9 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	18 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1,785点(坏類605, 甕類1,180), 須恵器片515点(坏類338, 甕類174, 捏鉢3), 土製品6点(支脚), 鉄製品6点(刀子3, 釘2, 鎌1), 鉄滓6点の他, 埋没時に混入したと考えられる縄文土器片2点が出土している。671・675・676は西壁寄り, 98・673, M6はP5付近, 108は中央部北壁寄りの床面上からそれぞれ出土している。多くの遺物は北西コーナー寄りに集中しており, 第1・15~17層より下層から出土している。78・81・87・90・91・93・107・110・111などは, 埋没する過程で北西コーナー側から投棄されたものと考えられる。

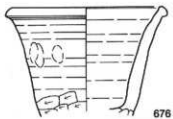
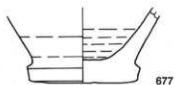
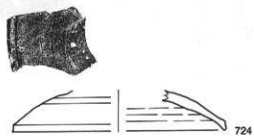
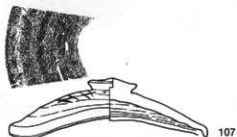
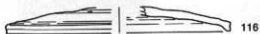
所見 長軸が7mを超える大きさであること、壁溝が全周していること、竈がなく炉が見られること、南側に張り出しを持つことなど、この時期の住居跡としては規模、形状ともに特異であり、当遺跡内においては他に類例が見られない。また、本跡からは須恵器が多量に出土しているが、その多くに歪みや破損があり、大半が第1・15~17層よりも下層から出土しているため、埋没する過程で投棄されたものと考えられる。これらの須恵器には地元の瀬ノ内窯産と考えられる製品の他に、益子窯産や新治窯産と考えられる製品も含まれており、古代の商品流通を考える上で重要な資料と考えられる。時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



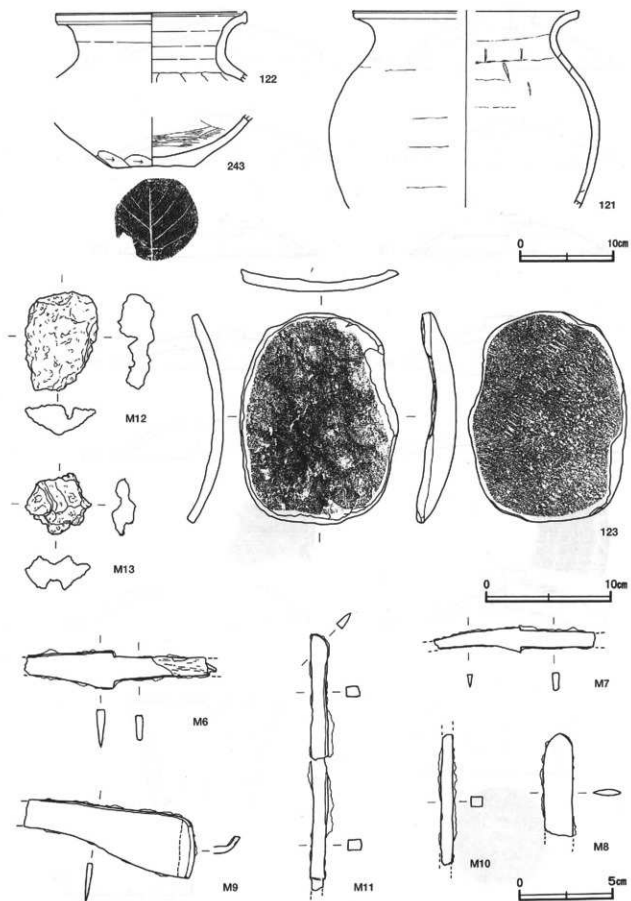
第206図 第78号住居跡出土遺物実測図(1)



第207图 第78号住居跡出土遺物実測図(2)



第208图 第78号住居跡出土遺物実測図(3)



第209图 第78号住居跡出土遺物実測図(4)

第78号住居跡出土遺物観察表 (第206~209頁)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
78	土師器	杯	17.8	3.2	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り、内面へラ磨き	覆土下層	50% PL94
79	土師器	杯	[14.3]	4.2	-	雲母	明赤褐	普通	体部外面へラ削り、内面磨き	覆土中層	45% PL94
80	土師器	杯	13.2	3.3	-	長石・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り、内面へラ磨き	覆土中層	80% 内輪部 PL94
81	土師器	杯	16.0	4.1	-	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面へラ削り、内面へラ磨き、口縁内側沈澱1条	覆土上層	55% PL94
87	須恵器	杯	10.3	3.2	5.2	長石	灰	普通	底部回転へラ切り後手持ちへラ削り	覆土上層	65% 堀ノ内・ PL97
88	須恵器	杯	[14.6]	4.7	10.8	石英・長石・雲母	灰黄	普通	底部回転へラ削り	覆土上層	45% 堀ノ内・ PL97
89	須恵器	杯	[14.7]	4.5	[8.0]	石英・長石・雲母	灰白	普通	体部下端回転へラ削り	覆土中層	45% 堀ノ内・ 木下下 PL97
90	須恵器	杯	[11.7]	3.3	7.8	石英・長石	にぶい褐	普通	体部下端・底部回転へラ削り	覆土中層	60% PL97
91	須恵器	杯	[15.6]	4.5	[10.8]	雲母	灰白	普通	体部下端・底部回転へラ削り	覆土中層	45% PL97
92	土師器	碗	[14.5]	(9.2)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り	覆土上層	30%
93	須恵器	高台付杯	15.4	5.0	8.3	長石	灰	普通	体部下端回転へラ削り	覆土中層	90% 益子・ PL98
94	須恵器	高台付杯	16.0	4.8	[10.6]	石英・雲母	灰	普通	磨滅のため調整不明	覆土中層	70% 堀ノ内・ PL98
95	須恵器	高台付杯	[15.7]	5.2	8.9	長石	灰黄	普通	底部回転へラ削り	覆土中層	60% 堀ノ内・ PL98
96	須恵器	高台付杯	[14.6]	5.0	9.6	長石	灰白	普通	底部回転へラ切り後ナデ	覆土中層	70% 益子・ PL98
97	須恵器	高台付杯	[15.8]	5.0	9.2	石英・長石	灰黄	普通	底部回転へラ削り	覆土下層	50% 益子
98	須恵器	高台付杯	[13.6]	3.8	9.4	石英・長石	灰黄	普通	ロクロナデ	床面	45% 堀ノ内・ 益子 PL98
99	須恵器	高台付杯	[14.7]	5.0	8.2	石英・長石	明灰黄	普通	底部回転へラ削り	覆土下層	60% 堀ノ内
100	須恵器	高台付杯	[14.8]	5.5	[9.0]	長石	灰	普通	ロクロナデ	覆土上層	25% 益子
101	須恵器	高台付杯	[14.6]	5.4	[9.5]	長石・白色粒子	オリーブ灰	普通	ロクロナデ	P2覆土中	30% 堀ノ内
102	須恵器	高台付杯	-	(4.8)	9.3	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転へラ削り	覆土上層	70% 益子
105	須恵器	蓋	15.8	3.0	-	長石・雲母	にぶい黄	普通	天井部回転へラ削り	覆土中層	100% 新治 PL101
106	須恵器	蓋	15.8	4.7	-	石英・長石・雲母	灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土中層	90% 堀ノ内・ PL101
107	須恵器	蓋	15.4	4.7	-	石英・長石	灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土上層	90% 堀ノ内・ 益子 PL101
108	須恵器	蓋	15.8	4.7	-	長石	灰	普通	天井部回転へラ削り	床面	60% 堀ノ内・ 益子 PL101
109	須恵器	蓋	[16.9]	3.9	-	長石	灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土中層	55% 堀ノ内
110	須恵器	蓋	[14.8]	3.0	-	石英・長石・黒色粒子・雲母	灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土中層	55% 新治
111	須恵器	蓋	9.8	4.8	-	石英・長石・黒色粒子	灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土中層	60% 堀ノ内・ PL101
112	須恵器	蓋	[15.8]	3.2	-	長石・雲母	灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土上層	45% 新治
113	須恵器	蓋	[15.8]	4.1	-	石英・長石	灰オリーブ	普通	天井部回転へラ削り	覆土中層	10% 堀ノ内
114	須恵器	蓋	16.1	3.1	-	長石・白色粒子	灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土上層	80% PL101
115	須恵器	蓋	[16.8]	3.6	-	長石・黒色粒子	灰白	普通	天井部回転へラ削り	覆土下層	10% 堀ノ内
116	須恵器	蓋	[17.8]	(2.0)	-	石英・長石	灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土中層	5%
118	土師器	碗	[21.3]	(7.2)	-	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面へラ削り	覆土上層	10%
121	土師器	壺	[23.6]	(20.7)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄	普通	口縁つまみ上げ	覆土中層	10%
122	須恵器	壺	20.2	(7.4)	-	石英・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外周斜平行叩き	覆土中層	20%
243	土師器	壺	-	(5.3)	8.6	石英・長石・赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	体部内面へラナデ	覆土中	5%
671	須恵器	杯	11.4	3.4	7.6	石英・長石	灰	普通	体部下端・底部回転へラ削り	床面	100% 堀ノ内・ PL97
672	須恵器	杯	10.8	2.9	5.4	雲母	灰	普通	底部回転へラ削り	覆土下層	100% 堀ノ内・ PL97
673	須恵器	杯	14.3	4.5	8.9	長石	灰黄	普通	底部回転へラ切り後ナデ	床面	90% 自然産 PL97
674	須恵器	高台付杯	15.2	(4.9)	[9.7]	石英・長石・雲母	灰	普通	底部回転へラ切り後回転へラ削り	覆土下層	70% PL98
675	須恵器	杯	15.2	4.0	10.0	雲母	灰白	普通	底部回転へラ切り後回転へラ削り	覆土中層	70% PL97
676	須恵器	控鉢	12.0	(8.3)	-	石英・長石	灰オリーブ	普通	ロクロナデ、胴部外面下部へラ削り	床面	40% 木下下
677	須恵器	控鉢	-	(6.0)	8.5	石英・長石	灰	普通	ロクロナデ、底部へラ削り	床面	35% 益子
685	土師器	杯	16.0	4.0	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転へラ切り後手持ちへラ削り	覆土上層	95% PL93
686	土師器	杯	14.3	47.0	-	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面へラ削り	覆土中層	70% 内輪部 PL94

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
723	須恵器	高台付杯	[13.2]	(4.0)	-	長石	褐灰	普通	ロクロナデ	覆土上層	20% へら型 <small>（丸）</small> 新木産
724	須恵器	蓋	[17.0]	3.2	-	長石	灰オリブ	普通	天井部回転へつ削り	覆土上層	10% へら型 <small>（丸）</small> □

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
123	須恵器	甕	18.5	12.6	1.0	石英・長石	灰黄褐	普通	壳体部転用、外周整形磨	覆土中層	95% へら型 <small>（丸）</small> PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M6	刀子	(10.0)	2.1	0.4	(17.2)	鉄	刀身断面三角形、基部木片付着	床面	PL105
M7	刀子	(8.5)	1.4	0.28	(8.5)	鉄	刀身断面三角形、先端・基部欠損	覆土下層	
M8	剣カ	(5.4)	1.1	0.28	(7.0)	鉄	断面四角造*	覆土中層	PL105
M9	鎌	(8.9)	2.0	0.28	(27.4)	鉄	先端欠損	覆土上層	
M10	釘	(6.8)	0.6	0.5	(6.5)	鉄	断面四角形、両端欠損	覆土中層	
M11	鏝	(13.4)	0.7	0.5	(18.2)	鉄	片刃形、焼成部断面	覆土下層	
M12	鉄滓	7.9	5.8	2.9	116.7	砂鉄地	着磁性强、炭化物付着	覆土中	
M13	鉄滓	4.9	5.2	3.2	56.9	砂鉄地	着磁性强	覆土中	

第79号住居跡（第210図）

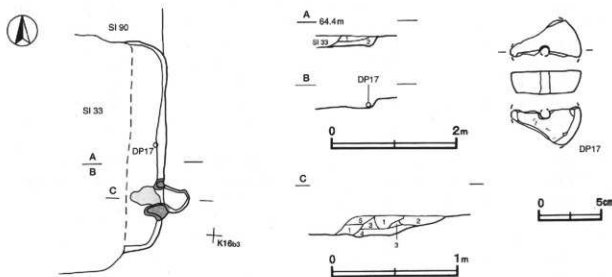
位置 調査区西部のK16a2区に位置し、尾根上の平坦に立地している。

重複関係 第34・90号住居跡を掘り込み、第33号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西側の大半は第33号住居に掘り込まれており、東壁付近のみが残存している。現存する規模は長辺3.3m、短辺0.6mで、方形または長方形と推定され、主軸方向は東壁からN-3°-Wである。壁高は14-16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の南東コーナー付近に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで95cm、袖部幅は66cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落しており、第1・3層が対応する土層と考えられる。前面からは構築材と考えられる板石が出土している。袖部は、砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じレベルで、火床面が赤変硬化している。



第210図 第79号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|---------------------------|---------|----------------------|
| 1 褐 灰 色 | 粘土粒子多量 | 4 黒 褐 色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰 黄 褐 色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 確認されなかった。

覆土 2層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積の可能性が考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|---------|-----------|
| 1 褐 色 | ローム粒子中量 | 2 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
|-------|---------|---------|-----------|

遺物出土状況 土製品1点(紡錘車)が出土している。D P 17は壁際の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係から9~10世紀代と考えられる。

第79号住居跡出土遺物観察表 (第210図)

番号	器種	直径	厚さ	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
D P 17	紡錘車	5.6-4.5	1.8	0.6	26.0	土	円盤台形, 全面・孔内丁寧な磨き, 硬質	床面	

第80号住居跡 (第211図)

位置 調査区中央部のK178区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第8・12・14号掘立柱建物跡を掘り込み、第55・56・115号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.3m, 短軸3.5mの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は15~20cmで、ほぼ直立している。

床 若干起伏があり、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。竈の前面と南壁付近に粘土が堆積している。壁溝は、南壁の一部と南西コーナーから北東コーナーにかけて巡っており、断面はU字形である。

竈 東壁の南寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで105cm, 竈の掘り込み幅は74cmである。煙道部は壁外へ70cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落しており、第2・3・10層が対応する土層と考えられる。前面から構築材と思われる板石が出土している。袖部はすでに破壊されていたものの、粘土の痕跡が確認されたことから砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床部は地山を若干掘り込んで構築され、火床面が赤変しており、煙道部寄りに石製支脚を設置している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|----------|------------------|
| 1 褐 色 | 粘土粒子少量 | 6 灰 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐 灰 色 | ローム粒子・粘土粒子中量 | 7 褐 色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 灰 褐 色 | 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 灰 褐 色 | 粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 褐 色 | 粘土粒子少量 | 9 灰 褐 色 | 粘土粒子中量 |
| 5 褐 色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 | 10 褐 灰 色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量 |

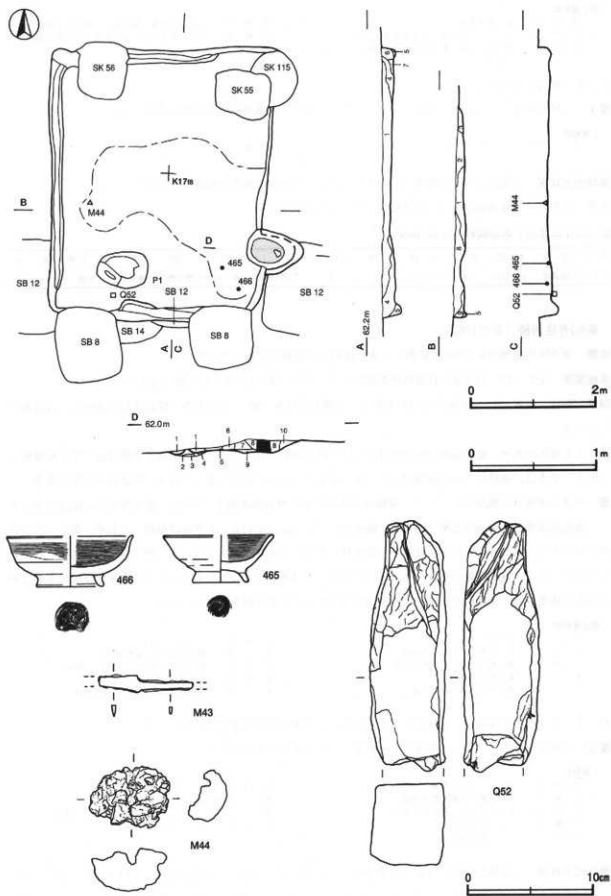
ピット P 1は深さ16cmで、主柱穴と考えられる。その他の柱穴は確認されなかった。

覆土 9層からなる。ブロックを含む土層が多く、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 6 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 7 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐 灰 色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 8 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒 褐 色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片98点(坏類35, 莞類63), 石製品3点(砥石), 鉄製品2点(刀子), 鉄滓1点, 瓦片3点, 石材5点の他、埋没する過程で混入した須恵器片21点(坏類8, 莞類13)が出土している。465は逆位の状態、466は竈前面から破片の状態、Q52は南壁寄りから、M44は西壁寄りのそれぞれ床面付近から出



第211图 第80号住居跡・出土遺物実測図

土している。

所見 時期は、出土土器から11世紀前半と考えられる。

第80号住居跡出土遺物観察表 (第211図)

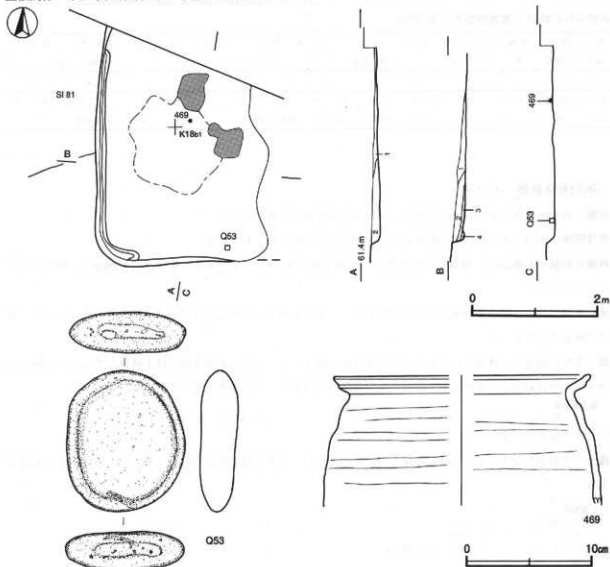
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
465	土師器	高台付甗	[88]	3.8	4.4	石片・灰石・白色 灰土	にぶい濁	普通	内面へう磨き、底部回転糸切り	覆土下層	60%
466	土師器	高台付甗	[100]	4.0	5.2	石片・灰石・赤色 灰土、黄緑	にぶい橙	普通	内面へう磨き	覆土下層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q52	支脚	(19.9)	6.0	6.4	(1430.0)	砂岩	被熱痕	床面	
M43	刀子	(7.5)	1.4	0.25~0.30	(7.9)	鉄	刀身断面三角形、先端・基部一部欠損	覆土下層	
M44	輪状片	4.9	6.4	3.1	75.4	砂鉄地	着磁性弱、表面一部白色	床面	

第82号住居跡 (第212図)

位置 調査区中央部のK17b0区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第81号住居跡、第1号槽溝を掘り込んでいる。



第212図 第82号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 北側は調査区域外に延び、東壁は失われていることから全容は不明である。現存する規模は長辺3.9m、短辺2.9mの方形または長方形で、主軸方向は西壁からN-9°-Eと推定される。壁高は12~22cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部付近が踏み固められている。床面から粘土塊が2か所確認された。壁溝は南西コーナーから西壁にかけて通っており、断面はU字形である。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量	3 暗褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック中量	4 暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片113点（坏類13、甕類100）、灰釉陶器片1点（椀類）、石器1点（磨石）、石材2点の他、埋没する過程で混入した須恵器片5点（坏類3、甕類2）が出土している。469は床面から破片の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀代と推定される。

第82号住居跡出土遺物観察表（第212図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
469	土師器	甕	[20.4]	(10.3)	-	石英・長石	褐色	普通	ロクロナテ	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q53	磨石	11.3	9.2	3.2	478.0	安山岩	側面に使用痕	床面	

第83号住居跡（第213図）

位置 調査区西部のK16a1区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第34・90号住居跡を掘り込み、第33号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.6m、短軸2.5mの方形で、主軸方向はN-89°-Eである。壁高は17~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 東側はロームによる貼床で、若干起伏があり、竈の前面から中央部付近にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されており、第33号住居に削平されているため火床部だけが残存している。規模は長径50cm、短径43cmで、床面を若干掘り込んで構築されており、火床面が赤変している。

土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック微量	2 暗赤褐色	焼七粒子少量
-------	----------	--------	--------

ピット 確認されなかった。

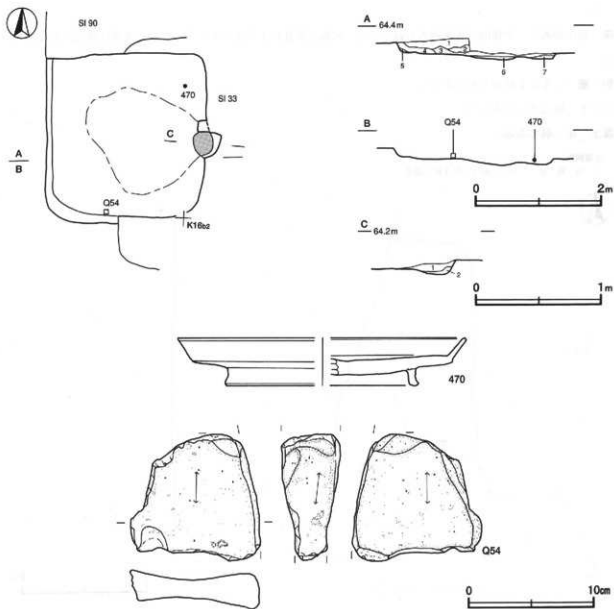
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第6・7層は貼床の土層である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	5 褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ローム粒子微量	6 褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	7 褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片38点(坏類12, 壳類26), 須恵器片1点(坏類)の他, 埋没する過程で混入した石器1点(磨石)が出土している。470は北東コーナー付近, Q54は南壁寄りのそれぞれ床面付近から出土している。

所見 時期は, 重複関係と出土土器から9世紀中葉~後葉と考えられる。



第213図 第83号住居跡・出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表 (第213図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
470	須恵器	盤	[22.8]	3.8	[15.6]	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り	床面	30% 堀ノ内3

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q54	砥石	(10.0)	10.3	3.2	(283.0)	軽石	砥面3面	床面	

第85号住居跡（第214図）

位置 調査区中央部のK17c0区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

規模と形状 上面を削平され、攪乱によって破壊されているため、全容は明らかではない。現存する規模は、長辺3m、短辺1.1mの長方形で、長軸方向はN-7°-Wである。壁高は4cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 起伏があり、全体的に踏み固められている。床面に炭化粒子が集中してみられる。壁溝は確認されなかった。

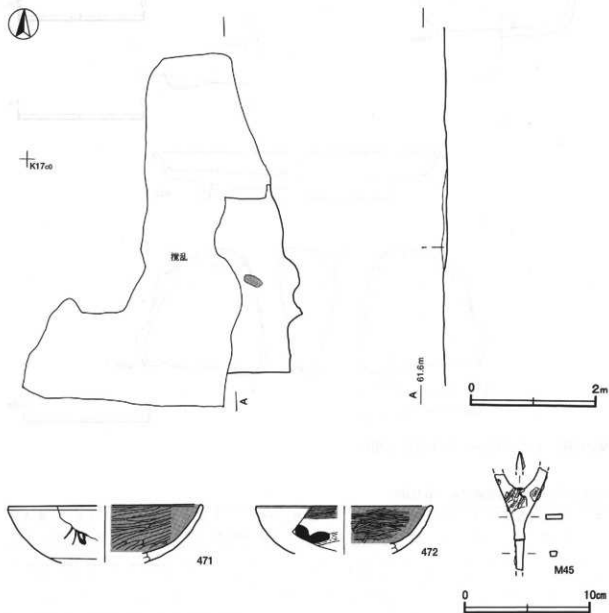
炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 単一層である。

土層解説

I 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量



第214図 第85号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片128点（坏類36，甕類92），須恵器片7点（坏類6，甕類1），灰釉陶器片2点（瓶），鉄滓1点，瓦片1点，石材3点が出土している。471・472は覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器などから9世紀後葉と考えられる。

第85号住居跡出土遺物観察表（第214図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
471	土師器	坏	[15.2]	(4.5)	-	黒色粒子・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土下層	30% 編者□
472	土師器	坏	[13.8]	(3.7)	-	赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土下層	15% 編者□

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M45	鐵	(8.2)	(4.2)	0.45	(21.9)	鉄	雁又式，扉身に鐵線質付着，先端・基部欠損	覆土中	PL105

第86号住居跡（第215図）

位置 調査区中央部のK17e9区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

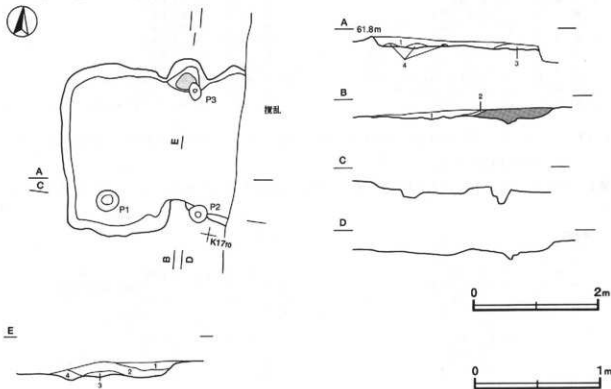
規模と形状 東側は後世の擾乱によって破壊されており，全容は不明である。現存する規模は，長辺2.9m，短辺2.8mの方形または長方形で，主軸方向はN-14°-Wである。壁高は4～11cmで，外傾して立ち上がる。南壁の中央部は，幅約50cmほど地山をスロープ状に掘り残している。

床 若干起伏があり，あまり踏み固められていない。

竈 北壁に構築され，天井部・袖部は失われている。規模は焚き口部から煙道部先端まで89cm，竈の掘り込み幅は65cmである。煙道部は壁外へ55cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。火床部は地山を若干掘り込んで構築されており，火床面が赤変硬化している。焚き口部に深さ10cmのビットを設けている。

電土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | 炭化物中量，ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |



第215図 第86号住居跡実測図

ピット 3か所。P1は深さ16cmで、支柱穴と考えられる。P2は深さ20cmで、竈と向い合って位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P3は竈の焚き口部に位置し、竈に伴う施設と考えられる。

覆土 4層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量	3 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量	4 明褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片23点(坏類3、甕類20)が出土している。遺物は小片のため図化できなかった。

所見 南壁のスロープ状の施設は、出入り口施設に伴うものと考えられる。時期は、主軸方向や土器などから平安時代と推定される。

第87号住居跡(第216・217図)

位置 調査区中央部のK17f0区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第507号土坑を掘り込み、第88・135号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.0m、短軸4.6mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は20~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 南壁寄りの中央に高さ5cmほどの高まりをもっているが、ほぼ平坦で、竈の前面から高まりにかけて踏み固められている。溝は竈の部分を除いて巡っていたと推定され、断面は逆台形である。

竈 北壁の東寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで122cm、両幅は250cmである。煙道部は壁外へ90cmほど掘り込まれ、ほぼ直立している。天井部は一部崩落しており、第5・6・14層が対応する土層と考えられる。袖部は、精選された砂質粘土で構築されている。火床部は地山を掘り込んでおり、火床面が赤変硬化している。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	10 褐色	ローム粒子多量
2 褐色	ロームブロック微量	11 灰褐色	焼土粒子多量
3 褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量	12 褐色	焼土粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック微量	13 暗赤褐色	ローム粒子微量
5 褐色	粘土粒子多量、ロームブロック少量	14 褐色	粘土粒子多量
6 褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量	15 暗赤褐色	焼土粒子中量
7 褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック微量	16 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	17 に近い褐色	焼土ブロック中量
9 暗褐色	ロームブロック微量	18 暗赤褐色	焼土粒子中量、粘土粒子微量

ピット 3か所。P1・P2は深さ16~20cmで、支柱穴と考えられる。P3は深さ16cmで、支柱穴と考えられる。その他の柱穴は確認されなかった。

覆土 25層からなる。ブロックを含む土層が多く、不自然な堆積状況が見られることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

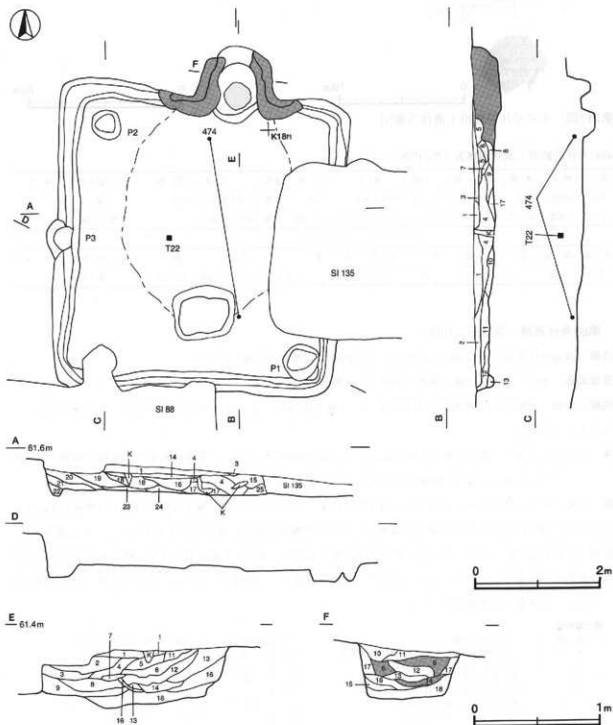
1 暗褐色	ロームブロック少量	11 褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ロームブロック少量	12 暗褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量	14 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量	15 に近い褐色	ローム粒子少量
6 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック微量	16 褐色	ロームブロック微量
7 褐色	粘土粒子多量	17 褐色	ロームブロック少量
8 暗褐色	ローム粒子少量	18 黄褐色	ローム粒子多量
9 褐色	ローム粒子少量	19 褐色	ローム粒子少量、鹿沼パミス微量
10 黒褐色	ロームブロック微量	20 褐色	ローム粒子中量、鹿沼ブロック微量
		21 黒褐色	ローム粒子微量

22 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 23 にぶい褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

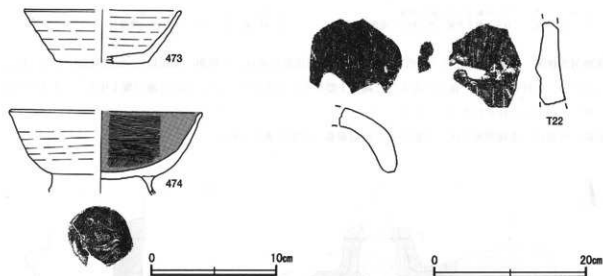
24 褐色 ローム粒子少量
 25 明褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片207点（坏型75，甕類132），須志器片46点（坏型36，甕類10），灰釉陶器片1点（瓶），瓦片12点，石材8点の他，覆土に混入した縄文土器片1点が出土している。473は竈の覆土中から，474・T22は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係と出土土器から9世紀前葉～中葉と考えられる。



第216図 第87号住居跡実測図



第217図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表 (第217図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
473	土師器	坏	[12.4]	4.2	[7.4]	石英・長石	灰	普通	底部手持ちヘラ削り	竈	20%
474	土師器	高台付椀	[15.3]	(6.5)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄緑	普通	内面ヘラ磨き	覆土上層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T22	丸瓦	(9.7)	(7.5)	2.5	(440.0)	土	凸面ヘラ削り, 凹面上部布目痕, 下部ヘラ削り	覆土上層	

第88号住居跡 (第218・219図)

位置 調査区中央部のK17g0区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第87・89号住居跡、第60・80号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.4m、短軸3.9mの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は16~39cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は東壁と、南壁の西側から北西コーナーにかけて巡っており、断面は逆台形である。

竈 北壁の中央に構築され、煙道部の上面は擾乱によって失われている。規模は焚き口部から煙道部先端まで107cm、袖部幅は165cmである。煙道部は壁外へ70cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がっていたと推定され、底面に灰黄褐色の粘土を貼っている。天井部は崩落しており、第4・6層が対応する土層と考えられる。袖部は砂質粘土で構築されており、右袖には石材と丸瓦が芯材として使用されている。火床部は地山を若干掘り込んでおり、火床面が赤変硬化している。

覆土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量	9	灰黄褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子微量
2	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 粘土粒子微量	10	暗赤褐色	焼土ブロック中量
3	褐色	焼土粒子微量	11	褐色	ローム粒子微量
4	褐色	粘土粒子中量	12	灰黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
5	黒色	炭化粒子中量, 焼土粒子微量	13	褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
6	灰褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子微量	14	灰黄褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
7	褐色	焼土粒子少量, 炭化物微量	15	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
8	褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子微量			

ピット 2か所。P1・P2は深さ24~26cmで、性格は不明である。

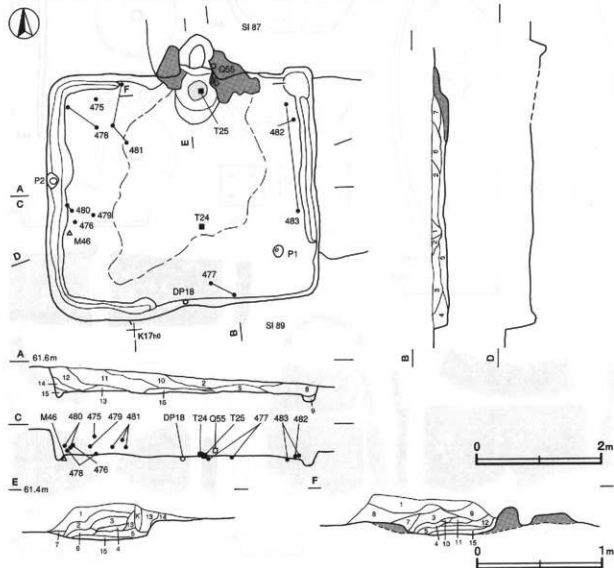
覆土 16層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

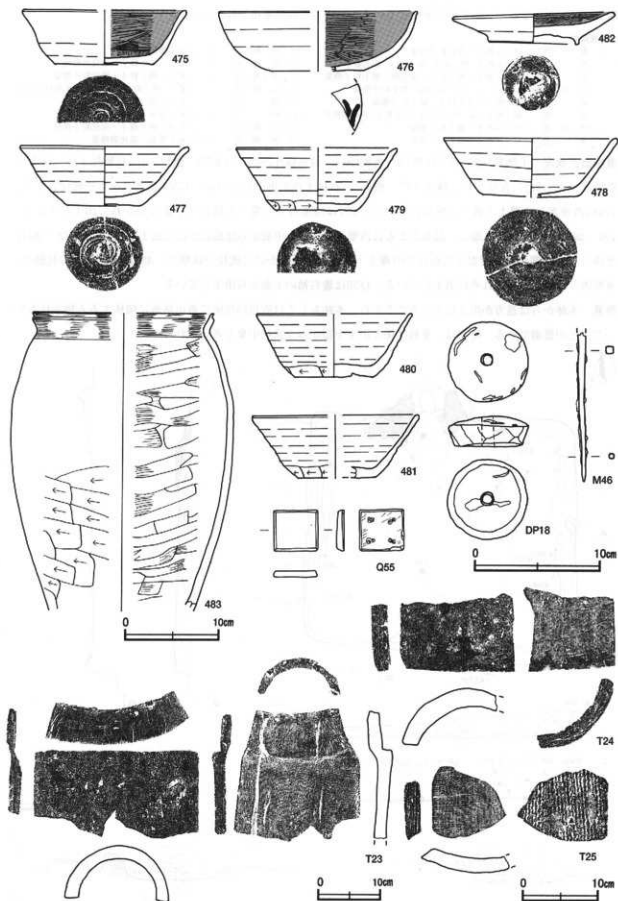
1	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9	明褐色	ローム粒子微量
2	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・赤色粒子微量
5	褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
6	褐色	粘土粒子少量・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	14	褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	16	明褐色	ローム粒子多量、炭化物微量

遺物出土状況 土器片273点(坏類78, 甕類195), 須恵器片79点(坏類72, 甕類7), 石製品1点(巡方), 鉄製品1点(釘), 瓦片7点, 種子2点(桃カ), 石材4点が出土している。475は北東コーナー部付近から, 476は西壁寄りの覆土上層から中層にかけて, 477は南壁寄りの覆土下層から2群に分かれて出土している。479・480はほぼ正位の状態, M46とともに西壁寄りの覆土中層から床面にかけて出土している。478・481は北西コーナー部から北壁寄りにかけての覆土下層から床面にかけて破片の状態, 482はほぼ正位の状態, 東壁寄りの床面からそれぞれ出土している。Q55は竈右袖の上面から出土している。

所見 本跡からは巡方が出土していることから, 本跡もしくは周辺の住居に新治郡衙に關係する人物が住んでいたことが推測できる。時期は, 重複関係と出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第218図 第88号住居跡実測図



第219図 第88号住居跡・出土遺物実測図

第88号住居跡出土遺物観察表 (第219図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
475	土師器	環	[12.3]	4.3	7.1	長石・雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き, 底部回転ヘラ切り	覆土上層	40%
476	土師器	環	[15.6]	4.7	[7.0]	赤色粒子・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中層	30% 経線跡
477	須恵器	環	13.1	4.7	5.8	石英・長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り	床面	80% PL97
478	須恵器	環	13.8	4.7	7.7	石英・長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り	床面	65% PL97
479	須恵器	環	[12.6]	5.0	6.2	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り兼手持ちヘラ削り, 底部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	45% 差ノ内+
480	須恵器	環	[12.2]	5.0	6.2	黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り, 底部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	20% 差ノ内+
481	須恵器	環	[12.2]	5.0	6.0	長石	黄灰	普通	底部・底部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	30% 差ノ内+
482	土師器	高台付皿	[12.5]	2.6	6.9	石英・長石・赤色粒子・雲母	褐	普通	内面磨き, 底部回転ヘラ切り	床面	95% PL100
483	土師器	壺	[18.8]	(31.7)	-	石英・長石	橙	普通	底部外面横位のヘラ削り, 内面ナデ	覆土下層	30%

番号	器種	直径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D P 18	紡錘車	6.4-5.4	2.4	0.9	105.1	土	上部飛越した円盤台形, 全面ナデ	床面	PL103

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q55	溜方	3.3	3.6	0.7	14.1	粘板岩	上面・側面U字家な研ぎ, 面取, 裏面U字形穿孔4か所	壺上面	PL104
M46	釘	(11.9)	0.7	0.6	(145)	鉄	断面四角形, 上端部欠損	床面	
T23	丸瓦	(20.2)	(16.3)	2.0	(1430.0)	土	玉縁式, 凸面ヘラ削り, 凹面布目肌, 吊縁状	壺右袖	PL107
T24	丸瓦	(11.1)	(12.5)	2.7	(5200)	土	凸面ヘラ削り, 凹面布目肌, 下端ヘラ削り	床面	
T25	平瓦	(9.5)	(11.7)	2.0	(2700)	土	凸面陶叩き, 凸面布目肌	床面	

第89号住居跡 (第220・221図)

位置 調査区中央部のK17h0区に位置し, 東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第88号住居, 第79・80号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.4m, 短軸4.6mの長方形で, 主軸方向はN-0°である。壁高は9~18cmで, ほぼ直立している。

床 起伏があり, 壺の前面から中央部付近にかけて踏み固められている。壁溝は東壁の一部と西壁を巡っており, 断面は逆台形である。

竈 北壁の東寄りに構築されている。第88号住居に破壊され, 右袖だけが残存している。前面の床面に粘土が広がっていることから, 破壊されていたことが考えられる。天井部は崩落しており, 第5層が対応する土層と考えられる。袖部は砂質粘土で構築され, 煙道部は壁外へ現存で約30cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は第12層の上面と考えられ, 床面とほぼ同じレベルで, 火床面が赤変している。第12層以下は掘り方の土層と考えられる。

壺土層解説

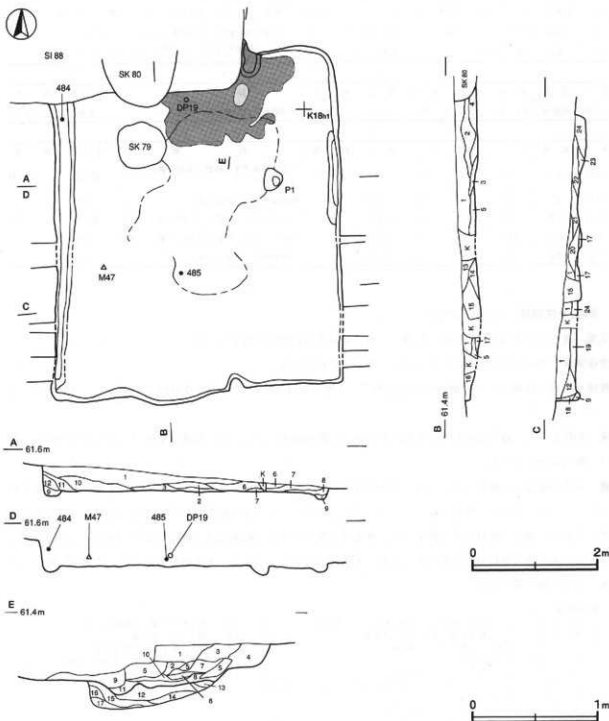
1 暗褐色	色	ローム粒子・泥岩ミリス少量, 粘土ブロック微量	11 褐色	色	粘土粒子中量, 炭化粒子少量
2 暗褐色	色	ローム粒子中量, 粘土ブロック少量	12 オリーブ褐色	色	粘土ブロック中量
3 褐色	色	焼土粒子・粘土ブロック微量	13 暗灰黄色	色	ローム粒子・粘土粒子少量
5 灰褐色	色	粘土粒子多量	14 オリーブ褐色	色	粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
6 褐色	色	粘土ブロック・炭化粒子微量	15 暗オリーブ褐色	色	粘土粒子中量, ロームブロック焼土粒子微量
7 暗赤褐色	色	焼土粒子少量, 粘土ブロック微量, 炭化粒子微量	16 褐色	色	焼土粒子・粘土粒子少量
8 暗赤褐色	色	焼土粒子多量	17 赤褐色	色	焼土粒子多量
9 灰褐色	色	粘土粒子中量, ローム粒子微量			
10 黒褐色	色	焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量			

ピット P1は深さ17cmで, 性格は不明である。その他の柱穴は確認されなかった。

覆土 24層からなる。ブロックを含む層が見られることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 褐 色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	9 褐 色	ロームブロック微量
2 褐 色	粘土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量	10 黒 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
3 褐 色	ローム粒子中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量	11 暗 褐色	ローム粒子中量, 白色粒子微量
4 暗 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	12 黒 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
5 褐 色	ローム粒子中量	13 にぶい黄褐色	ローム粒子多量
6 灰 褐色	ローム粒子・粘土ブロック中量, 焼土粒子微量	14 褐 褐色	ロームブロック中量
7 褐 褐色	ローム粒子中量	15 暗 褐色	ローム粒子微量
8 黒 褐色	ローム粒子少量	16 暗 褐色	ローム粒子少量



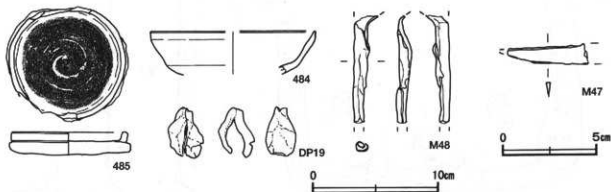
第220図 第89号住居跡実測図

17 黄褐色	ローム粒子多量
18 におい黄褐色	ローム粒子多量
19 におい黄褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量
20 暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミス微量

21 暗褐色	ローム粒子少量、鹿沼パミス微量
22 暗褐色	鹿沼パミス中量、ローム粒子少量
23 黒褐色	ロームブロック微量
24 褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量

遺物出土状況 土師器片173点（坏類55, 甕類118）, 須恵器片75点（坏類59, 甕類16）, 土製品1点（土鈴カ）, 石器1点（磨石）, 鉄製品3点（刀子）, 鉄滓2点, 銅製品1点（不明）, 石材5点が出土している。484は北東コーナー付近の覆土中層から破片の状態で、485・M47は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器などから8世紀から9世紀前半と考えられる。



第221図 第89号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表（第221図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
484	土師器	坏	[13.0]	(3.4)	-	赤色・白色粒子・炭屑	橙	普通	ロクロナゲ	覆土中層	20%
485	須恵器	甕	9.0	1.8	-	石灰・炭石・炭屑	灰	普通	高台付坏転用、破断面研磨	覆土下層	90% 墨付道

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP19	土鈴カ	4.1	2.4	2.3	12.6	土	中空、側面にスリット、ナデ	覆土下層	PL103
M47	刀子	(4.3)	0.9	0.2	(2.24)	鉄	刀身断面三角形、先端・基部欠損	覆土下層	
M48	不明	(8.6)	(1.9)	0.85	(14.5)	銅	二重に巻かれている。	覆土中	

第91号住居跡（第222・223図）

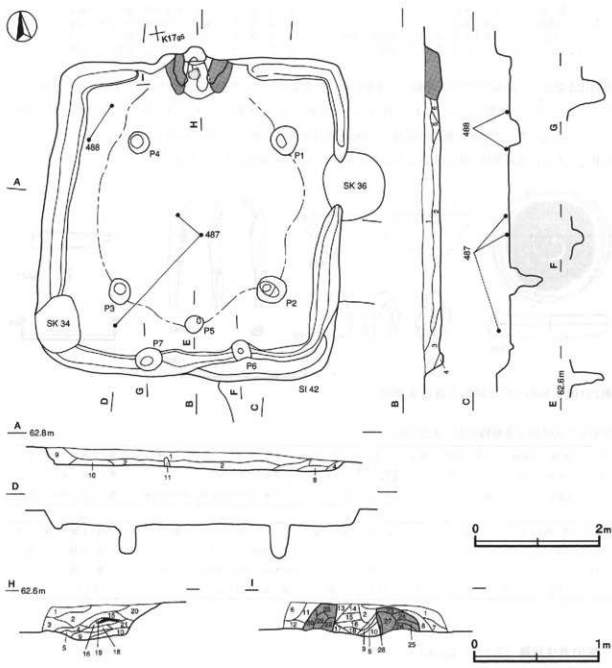
位置 調査区中央部のK17h5区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第35号土坑を掘り込み、第42号住居、第34・36号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.2m、短軸4.8mの方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は20~29cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面から柱穴の内側が踏み固められている。壁溝は竈の部分を除いて巡っており、断面はU字形である。

竈 北壁の中央部に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで82cm、袖幅は106cmである。煙道部は壁外へ30cmほど掘り込まれ、段をなして外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第2層が対応する土層と考えられる。袖部は左袖がロームを、右袖が精選された粘土を芯材とし、周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山を若干掘り込んでおり、火床面が赤変硬化している。



第222図 第91号住居跡実測図

竪土層解説

1 黒暗褐色	焼土粒子微量	16 暗赤褐色	焼土粒子少量
2 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	17 に近い赤褐色	焼土粒子中量
3 暗褐色	ローム粒子少量	18 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	19 灰褐色	焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	20 褐色	ローム粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子少量	21 暗赤褐色	焼土粒子少量、粘土粒子微量
7 褐色	ロームブロック中量	22 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
8 褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量	23 灰褐色	粘土粒子中量
9 に近い赤褐色	焼土粒子少量	24 灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子微量
10 暗赤褐色	焼土粒子少量	25 灰黄褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
11 暗褐色	ロームブロック微量	26 に近い黄褐色	ローム粒子中量、粘土粒子微量
12 褐色	焼土粒子・炭化物微量	27 灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック微量
13 褐色	炭化粒子・粘土粒子微量	28 に近い赤褐色	焼土粒子中量
14 褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	29 褐色	ローム粒子多量
15 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	30 灰褐色	粘土粒子多量

ピット 7か所。P1～P4は深さ47～73cmで、支柱穴である。P5は深さ53cmで、竈と向い合って位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ18～32cmで、支柱穴と考えられる。

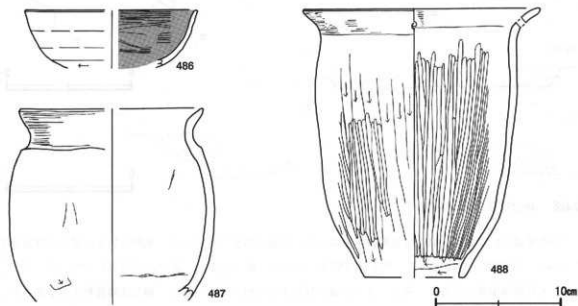
覆土 11層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子中量	10 褐色	ローム粒子中量、赤色粒子微量
5 褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子・ローム粒子微量	11 明褐色	ローム粒子微量
6 褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片166点(坏類24, 甕類142), 須恵器片5点(甕類), 鉄滓7点, 瓦片1点, 石材5点の他, 埋没の過程で混入した弥生土器片1点が出土している。487は中央付近から, 488は北西コーナー部付近から破片状態で, いずれも覆土下層から床面にかけて出土している。

所見 時期は, 重複関係と出土土器などから8世紀代と想定される。



第223図 第91号住居跡出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表 (第223図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
486	土師器	坏	[13.6]	(4.6)	-	赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	内面へら磨き, 体部下端回転へら磨り	覆土中層	40%
487	土師器	甕	[14.4]	(15.3)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	外面へら磨り後ナデ	床面	40%
488	土師器	甕	18.7	21.4	[8.0]	長石・白色粒子	にぶい橙	普通	内外面へら磨き, 口縁部2か所に炭成前の足孔	床面	60%

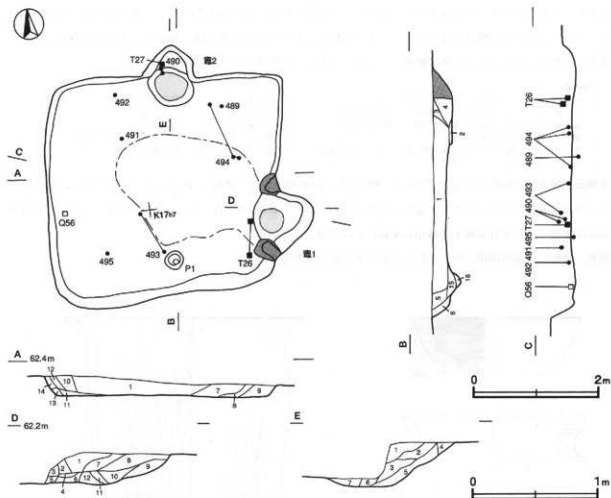
第92号住居跡 (第224～226図)

位置 調査区中央部のK17g7区に位置し, 東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第6・8・12号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.7m, 短軸3.4mの方形で, 主軸方向はN-10°-Eである。壁高は20～55cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部付近が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。



第224図 第92号住居跡実測図

竈 2か所確認されている。竈1は東壁の南東コーナー付近に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで95cm、袖部幅は141cmである。煙道部は壁外へ55cmほど掘り込まれ、緩やかに内湾しながら立ち上がっている。天井部は崩落しており、第1・4・7層が対応する土層と考えられる。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は、床面と同じレベルで、火床面が赤変硬化している。

竈1土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|---------|---------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 8 濃い赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 3 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子微量 |

竈 2は北壁の中央部に構築されている。規模は、焚き口部から煙道部先端まで100cm、竈の掘り込み幅は90cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部は破壊され、第1層が対応する土層と考えられる。袖部はすでに失われている。火床部は地山を若干掘り込んで構築され、瓦を転用した支脚を煙道部寄りに設置し、火床面が赤変している。

竈2土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|-------|-----------|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐灰色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | 7 灰褐色 | 粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |

ピット 1か所。深さは20cmで、南壁の中央付近に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えら

れる。

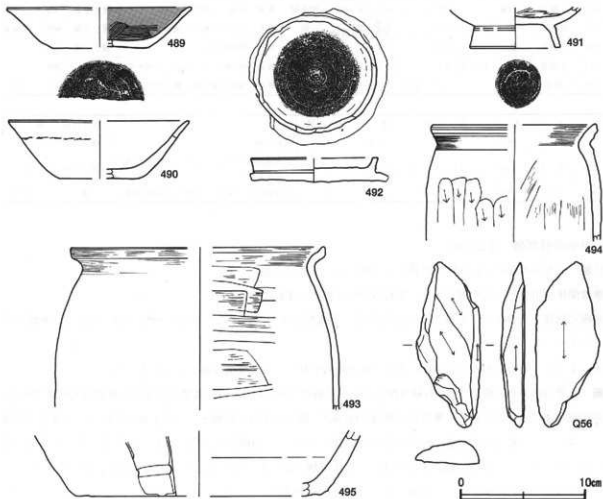
覆土 16層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

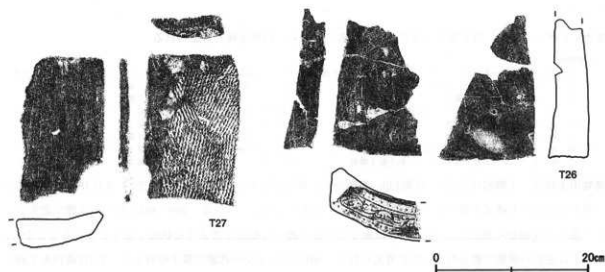
1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9 灰黄褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック微量	10 暗褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子微量	11 にぶい黄褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子微量	13 褐色	ローム粒子中量
6 灰褐色	ローム粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック微量
7 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	15 暗褐色	ローム粒子少量
8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	16 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片427点（坏類139、甕類288）、須恵器片39点（坏類13、甕類26）、瓦片18点の他、埋没の過程で混入した縄文土器片3点、陶器片1点、石材8点が出土している。489・494は破片の状態で北東コーナー寄りの床面から出土している。490は竈2のT27の側から転落したような状態で出土していることから、支脚上に逆位の状態で置かれていたと考えられる。491はほぼ正位の状態で覆土中層から、492は高台を上面に於いて北壁寄りの覆土下層から、493は覆土下層から破片の状態でそれぞれ出土している。T26の軒平瓦は破片の状態、竈1の前面から出土している。

所見 本跡は、2基の竈を持っているが、残存状況から竈2が竈1に先行するものと考えられる。T26は、新治廃寺の再建時に使用された軒平瓦と共通する文様を持っていることから、新治廃寺あるいは瓦窯から持ち込まれた可能性が高い。時期は、出土土器などから9世紀後半から10世紀前半と考えられる。



第225図 第92号住居跡出土遺物実測図(1)



第226図 第92号住居跡出土遺物実測図(2)

第92号住居跡出土遺物観察表 (第225・226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
489	土師器	環	[14.6]	3.2	[7.4]	石英・長石 白色粒子・雲母	にぶい橙	普通	内面へラ磨き、底部回転系切り接ナデ	床面	35%
490	土師器	環	[14.2]	4.6	[6.6]	石英・長石・雲母	橙	普通	内外面磨減のため調整不明	竈	30%
491	土師器	高台付椀	-	(3.2)	7.2	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	内面へラ磨き	覆土中層	30%
492	須恵器	椀	10.0	(1.9)	-	石英・長石 黒色粒子・雲母	灰	普通	高台付環転用、破断面研磨	覆土下層	90% 墨付着
493	土師器	壺	[20.0]	(12.9)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	内外面ナデ	覆土下層	10%
494	土師器	壺	[13.0]	(9.1)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	外周層位のへラ磨り、内面ナデ	床面	20%
495	陶器	壺	-	(5.2)	[19.3]	石英・長石	黄灰	普通	体部下層に脚、脚に穿孔	覆土上層	5% 常滑

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q56	砥石	(13.1)	(5.1)	1.9	(125.9)	砂岩	砥面4面	覆土下層	
T26	軒平瓦	(18.5)	(11.8)	5.0	(1130.0)	土	瓦当部押版、凸面へラ磨り、凹面へラ磨り 一部布目肌	覆土下層	PL107
T27	平瓦	(19.5)	(11.3)	3.8	(1050.0)	土	凸面縄叩き、端面へラ磨り、凹面布目肌	竈2	PL108

第94号住居跡 (第227図)

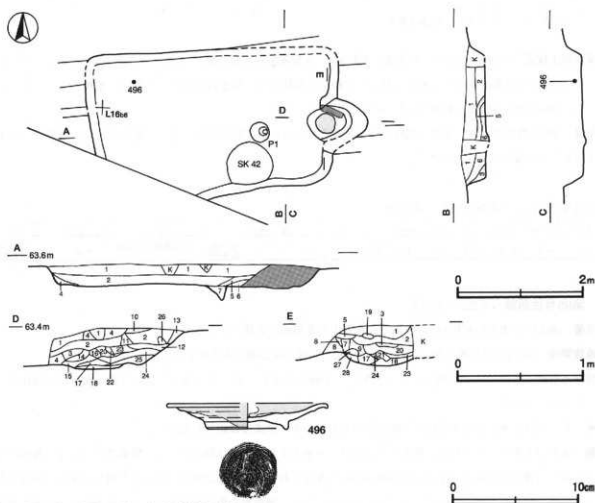
位置 調査区西部のL16b6区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第44号土坑を掘り込み、第42号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4m、短軸2.4mの長方形で、主軸方向はN-85°-Eである。壁高は28~39cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の南寄りに構築され、右袖は擾乱によって破壊されている。規模は吹き口部から煙道先端まで95cm、袖幅は90cmと推定される。煙道部は壁外へ60cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、その粘土が竈前面に広がっていた。第4・15・19・20層が天井部に対応する土層と考えられる。袖部は左袖が残存している。地山を削り出して火床部側に粘土混じりの黄褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は地山を若干掘り込んで構築され、火床面が赤変硬化している。



第227図 第94号住居跡・出土遺物実測図

壙土層解説

1 褐 色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量
2 暗 褐 色	ローム粒子・流土粒子	16 暗 赤 褐 色	焼土粒子多量、炭化物・粘土粒子微量
3 赤 褐 色	粘土粒子多量、粘土粒子微量	17 にぶい赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子微量
4 灰 褐 色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化物微量	18 黒 褐 色	炭化粒子中量、焼土粒子少量
5 赤 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子少量	19 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 明 褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	20 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
7 灰 褐 色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量	21 赤 褐 色	焼土ブロック多量、粘土粒子微量
8 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子微量	22 暗 赤 褐 色	焼土粒子多量
9 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量	23 暗 褐 色	焼土粒子少量、粘土粒子微量
10 灰 褐 色	焼土粒子・粘土粒子少量	24 暗 褐 色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
11 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	25 暗 暗 褐 色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
12 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	26 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量
13 褐 色	ローム粒子中量、粘土粒子微量	27 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
14 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	28 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子少量

ピット 深さ23cmで、竈の主軸方向線上に位置していることから、柱穴と考えられる。

覆土 7層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。第5層は竈から流出した粘土。第7層はP1の土層である。

土層解説

1 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	3 褐 色	ローム粒子微量
2 褐 色	ローム粒子中量	4 褐 色	ロームブロック微量

5 灰褐色 粘土粒子中量
6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

7 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片124点(坏類30, 甕類94), 灰釉陶器片1点(皿), 石器1点(磨石), 鉄製品1点(釘カ), 瓦片1点の他, 埋没する過程で混入した縄文土器片2点, 須恵器片21点(坏類14, 甕類7)が出土している。496は逆位の状態では床面付近から出土している。

所見 496は内面が摩滅し朱墨の痕跡が見られることから, 硯に転用されたものと推測される。時期は, 出土土器から10世紀前半と考えられる。

第94号住居跡出土遺物観察表(第227図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
496	灰釉	高台付皿	[12.5]	2.1	6.3	黒色粒子	灰オリーブ	良	受け付けによる薄輪, 底部部系切	床面	50% 朱墨付着 PL100

第95号住居跡(第228・229図)

位置 調査区中央部のK16j0区に位置し, 尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第136号住居跡を掘り込み, 第45・46・54号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.2m, 短軸2.5mの長方形で, 主軸方向はN-95°-Eである。壁高は24~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり, 中央部付近が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の南東コーナー付近に構築されており, 左袖および中央部は掘削によって破壊されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで66cm, 袖幅は60cmと推定される。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ, 角度を変えて外反して立ち上がっている。天井部は失われており, 前面から板石が出土していることから, 石を天井部の構築材として使用していたと考えられる。袖部は右袖だけが残存しており, 板石を立て砂質粘土を裏込めして構築されている。火床部は地山を若干掘り込んでおり, 煙道部寄りに石製支脚を設置している。火床面が赤変硬化している。

壁土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	10 黒褐色	焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	11 褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	12 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量	13 黒褐色	焼土粒子微量
5 暗褐色	焼土粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	15 暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7 黒褐色	焼土粒子微量	16 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8 黒褐色	焼土粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
9 黒褐色	ローム粒子微量		

ピット 2か所。P1・P2は深さ22~26cmで, 主柱穴と考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

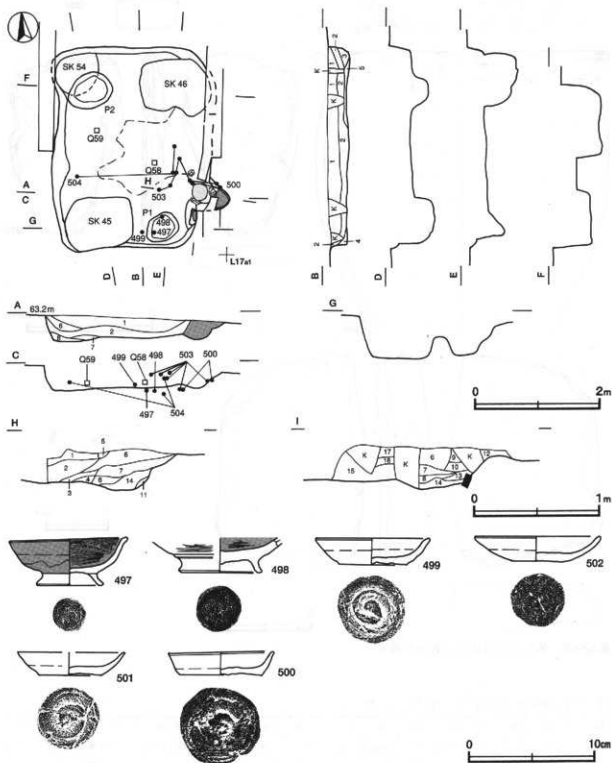
土層解説

1 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 明褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐色	ローム粒子少量	8 褐色	ローム粒子中量

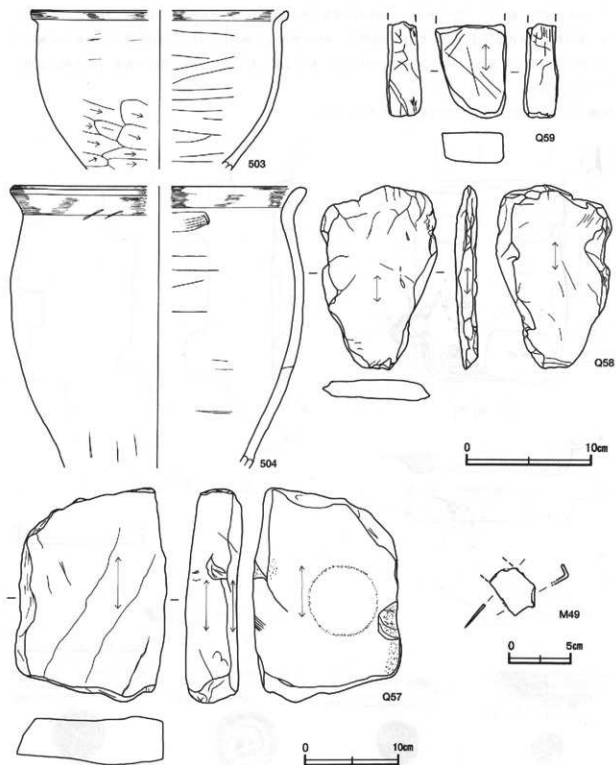
遺物出土状況 土師器片217点(坏類82, 甕類135), 灰釉陶器片1点(瓶), 石製品1点(砥石), 鉄製品1点(鎌), 鉄片1点, 瓦片4点, 石材9点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片30点(坏類15, 甕類15)が出土

している。497・498はP1の上面から、499は南壁寄りの床面付近からそれぞれほぼ正位の状態で出土している。500は竈の煙道部付近からほぼ逆位の状態で、503は竈内から前面にかけて、504も覆土上層から下層にかけて破片の状態で出土している。503は出土状況から本来は竈にあったものが、埋没の過程で竈前面に流出したと想定される。

所見 時期は、出土土器から10世紀後半と考えられる。



第228図 第95号住居跡・出土遺物実測図



第229図 第95号住居跡出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表 (第228・229図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
497	土器	高台付椀	9.4	3.6-3.8	5.3	石英・長石 赤色粒子・雲母	靑	普通	内面へら磨き、底部回転未切り	P1覆土	100% PL95
498	土器	高台付椀	-	(2.7)	6.7	石英・長石 赤色粒子・雲母	にぶい靑	普通	内面へら磨き	P1覆土	40%
499	土器	皿	9.0	2.1	5.4	赤色粒子・雲母	靑	普通	底部回転へら切り	床面	100% PL99

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
500	土師器	皿	8.3	1.9	6.6	石英・灰石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	煙道部	80%
501	土師器	皿	8.5	1.8	5.0	長石	にぶい陶	普通	底部回転ヘラ切り	覆土上層	60%
502	土師器	皿	9.9	2.0	4.4	石英・灰石・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土上層	70%
503	土師器	鉢	[20.4]	[12.7]	-	石英・赤色粒子 雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	煙道部	40%
504	土師器	甕	[23.0]	[23.4]	-	石英・灰石・雲母	橙	普通	内外面ナデ	覆土下層	40% 土土付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q57	磁石	(22.7)	15.7	6.0	(3230.0)	砂岩	磁面3面	覆土中層	
Q58	磁石	(14.6)	9.2	1.4	(290.0)	泥岩	磁面3面	覆土下層	
Q59	磁石	(7.5)	5.6	2.8	(148.7)	粘板岩	磁面1面	覆土下層	
M49	鏃	(4.0)	(2.2)	0.2	(8.9)	鉄	刀身断面三角形	覆土中層	

第96号住居跡 (第230図)

位置 調査区中央部のL17e5区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第104号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東コーナー付近だけが確認され、本跡の大半は調査区域外に伸びている。確認された規模は長辺1.6m、短辺0.8mである。壁高は20~34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦である。壁溝は確認されなかった。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット P1は深さ26cmで、主柱穴の可能性がある。

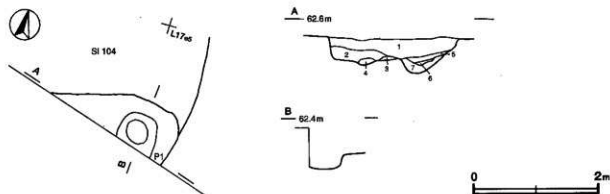
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第5~7層は、P1の土層である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子中量	5 黒褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子中量	6 暗褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ローム粒子微量	7 褐色	ローム粒子中量
4 黄褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、10世紀後半の第104号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降の平安時代と考えられる。



第230図 第96号住居跡実測図

第97号住居跡（第231図）

位置 調査区西部のK16d9区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第49号住居、第171・172号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.5m、短軸3.1mの長方形で、主軸方向はN-94°-Eである。壁高は6~14cmで、外傾して立ち上がっている。

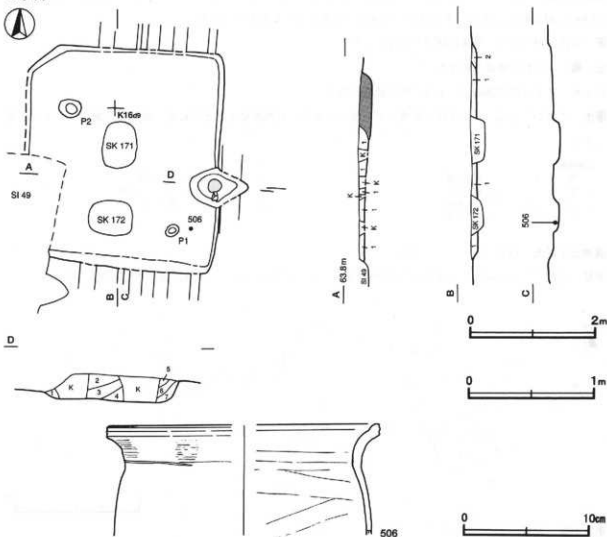
床 平坦で、若干軟弱である。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されており、攪乱を受けて残存状況は良くない。規模は焚き口部から煙道部先端まで97cm、竈の掘り込み幅は60cmである。煙道部は壁外へ45cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第3・5層が対応する土層と考えられる。袖部は、右袖に石材が残存していることから、石材を用いて構築されていたと考えられる。火床部は地山を若干掘り込んでおり、火床面が赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック微量	5 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量	6 暗暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子微量
3 灰褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック少量、粘土粒子微量		

ピット 2か所。P1・P2は深さ11~15cmで、位置から柱穴と考えられるもの、浅いことから性格は不明である。



第231図 第97号住居跡・出土遺物実測図

覆土 2層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片71点(坏類25, 甕類46), 須恵器片5点(坏類3, 甕類2), 緑釉陶器片1点, 石製品1点(砥石), 石材4点が出土している。506は甕右側の床面付近から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から9世紀代と考えられる。

第97号住居跡出土遺物観察表(第231図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
506	土師器	甕	[21.4]	(8.7)	-	石英・長石	褐色	普通	内外面ナデ	床面	10%

第99号住居跡(第232~234図)

位置 調査区中央部のL18c1区に位置し、東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係 第1号道路跡, 第9号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部は削平されているが一辺3.5mの方形と推定され、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は18~54cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が出入口付近から竈前面まで踏み固められている。壁溝は竈部分を除き巡っており、断面U字形である。

竈 北壁のほほ中央部に位置している。袖部幅は90cmであり、削平により上部のほとんどが失われているため、天井部・煙道部は確認できなかった。火床部は赤変硬化しており、手前がわずかにくぼんでいる。

甕土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 4 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量
2 灰褐色 粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 5 黒褐色 ローム粒子少量
3 褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量

ピット 5か所。P1~P4は、深さ70~80cmの主柱穴である。P4の覆土からは、台石と考えられる石材が出土している。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。土層の堆積状況から、作り替えられたと考えられる。

ピット土層解説(P5)

1 暗褐色 ロームブロック微量 4 黒褐色 ローム粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量 5 褐色 ローム粒子微量
3 褐色 ロームブロック中量

覆土 7層からなる。西側の斜面上部から土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。

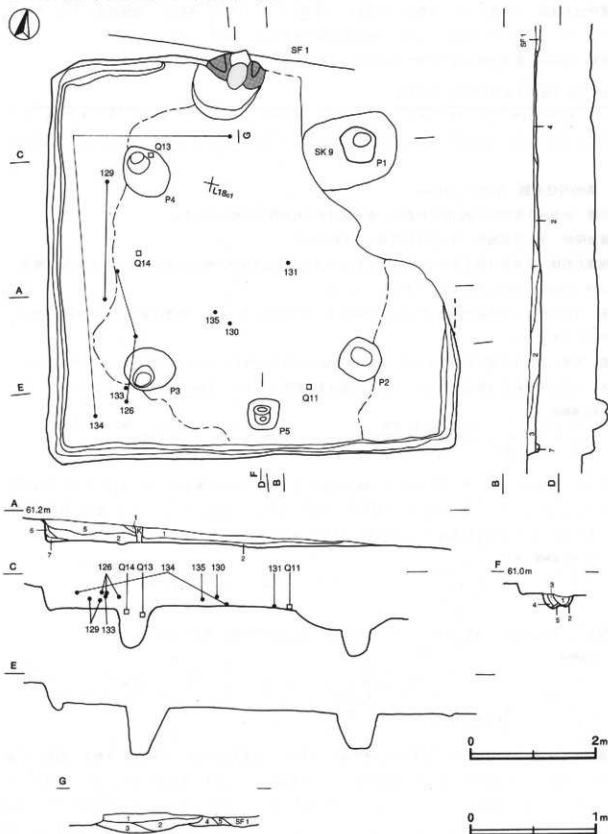
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 5 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 6 褐色 ロームブロック中量
3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 7 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
4 褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量

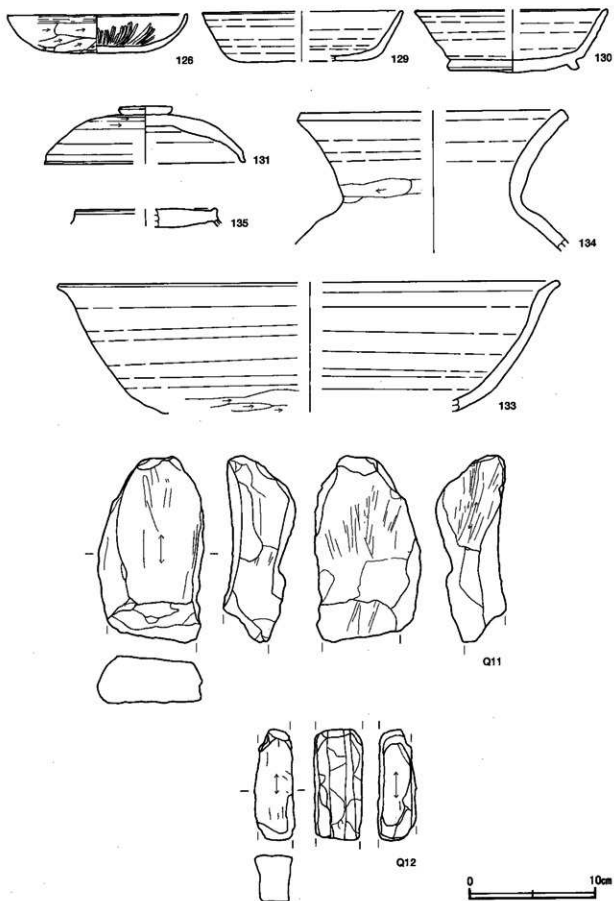
遺物出土状況 土師器片985点(坏類315, 甕類668, 高坏2), 須恵器片197点(坏類103, 甕類92, 高盤, 円面碗), 石製品4点(砥石2, 台石1, 琥珀製薬玉1), 鉄製品2点(刀子), 鉄滓20点の他, 埋没時に混入したと考えられる弥生土器片2点が出土している。131は中央部付近から逆位の状態で, Q11は南壁寄りの, Q14は西壁寄りのそれぞれ床面から出土し, Q13はP4内から出土している。126・129・133・134は西壁寄りの覆土中層から下層にかけて出土しており, これらの遺物は本跡の廃絶に伴って遺棄されたものと考えられる。鉄

滓は小片のため、図化できなかった。

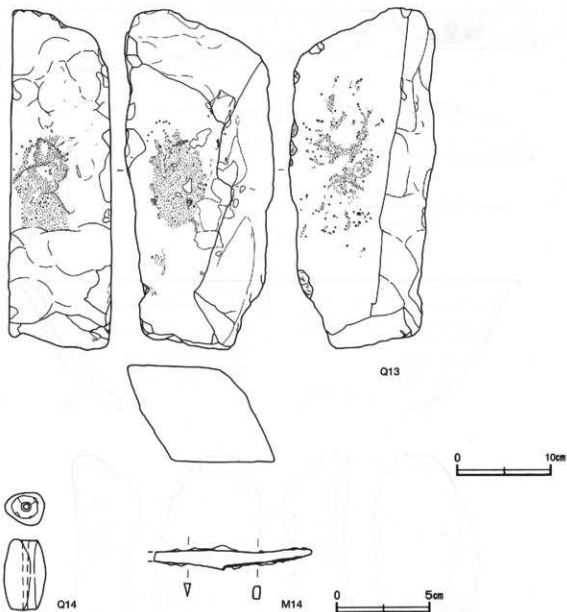
所見 鉄滓が出土し、Q13の表面に溶解した鉄分が融着していることから、鍛冶が行われていた可能性が想定される。時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第232図 第99号住居跡実測図



第233图 第99号住居跡出土遺物実測図(1)



第234図 第99号住居跡出土遺物実測図(2)

第99号住居跡出土遺物観察表 (第233・234図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
126	土師器	坏	14.3	3.0	-	灰石・白色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラ巻き	覆土中層	80%
129	須恵器	坏	[15.3]	3.9	[10.2]	雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	15%
130	須恵器	高台付坏	[15.3]	5.0	10.0	石英・長石	オリーブ灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	60% 益子PL98
131	須恵器	甕	[16.0]	4.5	-	石英・長石・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	65% PL101
133	須恵器	鉢	[40.0]	[10.3]	-	石英・長石	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	5%
134	須恵器	甕	[20.8]	[11.3]	-	石英・長石・雲母	灰黄	普通	体部外面平行敲き	覆土下層	5%
135	須恵器	円面碗	[11.0]	(1.5)	-	石英・長石	黄灰	普通	口ロナダ、裏面ヘラ削り	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	磁石	(14.9)	8.3	5.7	(781.0)	粘板岩	紙面2面	床面	
Q12	磁石	(8.8)	3.2	3.8	(166.7)	粘板岩	紙面2面	覆土上層	

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	台石	35.7	15.6	10.7	7760.0	砂岩	融解した鉄分付着	P 4 上層	
Q14	燧石	3.7	2.1	1.8	4.72	琥珀	円筒結晶形、孔径0.3	床面	PL104
M14	刀子	(8.2)	1.0	0.3	(5.3)	鉄	刀身断面三角形、基部断面長方形	覆土上層	

第100号住居跡 (第235・236図)

位置 調査区東部のL17c8区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第8号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.0m、短軸3.2mの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は3~14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、竈の前面から中央部付近にかけて踏み固められ、南西コーナー付近に焼土が堆積している。壁溝は南壁を除いて巡っており、断面は逆台形またはU字形である。

竈 北壁の中央部に構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで90cm、竈の掘り込み幅は105cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ、角度を変えて外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第15層が対応する土層と考えられる。袖部は、石材を芯材とし砂質粘土を貼り付けて構築されており、そのほか板石も見られることから、天井部にも石材が使用された可能性がある。火床部は床面とほぼ同じレベルで、煙道部の壁際に石製支脚を設置している。火床面が赤変硬化している。

竈土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	焼土粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子中量
3 褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	11 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
4 極暗褐色	焼土粒子微量	12 暗赤褐色	焼土粒子中量
5 褐色	ローム粒子多量	13 暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
6 黒色	焼土粒子微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子微量
7 褐灰色	ローム粒子・炭化粒子微量	15 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
8 明褐色	ローム粒子中量		

ピット 1か所。P1は深さ12cmで、竈左袖に接しており、性格は不明である。

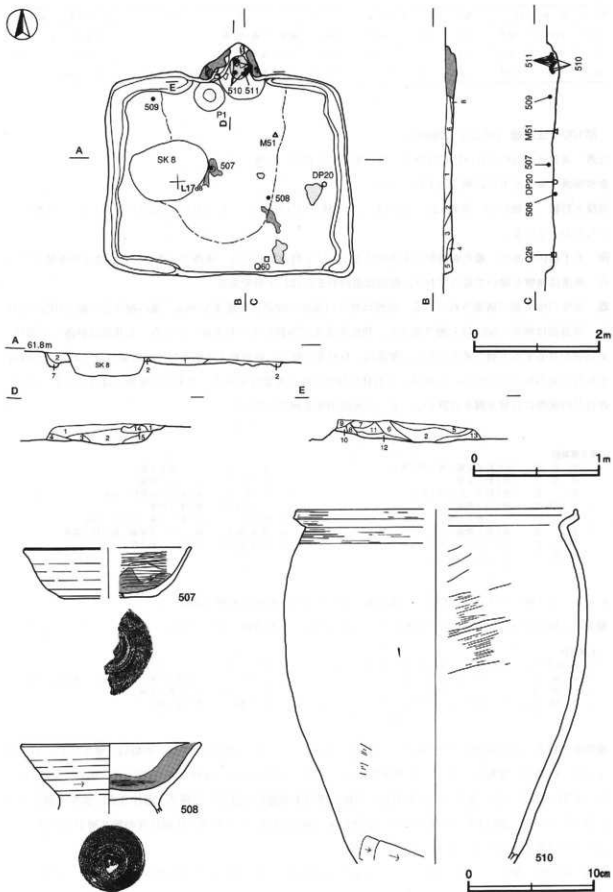
覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

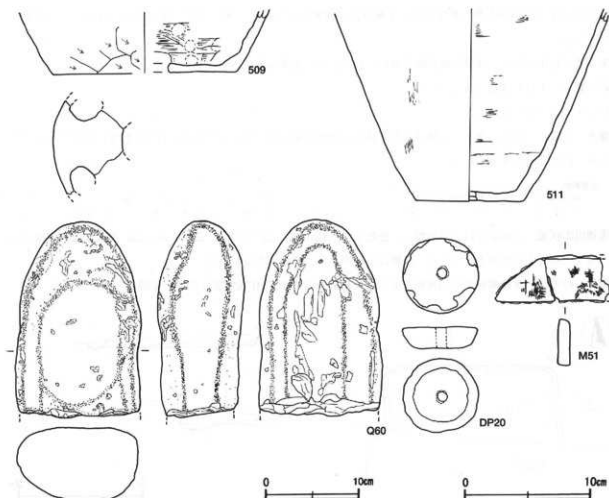
1 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量	5 褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子中量	6 暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック微量	7 褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8 極暗褐色	焼土粒子微量

遺物出土状況 竈の前面や中央部付近に炭化材が出土している。土師器片197点(坏類44, 甕類153), 須恵器片21点(坏類12, 甕類8, 壺1), 灰釉陶器片3点(瓶), 土製品1点(紡錘車), 石器1点(磨石), 鉄製品3点(不明), 鉄滓1点, 瓦片1点, 石材12点の他、埋没する過程で混入した縄文土器片3点, 弥生土器片2点が出土している。507は逆位の状態で第1層中から、508はほぼ正位の状態で床面付近の第2層中から出土し、510・511は竈内から破片の状態で出土している。

所見 炭化材や焼土が見られることから、火災による焼失のため廃棄された可能性が想定される。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第235图 第100号住居跡・出土遺物実測図



第236図 第100号住居跡出土遺物実測図

第100号住居跡出土遺物観察表 (第235・236図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
507	土師器	罎	[13.2]	4.0	7.0	灰石・赤灰子・黒土	にぶい赤褐色	普通	内面ヘラ磨き, 底部ナデ	覆土中層	30%
508	土師器	高台付罎	14.2	(5.6)	-	灰母	にぶい赤褐色	普通	内面ヘラ磨き	床面	90% PL95
509	土師器	甗	- (4.9)	[14.6]	-	石英・長石	にぶい褐色	普通	底部外面下部ヘラ削り, 底部多孔孔	覆土下層	5%
510	土師器	甗	[22.0]	(28.2)	-	石英・長石・灰母	明赤褐色	普通	内外面ナデ	竈	15%
511	土師器	甗	- (15.3)	[8.4]	-	石英・長石・灰母	にぶい赤褐色	普通	内外面ナデ, 底部ヘラ削り	竈	15% 巻土付着

番号	器種	直径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP20	紡錘車	6.1~4.4	1.7	0.8	54.4	土	円錐台形, 両面からの穿孔, 全面ナデ	床面	PL103

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q60	磨石	(20.9)	13.3	9.2	(2690.0)	安山岩	側面に使用痕	床面	
M51	不明	(9.1)	3.8	1.0	(110.9)	鉄	断面長方形, 表面に布付着	床面	

第101号住居跡 (第237図)

位置 調査区中央部のL17c7区に位置し, 尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第219号土坑を掘り込み, 第103号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第103号住居に掘り込まれているため, 全容は明らかではない。現存する規模は長辺2.8m, 短辺

12mで方形または長方形と推定され、主軸方向は西壁からN-5°-Wである。壁高は10~16cmで、ほぼ直立している。

床 若干起伏があり、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

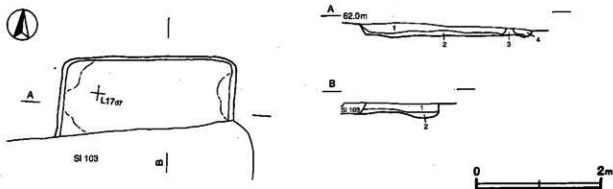
覆土 4層からなる。第3・4層は人為堆積の可能性があるが、第1・2層は含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|----------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片11点(坏類7, 甕類4), 須恵器片1点(坏類), 瓦片1点の他、埋没の過程で混入した縄文土器片1点が出土している。遺物は小片のため、図化できなかった。

所見 時期は、重複関係から10世紀末から11世紀前半の第103号住居跡より古い平安時代と考えられる。



第237図 第101号住居跡実測図

第102号住居跡 (第238図)

位置 調査区中央部のL17d7区に位置し、尾根上の平坦に立地している。

重複関係 第103・133号住居跡、第224・225号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.2m, 短軸2.8mの長方形で、主軸方向はN-80°-Eである。壁高は6~8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 起伏があり、軟弱である。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで72cm, 袖部幅は58cmである。竈は壁外へ70cmほど掘り込まれ、煙道部は緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落しており、第1層が対応する土層と考えられる。袖部は石材を芯材とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じレベルで、石製支脚を設置し火床面が赤変している。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|---------------|-------|--------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

ピット 確認されなかった。

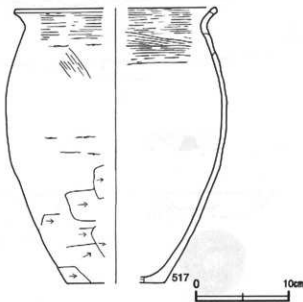
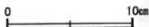
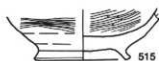
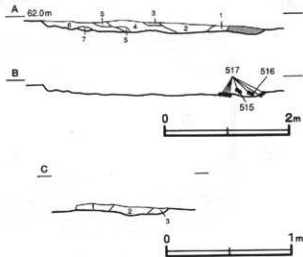
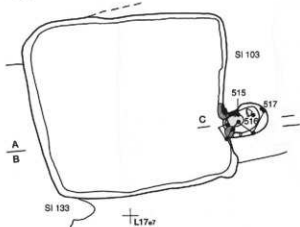
覆土 7層からなる。ローム粒子・ロームブロックを比較的多く含んでおり、粘性・しまりの強い土層が見られることから、人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、粘性強 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、粘性・しまり強 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、粘性・しまり強 | 7 褐色 | ロームブロック多量、粘性・しまり強 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片87点（坏類24，亮類63），石材3点の他，埋没する過程で混入した須恵器片5点（坏類2，亮類3）が出土している。515は竈の火床部からほぼ正位の状態で，517は同じく竈内から破片の状態で，516は床面付近からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係と出土土器などから11世紀前半と考えられる。



第238図 第102号住居跡・出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表（第238図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
515	土師器	高台付筒	-	(4.0)	7.7	赤石・赤色粒子・炭等	にぶい赤褐色	普通	内面ヘラ磨き，底部回転ヘラ切り	竈	40%
516	土師器	皿	[8.4]	1.3	[3.8]	石英・炭石・炭等	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り	竈	35%
517	土師器	甕	[20.8]	29.0	[10.2]	石英・炭石・炭等	にぶい褐色	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ	床面	40%

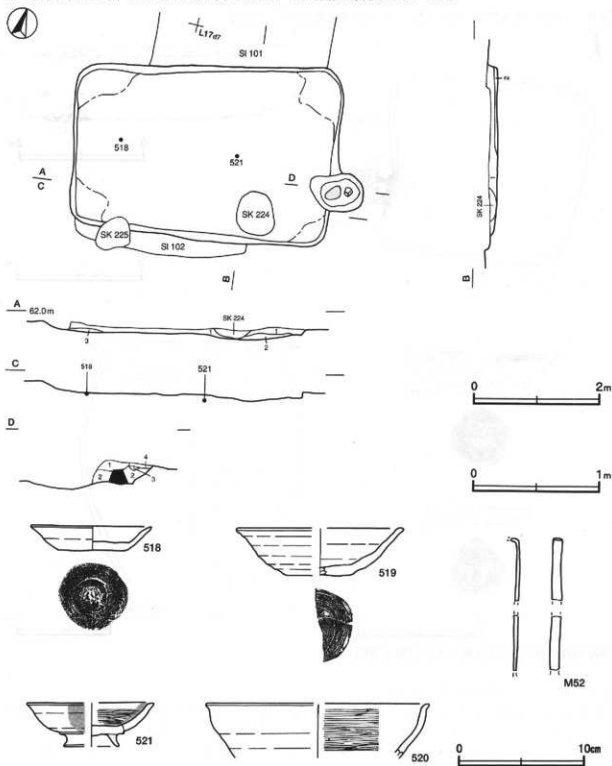
第103号住居跡 (第239図)

位置 調査区中央部のL17d7区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第101号住居跡を掘り込み、第102号住居、第224・225号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.2m、短軸2.8mの長方形で、主軸方向はN-78°-Eである。壁高は10~14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。



第239図 第103号住居跡・出土遺物実測図

竈 東壁の南寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで88cm、竈の掘り込み幅は60cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第1層が対応する土層と考えられる。袖部は失われている。火床部は地山を若干掘り込んでおり、火床面が赤変硬化している。煙道部寄りに石製支脚を設置している。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------|-------|--------------|
| 1 褐灰色 | 粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 3 明褐色 | 焼土粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

ピット 確認されなかった。

覆土 3層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片67点(坏類45, 甕類22) 須恵器片5点(坏類2, 甕類3), 鉄製品3点(不明), 石材3点の他、埋没する過程で混入した須恵器片5点(坏類2, 甕類3)が出土している。518は逆位の状態、521は横位の状態それぞれ床面上から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から10世紀末～11世紀前半と考えられる。

第103号住居跡出土遺物観察表 (第239図)

番号	種別	器種	L径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
518	土師器	皿	9.3	1.9	5.2	長石・雲母	にぶい濁	普通	底部回転ヘラ切り	床面	90% PL99
519	土師器	坏	[13.2]	3.8	[5.6]	石灰・赤磁子・雲母	にぶい濁	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	30%
520	土師器	坏	[17.8]	(4.4)	-	石灰・長石・赤磁子	にぶい黄澄	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	20%
521	土師器	高台付瓶	[10.0]	3.4	[4.4]	長石	にぶい澄	普通	内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ切り	床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M52	不明	(9.3)	0.7	0.15-0.2	(4.5)	鉄	刀装具?	覆土中	

第104号住居跡 (第240図)

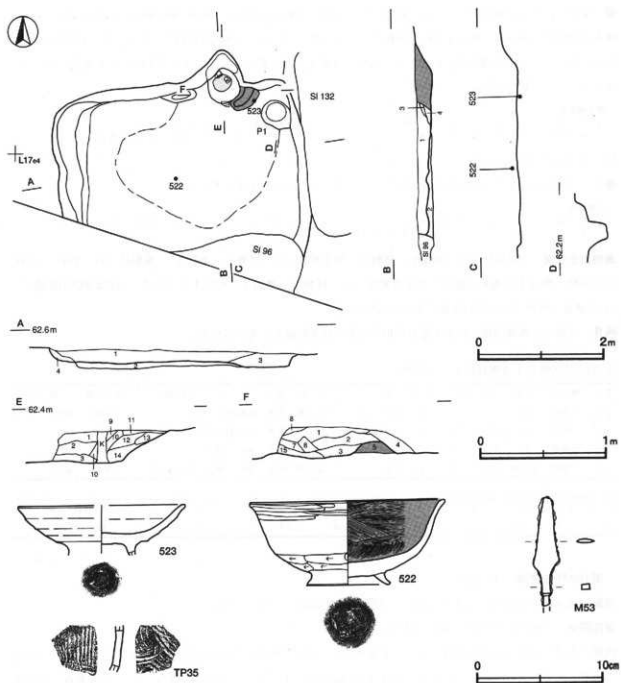
位置 調査区中央部のL17e4区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第96・132号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南端は調査区域外に延び、南東コーナー付近は第221号住居に掘り込まれていることから、全容は不明である。長辺4.0m、短辺2.7mの方形または長方形と推定され、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は17~23cmで、外傾して立ち上がっている。

床 西側に約10cmの段差を持ち、東側にローム混じりの褐色土による貼床が施されており、竈の前面から中央部まで踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁の東寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで85cm、袖幅は102cmである。煙道部は壁外へ45cmほど掘り込まれており、煙道部の壁面はロームに粘土混じりの土を用いて補強され、外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており、第13層が対応する土層と考えられる。袖部は右袖の基底部だけが残存し、砂質粘土で構築されている。竈の前面に石材が出土していることから、天井部や袖部の構築材として使用されたと考えられる。火床部は地山を若干掘り込んでおり、石製支脚が煙道部寄りに設置され、火床面が赤変硬化している。



第240図 第104号住居跡・出土遺物実測図

竪土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|----------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子微量 | 11 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 12 にい赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 5 灰褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 13 灰黄褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |

ピット 1か所。P1は深さ28cmで、柱穴と考えられる。その他の柱穴は確認されなかった。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第2層は貼床の土層である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量	3	褐色	ローム粒子中量
2	褐色	ローム粒子中量、粘性強	4	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片122点(坏類72, 壺類50), 石器1点(磨石), 鉄製品1点(鉄), 鉄滓7点, 石材9点の他, 埋没する過程で混入した須恵器片9点(坏類3, 壺類6)が出土している。522は第2層上面付近からは横位の状態, 523は竈右側の床面上から逆位の状態で出土している。

所見 西側に段差があり, 東側に貼床が施されていることから, 西側に拡張された可能性が考えられる。時期は, 出土土器から10世紀後半と考えられる。

第104号住居跡出土遺物観察表(第240図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
522	土師器	高台付甕	[15.4]	6.9	6.6	長石・炭母	にぶい濁	普通	内面へら磨き, 体部下層手持ちへら削り	覆土下層	50%
523	土師器	高台付甕	[13.2]	(40)	-	長石・炭灰・炭母	にぶい濁	普通	ロクロナゲ	床面	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP35	須恵器	壺	長石	灰濁	良	外面平形叩き, 内面青海波叩き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M53	鉄	(87)	2.0	0.4	(12.8)	鉄	柳葉式鎌身, 茎部欠損	覆土中	PL105

第105号住居跡(第241図)

位置 調査区中央部のL17d3区に位置し, 尾根上の平坦面に立地している。

規模と形状 南側は調査区域外に延びており, 全容は不明である。現存する規模は長辺3.4m, 短辺1.3mで方形または長方形と推定され, 主軸方向はN-16°-Eである。壁高は20~30cmで, 外傾して立ち上がっている。床 平坦で, 竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁の東寄りに構築されている。規模は吹き口部から煙道部先端まで71cm, 袖部幅は122cmである。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており, 第1層が対応する土層と考えられる。袖部は左袖が甕を, 右袖が平瓦を構築材とし, 砂質粘土で構築されている。火床部は地山を若干掘り込んでおり, 煙道部の壁際に平瓦を転用した支脚が設置され, 火床部が赤変硬化している。

土層解説

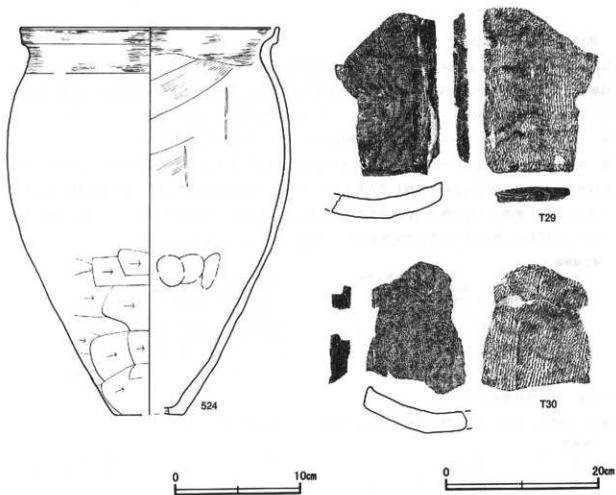
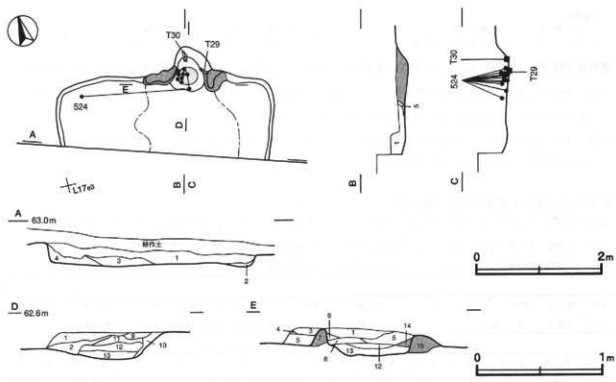
1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子微量	10	極暗赤褐色	焼土粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子微量	11	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
4	褐色	粘土粒子中量	12	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子・赤色粒子微量	13	極暗赤褐色	焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	14	極暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
7	褐色	粘土ブロック中量	15	灰褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量
8	暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量			

ピット 確認されなかった。

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量	4	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子多量	5	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量
3	暗褐色	赤色粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量			



第241图 第105号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片108点（坏類4，変類104），瓦片3点の他，埋没する過程で混入した須恵器片6点（坏類3，変類3）が出土している。524は胴部の一部が覆土下層から横位の状態では，その他の部位は竈内から破片の状態で出土している。T29は竈の構築材として，T30は支脚として使用されたものである。

所見 時期は，出土土器と平瓦が竈に使用されていることから9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

第105号住居跡出土遺物観察表（第241図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色黄	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
524	土師器	甕	20.4	30.6	[5.6]	石英・長石・雲母	赤褐	普通	内外面ナテ，外面下部ヘラ削り	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T29	平瓦	(21.8)	(14.6)	2.6	(1030.0)	土	凸面縄印き，凹面布目痕	竈右輪	PL109
T30	平瓦	(16.8)	(13.5)	2.7	(780.0)	土	凸面縄印き，凹面布目痕	竈	PL108

第106号住居跡（第242図）

位置 調査区中央部のL18E3区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第160号住居跡，第18号掘立柱建物跡，第78号土坑を掘り込み，第77号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側は調査区域外に延び，全容は明らかではない。現存する規模は長辺30m，短辺2.5mで，長方形と推定され，主軸方向はN-8°-Wである。壁高は22～51cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，竈の前面から中央部付近にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁の北東コーナー付近に構築されている。規模は吹き口部から煙道部先端まで47cm，竈の掘り込み幅は64cmである。竈は壁外へ50cmほど掘り込まれ，緩やかに外傾して立ち上がっている。天井部は崩落しており，第2・4・8層が対応する土層と考えられる。袖部は失われており，右袖の基部から瓦が出土していることから，これを構築材として使用していたと考えられる。竈の内外から石材も出土しており，これらも天井部や袖部の構築材と考えられる。火床部は床面と同じレベルで，火床面が赤変している。

覆土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	6 黒褐色	炭化粒子微量
2 灰黄褐色	粘土粒子少量	7 黒褐色	焼土粒子少量
3 褐灰色	焼土粒子・炭化粒子微量	8 灰黄褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
4 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	9 灰褐色	焼土粒子少量，粘土粒子微量
5 暗褐色	焼土粒子微量	10 暗赤褐色	焼土粒子中量

ピット 確認されなかった。

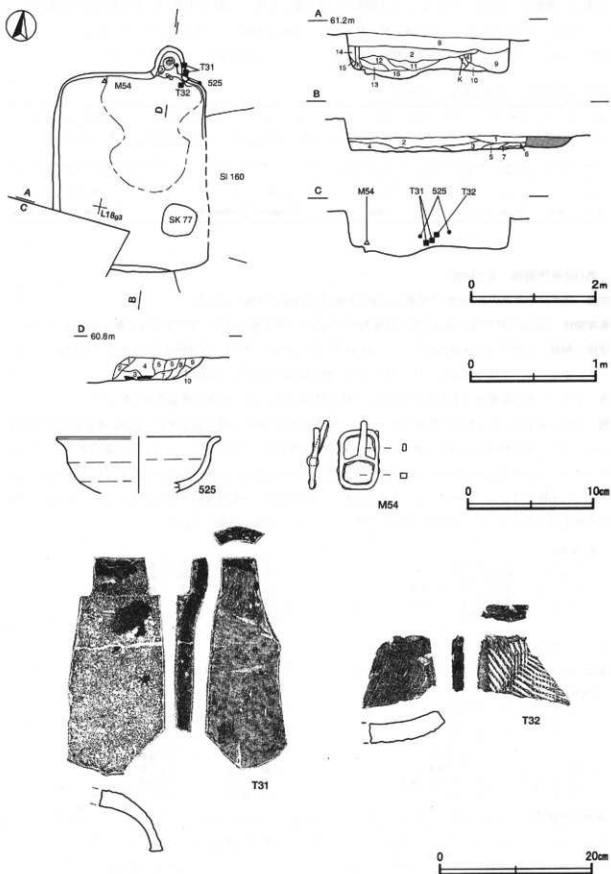
覆土 16層からなる。ブロックを含む土層が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック微量	10 褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック微量
4 褐色	ローム粒子中量	12 暗褐色	ローム粒子少量
5 褐色	ロームブロック微量	13 黒褐色	ローム粒子微量
6 褐色	ロームブロック微量	14 褐色	ローム粒子少量
7 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ローム粒子少量
8 黒褐色	ローム粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片55点（坏類25，変類30），鉄製品1点（鉤具），鉄滓2点，瓦片1点，石材17点の他，覆土に混入した縄文土器片1点，須恵器片11点（坏類9，変類2）が出土している。525は竈内と北東コーナー付近から破片の状態では，M54は北壁際の床面付近から出土している。T31・32は竈の構築材として使用されていたものである。

所見 時期は、出土土器などから10世紀後半と推定される。



第242図 第106号住居跡・出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表 (第242図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
525	土師器	高台付椀	[13.0]	(45)	-	雲母	褐	普通	ロクロナデ	竈	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M54	鈎具	5.4	3.2	0.40	149	鉄	貫め具	床面	PL106
T31	丸瓦	(28.2)	(8.4)	(1.8)	(860.0)	土	玉縁式、凸面ヘラ磨り、凹面布目痕、吊経痕	竈	PL107
T32	平瓦	(9.5)	(10.0)	2.6	(320.0)	土	凸面平行磨き、凹面布目痕	竈	PL109

第108号住居跡 (第243・244図)

位置 調査区西部のK15B区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第15号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西側は調査区域外に延び、南側は第15号住居に掘り込まれているため、全容は明らかではない。現存する規模は一辺1.3mで、主軸方向は東壁からN-3°-Wと推定される。壁高は8~14cmで、外傾して立ち上がっている。

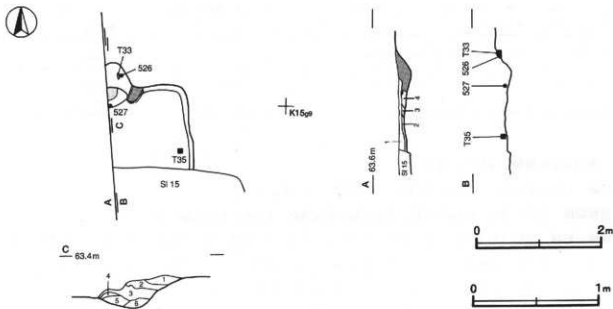
床 若干起伏があり、やや軟弱である。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁に構築され、西側は調査区域外に延びている。規模は調査された範囲で、焚き口部から煙道部先端まで72cm、袖部幅は右袖部まで57cmである。煙道部は壁外へ45cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部は削平され、袖部は丸瓦を用いて構築されている。火床部は地山を若干掘り込んでおり、煙道部寄りに平瓦を転用した支脚を設置し、火床面が赤変硬化している。

電土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|--------|---------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 確認されなかった。



第243図 第108号住居跡実測図

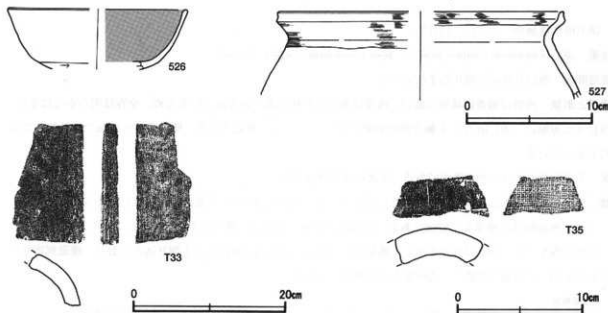
覆土 4層からなる。ブロックを含む層が多いことから、人為堆積と考えられる。第4層は竈から流出した土層である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 4 暗赤褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片15点(坏類8, 甕類7), 須恵器片2点(坏類1, 甕類1), 瓦片4点が出土している。526はT33と共に竈内から、527は第3層中から破片の状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第244図 第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表 (第244図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
526	土師器	高台付碗	[14.2]	(4.8)	-	雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	竈	30%
527	土師器	甕	[22.6]	(7.0)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	内外面ナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T33	丸瓦	(15.8)	(6.8)	2.0	(370.0)	土	凸面ナデ, 凹面布目肌	竈	
T35	丸瓦	(3.3)	(6.9)	2.1	(60.0)	土	凸面ナデ, 凹面布目肌	覆土下層	

第110号住居跡 (第245・246図)

位置 調査区中央部のL18e2区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第107・109・111号住居跡, 第18号掘立柱建物跡, 第206号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 東壁は削平され、全容は明らかではない。現存する規模は長辺4.3m, 短辺3.3mで、長方形と推定され、主軸方向は北壁からN-2°-Eと推定される。壁高は28cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 平土で、竈の前面が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁に構築されており、残存状況は良くない。規模は焚き口部から煙道部先端まで62cm, 竈の掘り込み幅は64cmである。竈は壁外へ50cmほど掘り込まれ、煙道部は緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落し、第2

層が対応する土層と考えられる。火床部は地山を若干掘り込んで構築され、火床面が赤変している。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------|-------|-------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 に近い赤褐色 | 焼土ブロック中量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ24cmで、位置から柱穴と考えられる。P2は深さ25cmで、竈の左袖の位置にあり、性格は不明である。

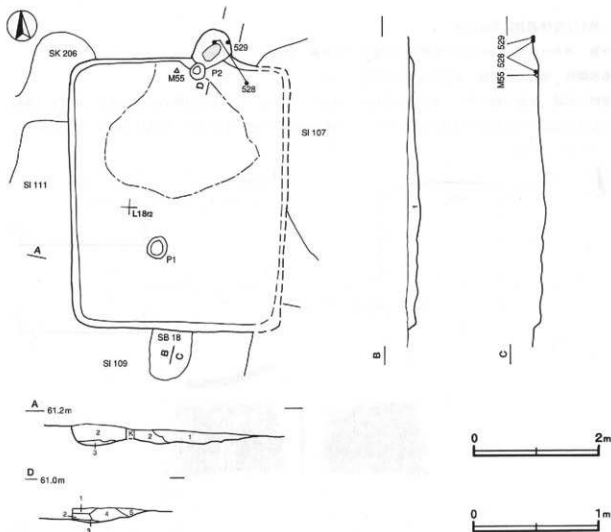
覆土 3層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

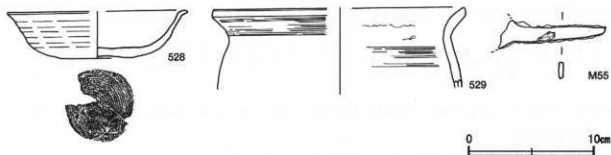
- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片49点（坏類25、甕類24）、鉄製品1点（刀子）の他、埋没する過程で混入した須恵器片1点（甕類）が出土している。528・529は竈の底面付近から破片の状態で、M55は竈前面の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から10世紀後半と考えられる。



第245図 第110号住居跡実測図



第246図 第110号住居跡出土遺物実測図

第110号住居跡出土遺物観察表 (第246図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
528	土師器	坏	[142]	3.7	5.6	石英・雲母	にぶい障	普通	底部回転糸切り	竈	40%
529	土師器	壺	[198]	(16.3)	-	石英・炭石・雲母	橙	普通	内外面ナデ	竈	5%

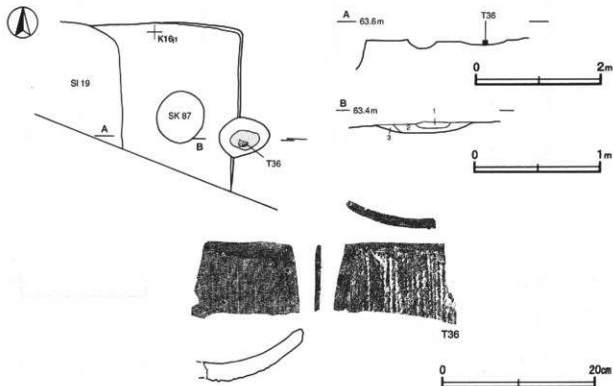
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M55	刀子	(8.5)	(2.3)	3.0	(12.4)	鉄	基部木片付着、刀身部欠損	床面	

第112号住居跡 (第247図)

位置 調査区西部のK16j1区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第19号住居跡、第87号土坑と重複している。

規模と形状 上面が削平され、竈と床の痕跡から確認したため、全体の形状は明らかではない。現存する規模は長辺2.6m、短辺2.4mの方形または長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は4cmほどで、緩やかに立ち上がっている。



第247図 第112号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦で、軟弱である。

竈 東壁に構築されている。上面を削平され、底面が残存している。規模は焚き口部から煙道部先端まで長軸80cm、竈の掘り込み幅は68cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。天井部・袖部は失われており、覆土に砂質粘土が含まれていることから、粘土を用いていたものと考えられる。また瓦が出土していることから、構築材として使用された可能性がある。火床部は地山を若干掘り込んで構築されており、火床面が赤変している。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック・粘土粒子微量
3 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量

ピット 確認できなかった。

遺物出土状況 須恵器片1点（坏類）、瓦片1点が出土している。T36は竈内から出土している。

所見 時期は、東壁に竈が構築され瓦片が出土していることから9世紀～10世紀頃と考えられる。

第112号住居跡出土遺物観察表（第247図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T36	平瓦	(10.6)	(12.6)	1.9	(460.0)	土	凸面平行印き、凹面布目痕、端部ヘラ削り	竈	PL109

第113号住居跡（第248・249図）

位置 調査区中央部のL17a4区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第114号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北側は後世の攪乱を受けている。長辺6.3m、短辺5.5mの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は4～29cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、柱穴の内側が踏み固められている。壁溝は南壁から西壁にかけて確認され、断面はU字形である。

竈 北壁に構築されており、攪乱が激しく原形を留めていない。推定される規模は焚き口部から煙道部先端まで99cm、袖幅は120cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれている。

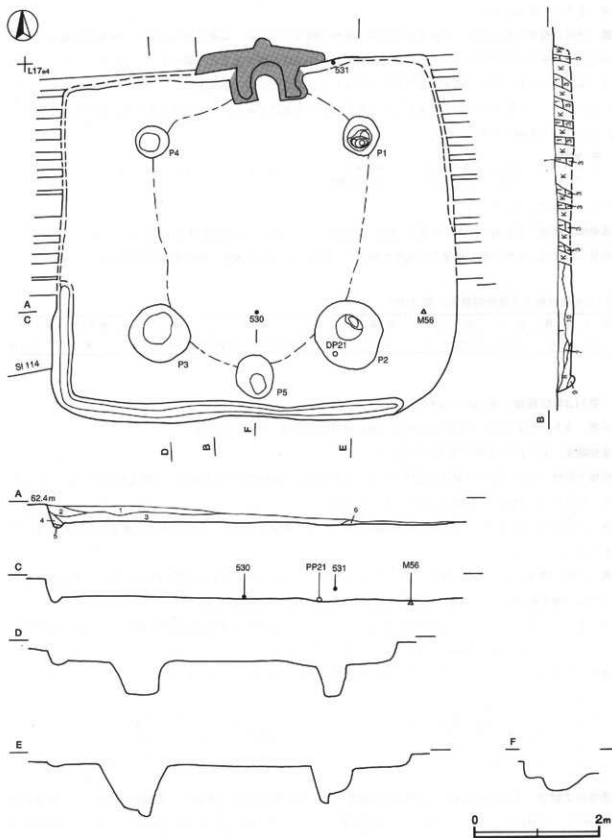
ピット 5か所。P1～P4は深さ45～50cmで、主柱穴である。P5は深さ19cmで、竈と向かい合って位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層からなる。ロームブロックを含む層が見られ、人為堆積と考えられる。

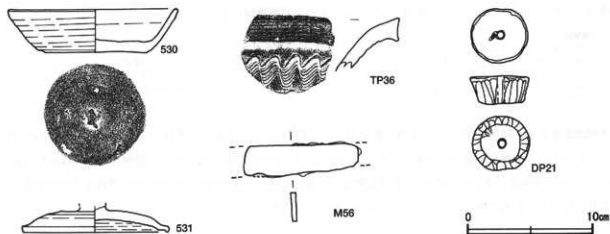
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック少量
4 褐色 ロームブロック少量
5 褐色 ロームブロック少量
6 褐色 ローム粒子中量
7 暗褐色 ロームブロック微量
8 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
9 褐色 ローム粒子中量
10 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片274点（坏類109、変類165）、須恵器片99点（坏類59、変類38、壺2）、土製品1点（紡錘車）、鉄製品1点（刀か）、鉄滓2点の他、覆土に混入した縄文土器片2点が出土している。530は正位の状態、D P21・M56とともに床面付近から出土し、531は竈東側の壁際からほぼ正位の状態で出土している。所見 本跡は東壁を欠くものの、当遺跡では大形の住居である。時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。



第248图 第113号住居跡实测图



第249図 第113号住居跡出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表 (第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
530	須恵器	坏	13.2	3.5	8.0	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	80% PL57
531	須恵器	蓋	11.6	(2.0)	-	石英・長石・雲母	灰	普通	天井部ヘラ削り	覆土中層	80% 益子ヶ

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP36	須恵器	甕	長石・雲母	黄灰	普通	頸部礫球波状文	覆土中	

番号	器種	直径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP21	紡錘車	4.5~3.2	2.2	0.3	40.0	土	円錐台形, 側面磨き	床面	PL103

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M56	刀ヶ	(9.5)	(2.5)	0.4	(52.9)	鉄	断面長方形	床面	

第114号住居跡 (第250・251図)

位置 調査区中央部のL17a3区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第113号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東壁を第113号住居に掘り込まれ、また全面的に後世の擾乱を受けていることから、全容は明らかではない。現存する規模は長辺5.1m、短辺4.4mで、方形または長方形と推定され、主軸方向はN-5°-Eである。壁高は28~44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、中央部付近が硬化している。壁溝は南壁から西壁にかけて巡っており、断面はU字形である。

竈 東壁に構築されており、擾乱による破壊が著しい。規模は焚き口部から煙道部先端まで72cm、袖部幅は101cmと推定される。煙道部は壁を若干掘り込んでおり、外傾して立ち上がっている。天井部は残存せず、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じレベルであったと考えられる。

竈土層解説

1 暗褐色 粘土粒子少量

2 暗褐色 焼土粒子中量

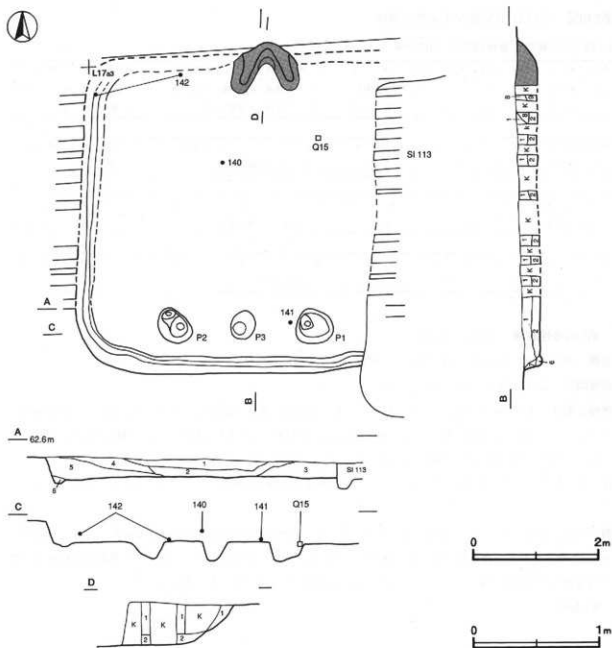
ピット 3か所。P1・P2は深さ28~31cmで、主柱穴と考えられる。P3は深さ31cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

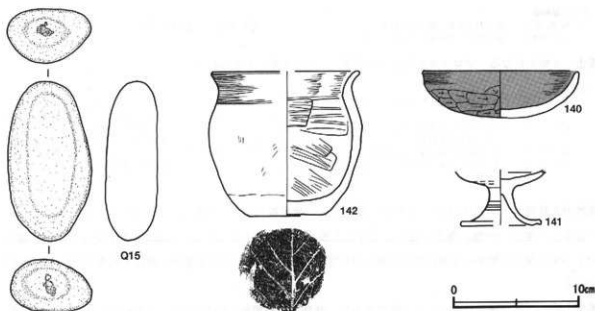
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量	6 極暗褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック微量	7 褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ローム粒子中量	8 褐色	ローム粒子少量、しまり強
4 褐色	ロームブロック少量	9 褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量
5 褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 土師器片396点(坏類94, 甕類302), 須恵器片57点(坏類24, 甕類29, 高坏3, 壺1), 石材20点の他, 埋没する過程で混入した縄文土器片10点が出土している。140は第2層の上面付近からほぼ正位の状態で, 141は床面から逆位の状態で, 142は北壁寄りの覆土中層から床面付近にかけてそれぞれ出土している。所見 時期は, 重複関係と出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第250図 第114号住居跡実測図



第251図 第114号住居跡出土遺物実測図

第114号住居跡出土遺物観察表 (第251図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
140	土師器	坏	12.3	3.8	-	石英・灰石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り	覆土中層	90% PL94
141	須恵器	高坏	-	(4.4)	[6.5]	長石	灰	普通	ロクロナデ、舞彫にて染の沈	床面	50%
142	土師器	小形甕 [118]	11.5	6.2	-	石英・灰石・雲母	明赤褐	普通	外面ナデ、内面ヘラナデ	床面	45%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	巖石	12.6	6.6	4.2	516.0	安山岩	両端に縦き痕	床面	

第115号住居跡 (第252・253図)

位置 調査区西部のK16j2区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第41号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南側は調査区域外に延び、全容は明らかでない。確認した規模は長辺5.3m、短辺2.6mで、方形または長方形と推定され、主軸方向はN-0°である。壁高は69~72cmで、東壁はほぼ直立しており、その他は外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁の東寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで82cm、袖幅は148cmである。煙道部は壁外へ10cmほど掘り込まれ、角度を変えて外傾して立ち上がっている。天井部は砂質粘土で構築され、第1層が対応する土層である。袖部は左袖に窠を芯材として使用し、砂質粘土で構築されている。火床部は床面とはほぼ同じレベルで、煙道部にかけて火床面が赤変硬化している。

竈土層解説

1 褐灰色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 明赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	炭化物少量、焼土ブロック微量	7 褐色	ロームブロック少量
4 明赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット P1は深さ36cmで、覆土に焼土・炭化物を含んでいることから、竈に伴う施設と考えられる。

P1土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|--------|--------|
| 1 灰黄褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子微量 | 3 灰黄褐色 | 炭化粒子中量 |
| 2 に近い黄褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | | |

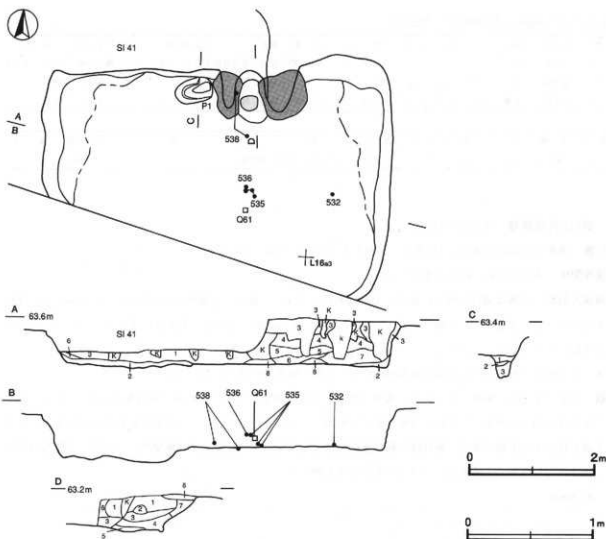
覆土 8層からなる。ブロックを含む土層が多く、人為堆積と考えられる。

土層解説

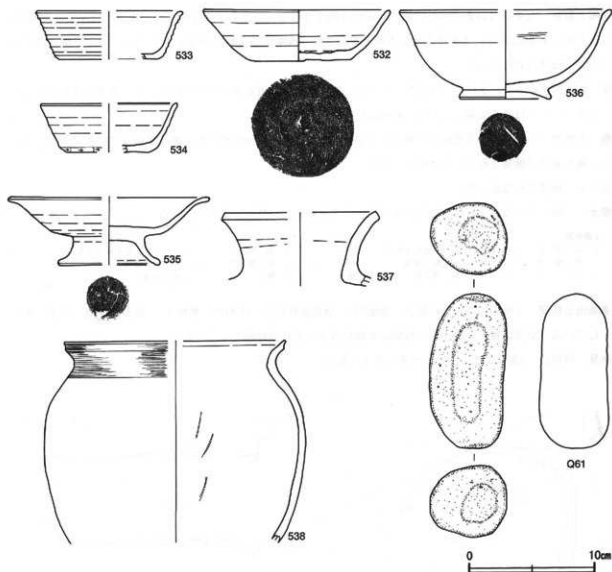
- | | | | |
|-------|---------------------------------|------|------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物・粘土ブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片207点(坏類69, 甕類138), 須恵器片35点(坏類25, 甕類10), 土製品1点(支脚), 石器1点(磨石)の他, 覆土に混入した弥生土器片3点が出土している。532は床面上から正位の状態, 535・536は覆土中層から下層にかけて破片の状態, 538は竈内とその前面から破片の状態それぞれ出土している。

所見 535・536は覆土に混入した可能性があり, 時期は重複関係と532などから8世紀末~9世紀前葉と考えられる。



第252図 第115号住居跡実測図



第253図 第115号住居跡出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表 (第253図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
532	須恵器	坏	14.7	4.1	8.0	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り	床面	80% 堀ノ内 PL58
533	須恵器	坏	[11.5]	3.8	[8.0]	白色砂子・雲母	灰白	普通	底部・体部下端回転ヘラ削り	覆土中層	30% 堀ノ内
534	須恵器	坏	[10.8]	3.9	[6.6]	長石	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部回転ヘラ削り	覆土中層	30% 堀ノ内
535	土師器	高台付椀	[15.5]	5.4	[7.8]	赤色砂子・雲母	におい橙	普通	ロクロナデ	覆土下層	25%
536	土師器	高台付椀	[16.8]	7.1	7.1	長石・雲母	におい橙	普通	内面ヘラ磨き、底部回転糸切り	覆土中層	30%
537	須恵器	壺	[12.6]	(5.9)	-	石英・長石	灰白	普通	ロクロナデ	覆土中層	5%
538	土師器	甕	[17.1]	(16.1)	-	石英・長石・雲母	におい赤褐	普通	内外面ナデ	壺	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q61	磨石	123	6.1	5.6	675.0	安山岩	両端に磨り痕		覆土中層		

第116号住居跡 (第254図)

位置 調査区中央部のK18b2区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第117号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東側は調査区域外に延び、東壁は削平されているため全容は明らかでない。残存する規模は、長辺3.3m、短辺3.2mで、方形または長方形と推定され、西壁から主軸方向はN-3°-Wである。壁高は27cmほどで、ほぼ直立している。

床 若干起伏があり、全体的に硬化しているが、特に中央部付近が踏み固められている。壁溝は南壁から北壁の北西コーナー付近まで巡っており、断面はU字形である。

竈 北壁寄りの床面に、炭化粒子・焼土粒子が長軸50cm、短軸40cmの楕円形に薄く堆積している。このことから、竈が北壁に構築されていると推定される。

ピット 確認されなかった。

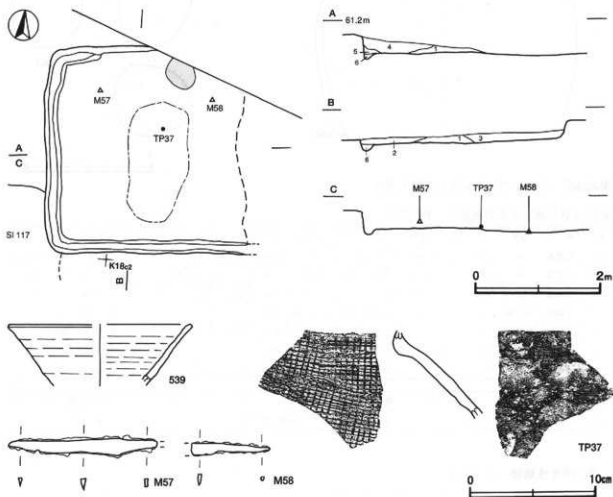
覆土 6層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	4	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック数量
3	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片71点（坏類18、甕類53）、須恵器片15点（坏類12、甕類3）、鉄製品5点（刀子）が出土している。M57は覆土中層から、M58は床面付近からそれぞれ出土している。

所見 時期は、539などから9世紀中葉と考えられる。



第254図 第116号住居跡・出土遺物実測図

第116号住居跡出土遺物観察表 (第254図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
539	須恵器	環	[14.5]	(4.8)	-	石英・長石	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T P37	須恵器	甕	長石	灰黄	普通	外面格子印き	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M57	刀子	(11.8)	1.6	0.4	(16.4)	鉄	刀身断面三角形, 基部欠損	覆土中層	PL105
M58	刀子	(6.3)	1.0	0.3	(5.8)	鉄	刀身断面三角形, 刀身部一部欠損	床面	

第117号住居跡 (第255図)

位置 調査区中央部のK18c1区に位置し, 東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第116号住居に掘り込まれている。

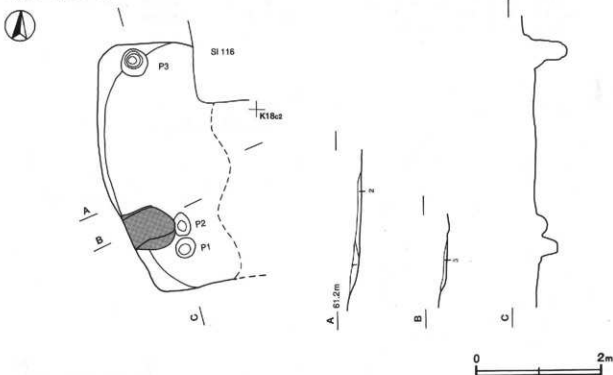
規模と形状 東側は第116号住居に掘り込まれ, また削平されているため全容は明らかでない。現存する規模は長辺4m, 短辺1.9mで, 方形または長方形と推定され, 主軸方向は西壁からN-16°-Wである。壁高は12cmほどで, 緩やかに立ち上がっている。

床 若干起伏があり, 全体的に踏み固められている。堀溝は確認されなかった。西壁の南西コーナー寄りに粘土が堆積している。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 3か所。P1~P3は深さ16~56cmで, 壁と平行していることから主柱穴と考えられる。

覆土 3層からなる。第1・2層は自然堆積の可能性があり, 第3層は粘土を多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。



第255図 第117号住居跡実測図

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
2 にぶい褐色 ローム粒子中量

- 3 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片29点（坏類1，甕類28），須恵器片4点（坏類1，甕類3），鉄滓8点の他、埋没する過程で混入した弥生土器片1点，土師質土器片1点が出土している。小片が多く，図化できなかった。

所見 当初，南西コーナー寄りの粘土を甕の痕跡と想定して調査を行ったが，煙道部の掘り込みや火熱を受けた痕跡は認められなかった。時期は，重複関係から9世紀中葉の第116号住居跡より古い平安時代と考えられる。

第118号住居跡（第256図）

位置 調査区中央部のL1757区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第223号土坑を掘り込み，第129号住居，第64号土坑，第1号道路跡に掘り込まれている。

規模と形状 西側は第129号住居に掘り込まれており，全容は明らかではない。現存する規模は長辺3.7m，短辺2.2mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN-3°-Wである。壁高は10~12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり，全面的に硬化している。壁溝は確認されなかった。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

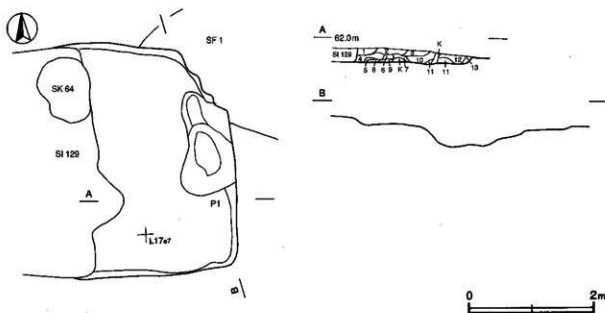
ピット 1か所。深さは34cmで，性格は不明である。

覆土 13層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗赤褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量
3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 焼土粒子少量
5 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6 にぶい赤褐色 焼土粒子中量
7 暗褐色 焼土粒子少量，粘土粒子微量

- 8 赤褐色 焼土粒子中量
9 赤褐色 焼土粒子中量
10 褐色 ローム粒子中量
11 褐色 ローム粒子中量
12 褐色 ローム粒子中量，赤色粒子微量
13 明褐色 ローム粒子中量



第256図 第118号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片27点（坏類11，甕類16），石器1点（磨石）が出土している。いずれも小片のため、図化できなかった。

所見 竈などは確認されず，西壁に構築されていた可能性はあるものの，その痕跡は認められなかった。南北の壁が第129号住居跡とほぼ一致しているため，当初本跡の位置に住居を構築しようとしたが，何らかの理由により第129号住居跡として作り替えられた可能性が考えられる。時期は11世紀前半の第129号住居跡より古い平安時代と考えられる。

第120号住居跡（第257図）

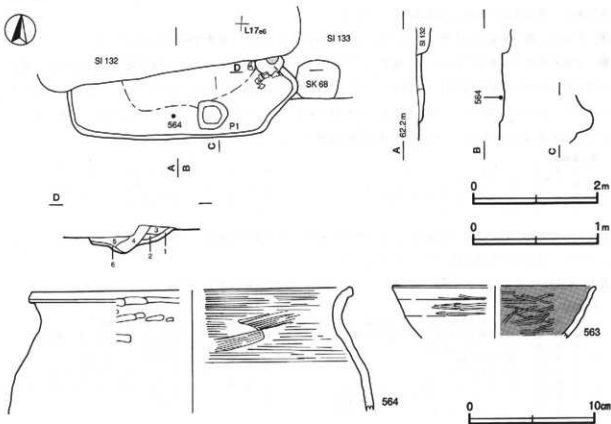
位置 調査区中央部のL17e5区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第132・133号住居，第68号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側は第132号住居に掘り込まれており，全容は明らかではない。現存する規模は長辺3.1m，短辺0.9mの方形または長方形と推定され，主軸方向はN-88°-Eである。壁高は6～10cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，竈の前面から中央部付近が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁に構築されているが，北側を掘り込まれている。現存する規模は焚き口部から煙道部先端まで50cm，右袖部までの幅は40cmである。煙道部は壁に接しており，緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落し，第2層が対応する土層と考えられ，前面から構築材と考えられる石材が出土している。袖部は粘土は確認されなかったが，構築材と考えられる石材が出土している。火床部は地山を若干掘り込んでおり，火床面が赤変硬化している。



第257図 第120号住居跡・出土遺物実測図

竪土層解説

- | | | | |
|-------|---------|--------|----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 2 褐色 | 粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |

ピット 1か所。P1は深さ20cmで、南壁に接していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 単一層である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片14点（坏類3，甕類11），石材1点が出土している。564は床面付近から破片の状態で出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から9世紀代と考えられる。

第120号住居跡出土遺物観察表（第257図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
563	土師器	椀	[16.0]	(4.1)	-	雲母	橙	普通	内外面ヘラ磨き	覆土中	25%
564	土師器	甕	[26.4]	(9.8)	-	石灰・長石・雲母	にぶい橙	普通	外面一部ヘラ磨き	床面	10%

第121号住居跡（第258・259図）

位置 調査区中央部のK17h1区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第98号住居跡，第205号土坑を掘り込み，第203・204・499号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東コーナー付近が攪乱を受けている。長軸5.3m，短軸4mの長方形で，主軸方向はN-6°-Wである。壁高は25-45cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，竈の前面から中央部付近にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁の西寄りに構築されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで115cm，袖部幅は110cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ，ほぼ直立している。天井部は崩落しており，第2・6層が対応する土層と考えられる。袖部も破壊され，右袖は壁に粘土の痕跡を残しているだけである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じレベルで，火床面が赤変硬化している。

竪土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック微量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ41cmで，柱穴と考えられる。P2は深さ26cmで，竈と向かい合って位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

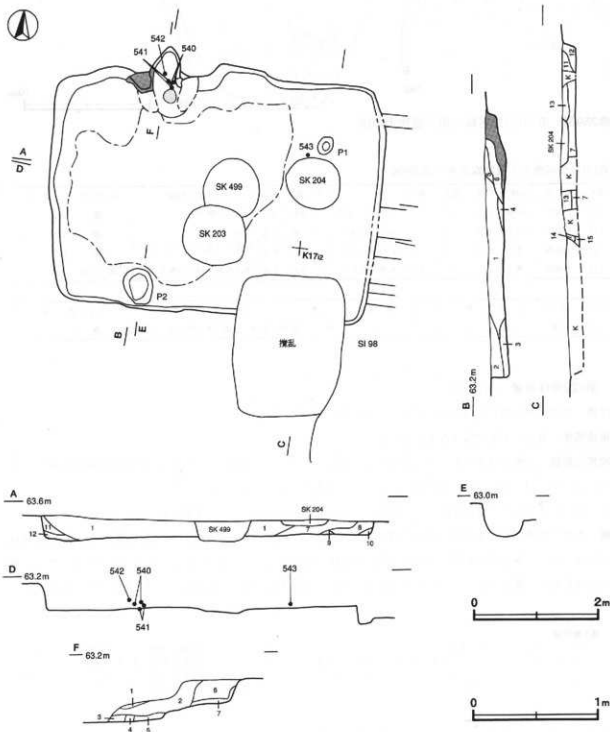
覆土 15層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

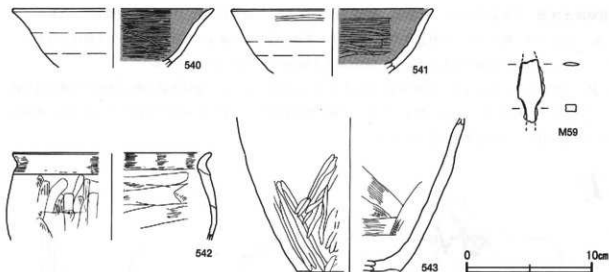
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 13 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・赤色粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 褐色 | ローム粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片252点（坏類96，甕類154，高坏2），須恵器片29点（坏類13，甕類16），鉄製品1点（鎌），瓦片3点，軽石1点，石材15点の他，埋没する過程で混入した縄文土器片3点，弥生土器片2点が出土している。540～542は竈の底面付近から，543は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 北壁西寄りに竈を設け，東西方向に長い平面プランを持っている。遺構確認の際に東側に第98号住居跡とは別にもう1軒重複していると想定したが，土層の堆積状況から1軒の住居跡と判断した。時期は，重複関係と出土土器から9世紀後半と考えられる。



第258図 第121号住居跡実測図



第259図 第121号住居跡・出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表（第259図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
540	土師器	高台付椀	[15.9]	(4.7)	—	赤色粒子・雲母	にぶい黄緑	普通	内面へつ磨き	竈	30%
541	土師器	高台付椀	[16.0]	(5.1)	—	長石・赤色粒子	にぶい黒	普通	内面へつ磨き	竈	30%
542	土師器	甕	[15.8]	(6.9)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄緑	普通	外面へつ磨き後すず、内面すず	竈	10%
543	土師器	甕	—	[12.2]	[8.1]	石英・長石	にぶい黄緑	普通	体部外面下部へつ磨き	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M59	鉄	(4.9)	2.1	0.2~0.5	(11.6)	鉄	柳葉式鎌身、袋袷部断面四角形、先端欠損	覆土中	

第122号住居跡（第260図）

位置 調査区中央部のL16a8区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第12号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南壁が削平され、全容は明らかではない。現存する規模は長辺4.1m、短辺2.8mの長方形で、主軸方向はN-86°-Eである。壁高は20cmほどで、外傾して立ち上がっている。

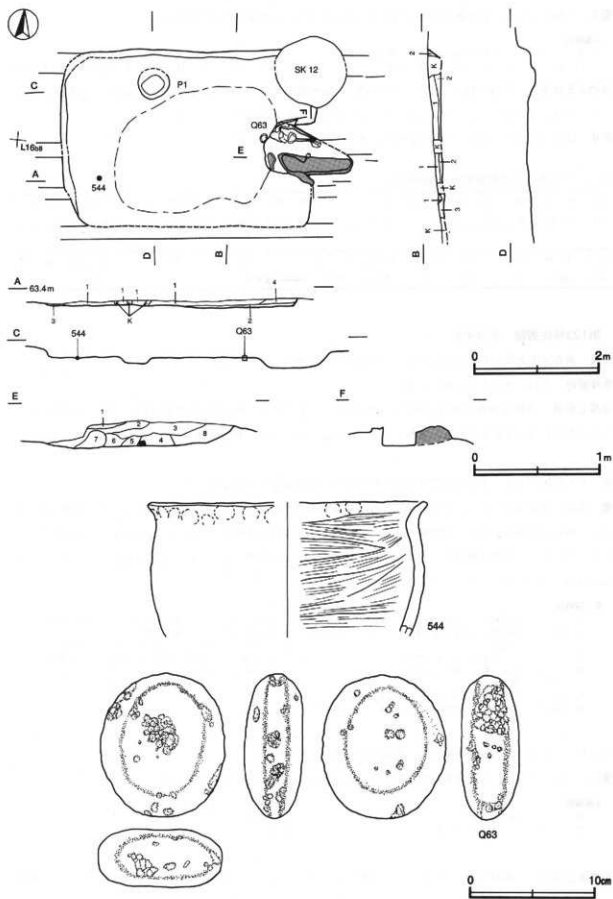
床 若干起伏があり、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁に構築され、中央部を東西に攪乱を受けている。規模は焚き口部から煙道部先端まで140cm、袖部幅は78cmである。煙道部は壁外へ70cmほど掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。天井部は失われており、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、煙道部にかけて熱を受けて赤変している。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子微量	5 褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量
3 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子少量
4 赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック中量	8 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量

ピット 1か所。P1は深さ12cmで、性格は不明である。



第260图 第122号住居跡・出土遺物実測図

覆土 4層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 4 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片44点(坏類11, 甕類33), 須恵器片9点(坏類6, 変類3), 石器1点(敲石), 鉄片1点, 石材7点が出土している。544, Q63はそれぞれ床面上から出土している。

所見 時期は, 出土土器などから9世紀代と想定される。

第122号住居跡出土遺物観察表(第260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
544	土師器	甕	[22.3]	[10.7]	-	石英・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部指でのナデ	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q63	敲石	11.4	9.8	4.7	726.0	安山岩	側面に使用痕	床面	

第123号住居跡(第261図)

位置 調査区中央部のL16b9区に位置し, 尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第14・40号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側は調査区域外に延び, 全容は明らかではない。確認された規模は長辺3.3m, 短辺3.1mで, 方形または長方形と推定される。主軸方向はN-101°-Eである。壁高は10~21cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり, 中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 東壁に構築されており, 焚き口部の一部と左袖が後世の遺構や掘乱によって失われている。規模は焚き口部から煙道部先端まで55cm, 袖部幅は50cmと推定される。煙道部は壁外へ35cmほど掘り込まれ, 緩やかに立ち上がっている。天井部は崩落しており, 第10~13層が対応する土層と考えられ, 右袖も残存していない。火床部は地山とほぼ同レベルで, 火床面が赤変している。

覆土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量 9 明褐色 ローム粒子多量
 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 10 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量
 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 11 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化物微量
 5 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物微量 12 暗褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
 6 明褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物微量 13 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
 7 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物少量, ローム粒子・粘土粒子微量

ピット 1か所。P1は深さ66cmで, 貯蔵穴の可能性が考えられる。

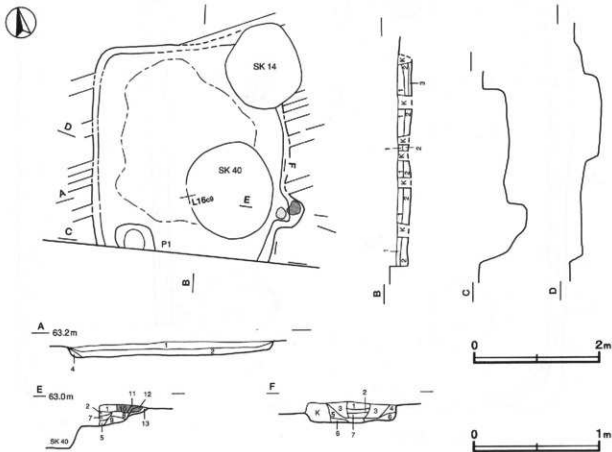
覆土 4層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 焼土粒子少量 3 明褐色 ローム粒子多量
 2 褐色 ロームブロック少量 4 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片58点(坏類33点, 甕類25点)の他, 掘設する過程で混入した弥生土器片1点, 須恵器片7点(坏類6, 甕類1)が出土している。いずれも小片のため, 図化できなかった。

所見 時期は、内面に黒色処理が施され、高台の径が小さい土師器碗の破片が出土していることから、10世紀代と考えられる。



第261図 第123号住居跡実測図

第124号住居跡 (第262～264図)

位置 調査区中央部のL17b2区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第126号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7m、短軸6.7mの方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は16～45cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 若干起伏があり、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は東壁と西壁に確認され、断面は逆台形である。

竈 北壁の西寄りに構築され、攪乱を受けている。残存する規模は焚き口部から煙道部先端まで75cm、袖部幅は152cmと推定される。天井部は崩落しており、第1層が対応する土層と考えられる。袖部は右袖が床面に粘土の痕跡を残し、左袖は砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じレベルで、火床面が赤変硬化している。

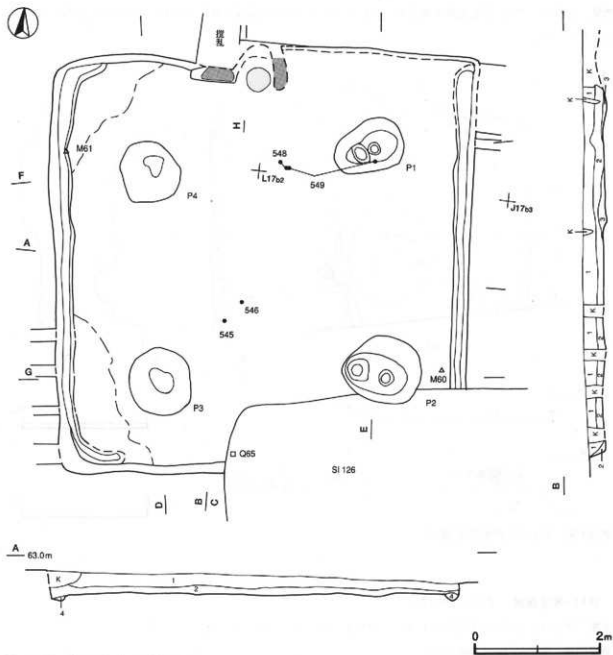
竈土層解説

1 褐灰色 粘土粒子中量、炭化粒子微量

3 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック微量

2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 4か所。P1～P4は深さ85～101cmで、支柱穴である。



第262図 第124号住居跡実測図

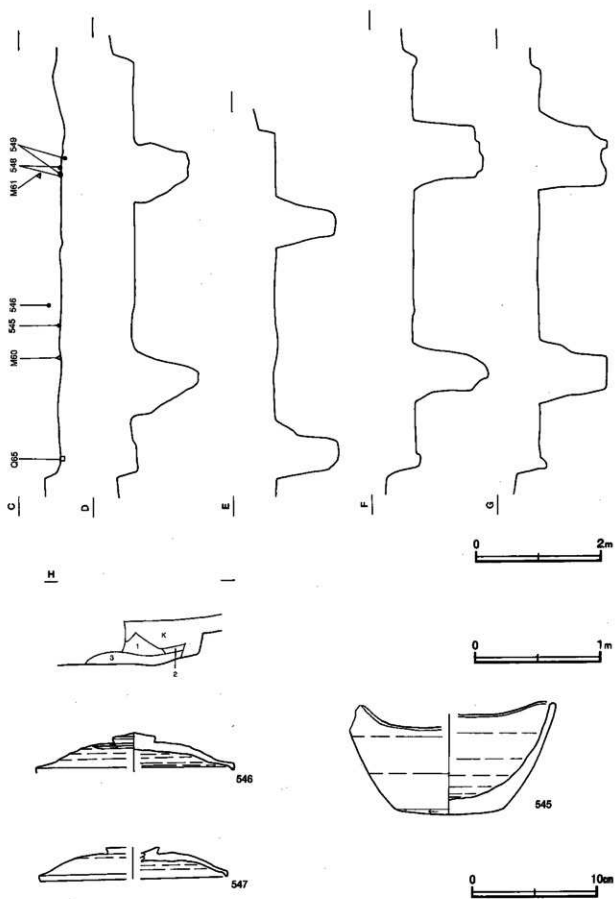
覆土 4層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

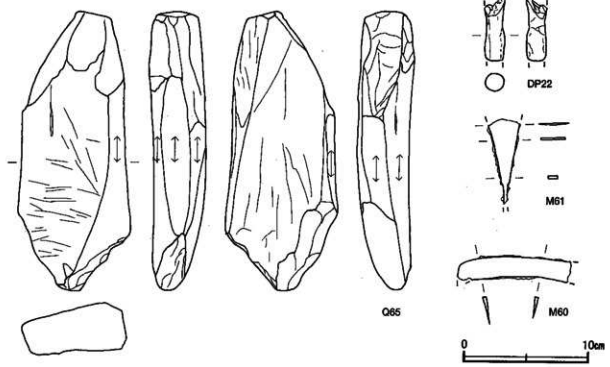
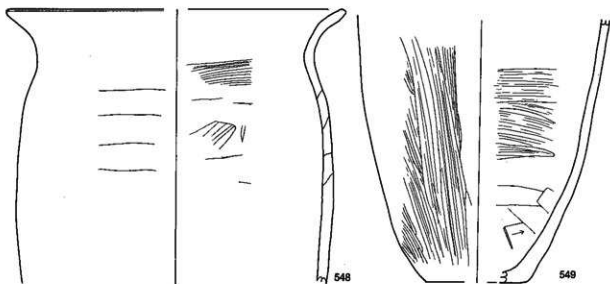
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片297点（坏類59，甕類238），須恵器片93点（坏類49，甕類43，壺1），土製品4点（支脚），石製品1点（砥石），鉄製品3点（鎌1，鎌2），石材10点の他、埋没する過程で混入した縄文土器片16点，石器1点（鎌）が出土している。545はほぼ正位の状態、546は逆位の状態それぞれ第2層中から出土している。545は頸部を破損したのち、破断面を磨いて再利用されている。548は竈前面の床面から、549は竈前面の床面とP1内から、M60は東壁際の床面付近からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から8世紀前葉～中葉と考えられる。



第263图 第124号住居跡・出土遺物実測図



第264図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表 (第263・264図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
545	須恵器	鉢	[16.8]	9.0	8.7	石英・黒石 黒色粒子	灰	普通	底部面能へう削り、破断面縦 線	床面	65%
546	須恵器	蓋	-	(3.0)	-	石英・黒石	灰	普通	天井部へう削り	覆土上層	40% 自然破
547	須恵器	壺	[14.3]	2.5	-	灰石・白色粒子	灰黄	普通	ロクロナデ	覆土下層	30%
548	土師器	壺	[26.5]	(21.8)	-	石英・雲母	褐灰	普通	内外面ナデ	床面	30%
549	土師器	壺	-	(21.0)	[8.0]	石英・黒石・雲母	にがい焼	普通	内外面ナデ	床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP22	不明	(5.1)	(1.6)	1.4	(10.8)	土	ナデ、指痕痕、両端欠損	覆土下層	
Q65	砥石	(22.3)	9.1	4.4	(953.0)	凝灰岩	砥面5面	床面	
M60	鎌	(9.1)	(1.9)	0.3	(16.1)	鉄	茎欠	床面	PL105
M61	鎌	(6.8)	(2.6)	0.2	(8.3)	鉄	柄又式カ、莖被部断面長方形、先端欠損	覆土上層	PL105

第125号住居跡 (第265・266図)

位置 調査区中央部のL17c2区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第126号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4m、短軸3.1mの長方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は38~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は北東コーナーから北西コーナーまで巡っており、断面はU字形である。

竈 北壁の中央部付近に若干粘土の堆積が見られることから破壊された可能性がある。煙道部の掘り込みも認められず、第126号住居によって削平されたものと思われる。規模・構造は不明である。

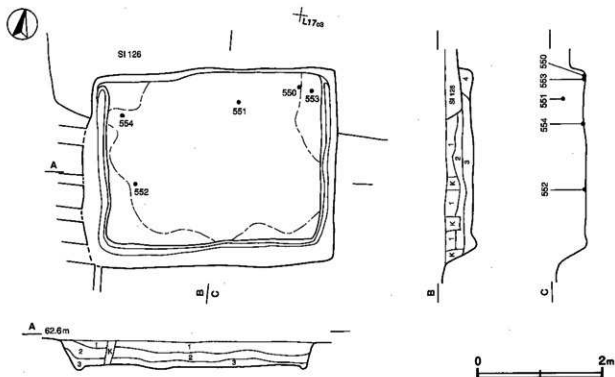
ピット 確認されなかった。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗灰色 | 粘土粒子少量 |

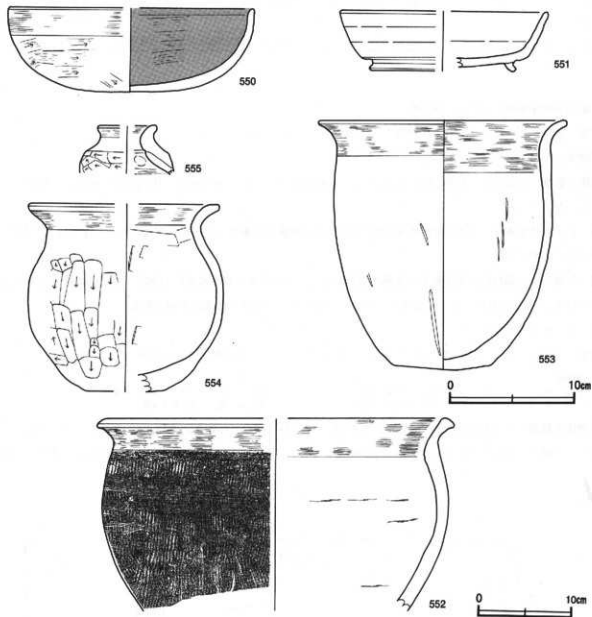
遺物出土状況 土師器片101点(坏類28, 甕類73), 須恵器片12点(坏類8, 甕類4), 瓦片1点の他、覆土に混入した縄文土器片2点が出土している。550はほぼ正位の状態、553は口縁部をほぼ北に向けた横位の状態



第265図 第125号住居跡実測図

で北東コーナー部の床面付近から、552・554は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



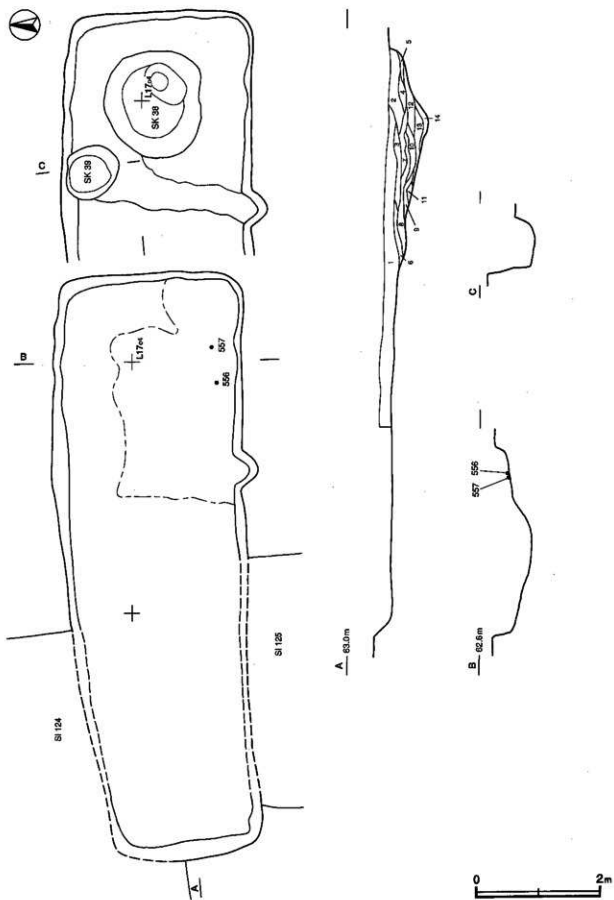
第266図 第125号住居跡出土遺物実測図

第125号住居跡出土遺物観察表 (第266図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
550	土師器	坏	[19.4]	6.8	—	石英・雲母	灰褐	普通	外面ナデ	床面	40%
551	須恵器	高台付杯	[16.0]	4.8	[11.6]	石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土上層	35%
552	須恵器	羹	[35.6]	(20.2)	—	石英・長石・雲母	灰	普通	外面格子状叩き、一部ナデ	覆土下層	15%
553	土師器	羹	19.6	19.8	7.9	石英・長石	にひ黄橙	普通	外面ヘラ削り後ナデ	床面	90% PL102
554	土師器	小形羹	14.9	14.9	[5.6]	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	外面ヘラ削り	覆土下層	70%
555	土師器	瓶々	[4.2]	3.8	[7.3]	石英・長石・雲母	赤靨	普通	外面ヘラ削り	P 2 覆土	5%

第126号住居跡 (第267・268図)

位置 調査区中央部のL17c3区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。



第267图 第126号住居跡实测图

重複関係 第124・125号住居跡，第38・39号土坑を掘り込み，第41号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸9.3m，短軸3.0mの長方形で，主軸方向はN-87°-Eである。壁高は19-30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，若干軟弱である。東側にロームを主体とする貼床が施されている。

炉・竈 いずれも確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

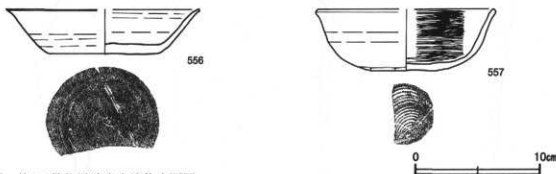
覆土 13層からなる。第2層以下はロームブロックを含む層が多いことから，人為堆積と考えられる。第7層は貼床の土層である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ローム粒子中量
3	褐色	ロームブロック多量，炭化物微量	10	褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量	11	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック少量
6	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	13	褐色	ロームブロック微量
7	明褐色	ロームブロック多量，炭化物微量			

遺物出土状況 土師器片141点（坏類48，甕類93），須恵器片44点（坏類22，甕類22）が出土している。556・557は床面付近から正位の状態で出土している。

所見 当初2軒の住居が重複したものとして調査を進めたが，土層に変化が見られず床面も同じレベルで続くことから一つの遺構と判断した。長大な竪穴状の遺構であるが，性格は不明である。第5・15号掘立柱建物跡と主軸方向が一致することから，これらの建物と関連があるものと考えられる。第38・39号土坑は本跡の掘り方の可能性がある。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第268図 第126号住居跡出土遺物実測図

第126号住居跡出土遺物観察表（第268図）

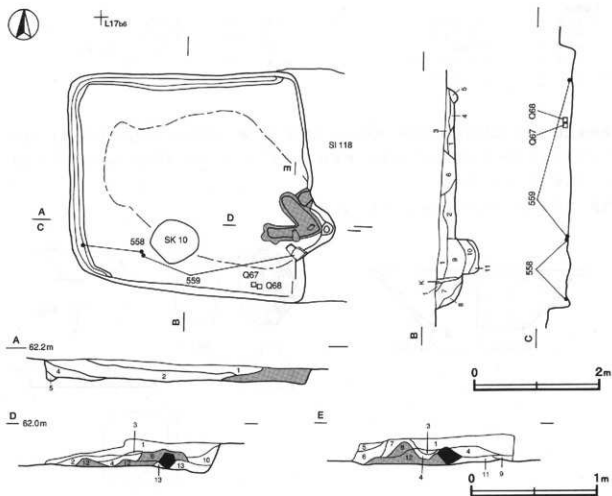
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
556	土師器	坏	[15.2]	3.6	8.4	石英・長石	にひ橙	普通	底部回転ヘラ削り	床面	50%
557	土師器	坏	[14.0]	5.0	[5.5]	赤色粒子	にひ橙	普通	内面ヘラ磨き，底部回転水切り，体部下端手捻りヘラ削り	床面	40%

第129号住居跡（第269・270図）

位置 調査区中央部のL17b6区に位置し，屋根上の平坦面に立地している。

重複関係 第118・130号住居跡，第10・64・222号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺3.7mの方形で，主軸方向はN-100°-Eである。壁高は14-27cmで，外傾して立ち上がっている。



第269図 第129号住居跡実測図

床 若干起伏があり、竈の前面から中央部付近にかけて踏み固められている。壁溝は西壁、北壁を巡っており、断面はU字形である。

竈 東壁の南寄りに構築されているが、破壊されて粘土が竈の前面に広がっている。規模は焚き口部から煙道部先端まで98cm、袖幅は111cmである。煙道部は壁外へ50cmほど張り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部と右袖は破壊されており、第8・12層が構築材の粘土と考えられる。右袖に当たる位置に石材があることから、これを芯材とし粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面と同じレベルで、煙道部寄りに石製支脚が設置され、火床面が赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------|---------|---------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 灰褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 流土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子微量 | 12 灰褐色 | 粘土粒子多量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 13 暗褐色 | 流土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | 流土粒子少量 | | |

ピット 確認されなかった。

覆土 11層からなる。第6・10・11層を除いて、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

第9・10・11層は第10号土坑の土層である。

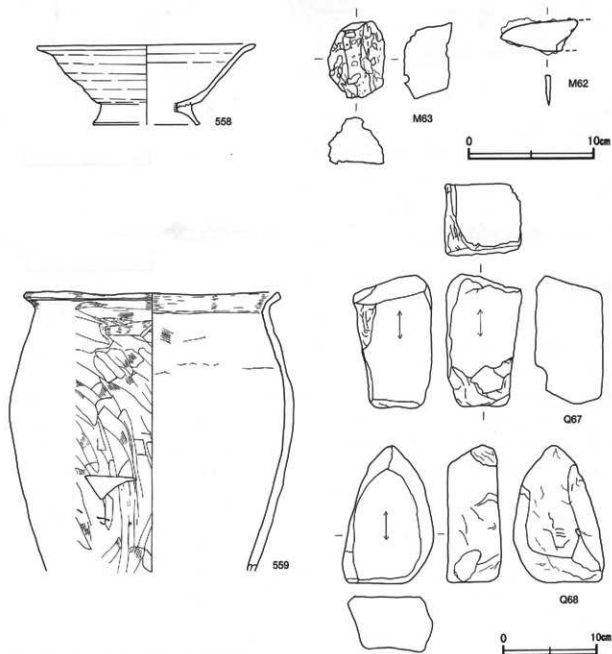
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック微量
6	褐色	ローム粒子少量

7	褐色	ローム粒子中量
8	にぶい褐色	ローム粒子中量
9	褐色	ロームブロック・赤色粒子微量
10	褐色	ロームブロック中量
11	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片245点(坏類96, 甕類149), 鉄製品1点(鎌), 鉄滓12点, 石材10点の他, 覆土に混入した弥生土器片1点, 須恵器片22点(坏類11, 甕類11)が出土している。558は西壁寄り, 559は竈付近と西壁寄りの床面上から出土している。

所見 時期は, 出土土器から11世紀前半と考えられる。



第270図 第129号住居跡出土遺物実測図

第129号住居跡出土遺物観察表 (第270図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
558	土師器	高台付瓶	17.3	6.5	[8.4]	長石	に濃い	普通	ロクロナデ	床面	60%
559	土師器	壺	26.4	(29.4)	-	石灰・長石・雲母	に濃い黄	普通	外面ナデ	床面	50%

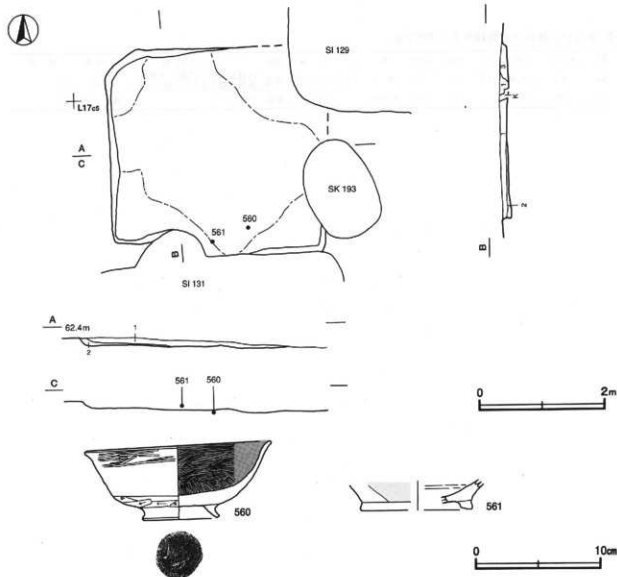
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q67	磁石	14.2	(8.3)	7.6	(1400.0)	砂岩	紙面2面	覆土下層	
Q68	磁石	(14.6)	9.5	5.2	(1060.0)	砂岩	紙面1面	覆土下層	
M62	鎌	(6.1)	(2.5)	0.4	(18.1)	鉄	刃断面三角形	覆土中	
M63	鉄滓	6.2	4.4	3.8	158.8	砂鉄他	着磁性弱, 表面一部白色	覆土中	

第130号住居跡 (第271図)

位置 調査区中央部のL17c5区に位置し、尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第129・131号住居、第193号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東コーナーを削平され、全体の形状は明らかではない。現存する規模は長辺3.4m、短辺3.1m



第271図 第130号住居跡・出土遺物実測図

の長方形と推定され、主軸方向は西壁の方向からN-1°-Wと推定される。壁高は14cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部付近が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

炉・竈 いずれも確認されなかった。北壁に煙道部の掘り込みなどの痕跡が認められなかったため、東壁に構築されていた可能性がある。

ピット 確認されなかった。

覆土 3層からなる。含有物を均等に含んでいることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片112点（坏類51，甕類61），灰釉陶器片3（瓶），鉄製品1点（不明），瓦片1点の他、埋没する過程で混入した須恵器片6点（坏類2，甕類4）が出土している。560は床面上からは横位の状態で、561は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から10世紀後半と考えられる。

第130号住居跡出土遺物観察表（第271図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
560	土師器	高台付甕	14.7	6.1	5.8	石英・灰石・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部外面・内面へラ磨き， 底部下指子持ちへラ削り	床面	75%
561	灰釉	瓶	-	(2.3)	[8.9]	黒色粒子	灰オリブ	緻密	ロクロナゲ	覆土下層	5%

茨城県教育財団文化財調査報告第224集

当 向 遺 跡 1
(上 巻)

平成16(2004)年3月24日 印刷

平成16(2004)年3月26日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 あけぼの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号
T E L 029-227-5505